

---

# 招き猫とお金とぼく！？バージョンアップ

みなつ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

招き猫とお金とぼく！？バージョンアップ

### 【Nコード】

N5890E

### 【作者名】

みなつ

### 【あらすじ】

招き猫とお金とぼく！？がバージョンアップしました！！本編では描けなかった、ひろしの学校生活の模様などをノリよく書いていきます！！～本編を見てなくても楽しめます～手直ししちゃってます

## 第1話朝はツライよね!?

「ひろし!!早く起きなさい!!遅刻するわよ!!」

「んー・・・後60分・・・」

「1時間じゃないの!!」

「んーんー」

「なに言ってるの・・・ほら早く起きなさい!!」

「ぶーぶー」

「豚か!？」

「ゲーゲー」

「鬼太郎!？」

「お化けにや学校もないんだよん」

「あんたはあるわよ」

「そこはノってくれないと・・・」

「あんたの母親だからしょうがないでしょ!!」

「それもそうか」

納得だよ・・・

「それより早くしなさい!!」

「はい」

いい加減起きようつと・・・ねむ・・・

えつと・・・ぼくは、鈴木ひろし、5年生です。

作者のきまぐれでまた出されています。(うつせーんだよ、ぼけ)

ごめんなさい。

「やあやあ、ひろし今日も見事に情けない顔やなあ!!」

「招き猫さん・・・おほよーございます」

「おほよーってなんやねん!!」

「噛みました。」

「素直でよろしい」

このお方は、招き猫さんです。

くわしいことは、本編でどうぞ!!

「今日はえらい激しく起こされとったなあ」

「今日は学校なんですよ。」

「寺子屋か!!」

古い!古いよ!!

「招き猫さんは、寺子屋に通ってたんですか?」

聞いてみた。

ばーん

殴られた。

痛かった。

「痛い……です……」

「当たり前やろ!!わいの猫パンチやねんからな!!」

(猫パンチ久々!!いえーい)

作者出過ぎ……(うつさい)

ごめんなさい。

「わいはな、それでも結構若いぞ!!ぴっちぴちやぞ!」

「はい。ごめんさい」

「ごめんさいってなんやねん!」

「字余りです。」

「まさかの字余り!?いやいや字余りちゃうやろ!」

「それつまわりませんでした。」

「素直でよろしい」

素直が1番!!

おんりーわん

「ひろし!!速くしなさい!!っほんとに遅刻よ!!」

お母さんの声で時計を見ると……

7時46分だった。

「やつばいイイイ!!……!!」

「そんなヤバイんか!」

「はい!!」

「じゃあさー、じゃあさー、もしも小野小町と織田信長が入れ替わったらって時とどっちがヤバイ??」

「その時の2人の状況は!??」

「えつとなー・・・織田信長の姿で小野小町がくあれ、およしになつてえくお代官様く、あれ、私は3大美女ですよ、うはうはですよ、あれ、さとうきび食べたいく>

って言うとうねん」

「うつわく、キツイっすね!!それは・・・おえ・・・」

みんなも想像してみてくださいよ!!

肖像画に書かれているような織田信長という男があんなこと言うてるんですよ!??・・・おえ

「んでなー、小野小町の姿で織田信長がく拙者は、最強でござる。なんびとたりとも拙者には

敵わないのでござるよ。ふわーっはっはっは!!さとうきび食べたい>

って言うとうねん」

「うつわく、ナルシだあく・・・ひく。しかも小野小町の姿で!!さとうきび好きなんですか??」

「しらん。」

しらんって・・・

「ひろしイイイ!!!!!!!!!!」

お母さんの100万ドルの夜景をみたホームレスの声のような声でもう1度

時計を見ると・・・

7時58分だった。

「おう!!のつと!!ぐつと!!」

自分でも訳不明なことを言いながら下に急いで下りた!!!!  
と思ったら・・・

ゴン

滑ってこけた。

「痛い！！なんでこんな所にバナナの皮が！？」

階段にバナナの皮がおちていた。

なぜえ~~~~~???

ってやってる場合じゃない！！

「その皮、昨日わいが捨ててん」

満面の笑みで招き猫さんがそんなことを言っております・・・

「なぜえ~~~~~??」

「うほうほ食べとったからな！！」（キラーン）

あーなるほど・・・って納得するところじゃないぞばく！！

しつかりするんだ！！

お前は、強い子なはずだろ！？

「なあ、なあとつちがヤバイん??」

「え！？あー、さっきの話ですか・・・えーとって答えてる場合じゃないんですよ！！」

「ひろし！！健太<sup>けんた</sup>くんと淳<sup>あつし</sup>くんが迎えに来てくれたわよ！！」

「え！？マジ！？すぐ行く」

やばばばい、やばばばいやいやい

「じゃあ、いつてきますね。招き猫さん！！」

「どつちがヤバイ??」

「ひろし！！速くなさい！！」

「はい！！いつてきまーす」

## 第1話朝はツライよね！？（後書き）

どーも

久かたぶりの招き猫とお金とぼく！？です！！

あらすじにもありますが・・・学校生活の模様を書いていきたいと思っております

もちろん・・・

海月先生のあのキャラも・・・

登場しますよオ（＾０＾）ノ

ともかくにも

ヨロシクおねがいたします！！

## 第2話ひろしのお友達

「おつす!!ひろし遅いぞ!!」

「寝坊か!?!てか、聞いてくれよお・・・今日の占い・・・7位だったんだ」

「ごめん!!寝坊した。それと淳!!微妙だな?」

「うん、でもこういう中途半端な順位だから頑張れるんだよ!!」  
「そうですか・・・ってかその論理なんですか?」

まあいつか

「ってか急ぐぞ、2人とも!!」

健太の声でばくと淳も走り出した。

健太と淳っていうのは・・・ぼくのダチだ。

ダチ居たの!?!とか言わないで・・・

ちよこつと紹介すると

ささがわけんた

健太は、笹川健太ささがわけんたについて、ぼくと同じ野球部、ピッチャーをや  
つてる。意外と球速いんだよ!!

顔は・・・うん、まあ・・・よく分かんない

はつきり言つて、超ドSだと思う。

それに加えて

家族が超ヘン

もうなんていうか・・・

ヘン

人のこと言えないけど・・・ヘン

それから、毎朝、毎朝、毎朝シャワーを浴びている。

ヘンな家族の中では1番まともカモだけど

今にもつとヘンになるんじゃないかと、

ばくと淳はひそかに期待・・・じゃなくて心配している(海月先生  
許してね)



で、山田淳<sup>やまだあつし</sup>、またまたぼくと同じ野球部、キャッチャーをしていて健太とはバッテリーだ・・・けど占いの結果が悪いと試合にこないし、練習にも来ない時がある・・・。  
ある意味引きこもりらしい・・・やたら設定の多い可哀想な奴・・・  
ぼくが人のこと

いえんのかな・・・はは

んで、もう分かってると思うけど占いLOVEだ。顔は・・・童顔で髪が結構長い、背が高い、女装が似合いそうな感じ・・・  
で、かなりのヘンタイ！！健太LOVE

ぼくは、この恋を応援している。

健太もいい加減受け入れてあげればいいのに・・・

とまあ、こんなとこです。

ちなみにぼくは、サードです。

「ふー・・・ギリギリセーフじゃないぞ！！遅刻だ、馬鹿3人衆」  
学校に着いてギリギリセーフかと思いきや・・・

見事に遅刻だった

はあ・・・ついてない・・・ぼく達の担任の宣長先生<sup>のぶなが</sup>・・・もとのぶつちに遅刻を見つけられるなんて・・・

「笹川、山田、鈴木はバツとして1週間トイレ掃除な！！」

「・・・ええ・・・！！」

ぼく達は、一斉に非難の声を上げた。

「ええ・・・じゃない！！」

「ほえ・・・！！」

「ほえ・・・でもない」

ほえ・・・と言ったのは、淳です。

「それから、お前もトイレ掃除だぞ！！<sup>おいかわ</sup>及川」  
ギクっとなっているのは、

クラスメートの及川忠志だ。  
おいかわたし

「なんで俺まで便所掃除なんだよ!!」

「遅刻してるからだろうが!!」

のぶっち・・・ごもつとも

「バナナ、わがまま言っなって」

「だつてよぉ!!」

バナナっていうのは、忠志の渾名だ。

理由は、髪が金髪だから

「いいじゃんか 占いでは、掃除が吉なんだからさあ」

「黙れ占いオタク」

バナナそれはヒドイぞ

まあ、ぼくはもっとヒドイことされてるけどね・・・ふふふ

「ひ、ひどい・・・うわーん!!」

ばたん（トイレが閉まる音）

淳は、傷つくとトイレに引きこもる傾向がある。

ぼくの方が逃げたいよ・・・ふふふ

「こら、山田!!もうすぐ授業始まるぞ!!」

「無駄だよ、のぶっち!!淳は1回引きこもると気がすむまで出てこないから」

健太の言つとおり。

試合にも出てこないような奴だぞ!!淳は・・・

でも、健太が呼んだら出てくるって

「とりあえず、お前らだけでも教室入れ!!」

「教室入ったら便所掃除なしにするか!？」

バナナ!!それはむちゃくちゃだろ!!

「いいだろう」

いいの!？」

「じゃあ、俺らもいいでしょ!？」

健太もかよ!!

「あー!!分かった、分かったもういい!!」  
いいの!!?

「じゃあ、全員なしだな!!」

「あー、分かった」

分かつちやつたよ!!

マジでいいのかなぁ・・・ラッキーだけど・・・

「人の好意はありがたく受け取るもんやで!!」

「そうですよねえ」

ん!?

なんか嫌な予感がひしひしとするんですが!?

そおくと後ろを振り返ってみる・・・

「よつす!!わい招き猫」

!?

「ま、ま、ま、招き猫さぁ~~~~ん!!??」

大声で叫んでしまった。

「ひ、ひろし??どうした??」

健太が大丈夫(頭)って感じでこっちを見ていた。

「鈴木??」

「頭打ったか!??」

のぶっちと忠志もほわっつ!??って感じでぼくを見ていた

「え、えと・・・なんでもありませんよ!?!ノーノーオツケー

!!イエーイーへいへい!!ふー、

さあ、今日も勉強がんばれもんっすね!!へい行くぜ!!我が教室へ  
れっつらごーごー」

みんなの視線が超痛いつす・・・

しっかりしろ!!

ぼくは強いはずだろ!?

「よ、よし！！じゃあ教室行くぞ」

のぶっちの声でぼく達は教室へと急いだ。

学校でまで・・・

招き猫さんにあんなことやこんなことされるのか！？

（ひろしはパニックって冷静な判断ができない状況であります。）

## 第2話ひろしのお友達（後書き）

はい！！

学校でも招き猫さんを出します

それと海月先生ちよつとごめーんね

でもお互い様つしょ！？

ひろしはどうなるんでしょうね？

まあ、いつもながら私の好きなように書くんですけどねえ！

### 第3話グレル寸前!?

ピンチ!!

ピーチ!!

ぴんラ!!

なんのこっちゃ!!

・・・じゃなくて・・・何やってるんだ、ぼくは!?

招き猫さんが学校に来るといふ

ぱららーらマンゴーのような衝撃展開です。

ぱららーらマンゴーってなんだ!?

まあいいや

連載始まってまだ少ししか経ってないのに・・・

ぼくは、死ぬのか!?

ヤダ矢田矢田矢田矢田矢田矢田矢田イヤだよお~~~~~!!

!!!!

矢田さんっているかな??

じゃなくて!!

えつとお・・・もう!!

パラリラ

マジでなにやってんだ!?!ぼく!?

「・・・なあなあ・・・ひろしの奴何やってんだろっな?。」

「・・・そうだな・・・マジで変な奴だな」

健太とバナナがそんなことを話しているとは知るよしのないひろしであつた。

ちなみに

健太とバナナは席が縦に並んでおります。

健太達から見たひろしは・・・

もだえてます!!

葛藤してます！！  
ぐおおです！！

「よし、みんな席に着いたなあ！！」

のぶっちがなんか言ってるけど……

それどころじゃないんだ！！

「先生、山田君がいませんよ」

「あいつはいいんだ」

なんか諦めてる感あるけど・・・

それどころじゃないんだ！！

「じゃあ、出席をとるぞ」

出席！？？？？？？？

あーもう！！

はははははははーい

「……及川へい」「……木南はい」

「……… 笹川「はい」……… 鈴木、鈴木、す・ず・き！！  
すずき————！！！」

のぶっちがなんか言ってるけど……

マジにそれどころじゃない！！

だって、だって、だって

招き猫さんが

のぶつちの後ろに居たから。

は  
もう笑うしかないよ・・・

[illegible]

(泣いてるちゃん)

いぬちい！

「鈴木返事ぐらいしろ!!」

のぶつちがぼくの所に来てそんなことを言っていますが、  
ぼくは、後ろの招き猫さんが気になって  
それどころじゃないんだ!!

「よう!! ひろし」

ようじゃないですよ!!

早く帰ってくださいよ!!

と身振り手振りですべてみますが・・・

「何!?! わいが来てくれて、超×100嬉しいやと!?!  
てれるやんけえ」

「ちつが——————う!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

!?

教室中騒然となっています。

うん、なんかもう、うん

最悪だね。

「お前の名前は鈴木じゃないのか?」

のぶつちがぼくに向かってそんなことを言っています。

名前??

あー、出席とつてるんだった。

まあいつかあ（なげやりやな）

なんかもうどうでもいい

（小学5年にして人生なげたか!?!）

・・・

「あー、ぼくの名前鈴木ですよ。」

「だったら、返事ぐらいせんか」

「はい」



「それでよろしい!!」

そうですか、はいはい

そんなにはいが好きですか、はいはい

「ひろし、返事はちゃんとしなあかんで」

誰のせいだと思ってんだよ

### 第3話グレルの寸前！？（後書き）

えっと・・・

ひろしのキャラが変わってますね

でもいいんです！！

気にしたら負けなんですよ！！

それにひろしの行く末なんて見えてるじゃないですかー

次回、

ひろし大暴走！？かも

第4話グレた感あるけど実際あんまグレてないですよ。

キンコーンカーンコーン

あー

チャイム鳴ったねえ  
・  
・  
・

休み時間みたいだねえ……ケツ……

さっきからぼくのことみんなちらちら見てるし！！見てんじゃねえよ！！

あ、あ！？

犯すぞ。

51

ざっけんじゃねええええええええええ！！！！

「ひろし！」

「あ!？」

「怖いなおい」

健太とバナナが話しかけてきやがったよ  
ケツ

「さっきはどうした?」

バナナが聞いてきやがった。

「どうもしてないよ?」

とりあえず、できるかぎり笑顔で話す……ふふふ、あはは

「ひろし、その顔キモいつて……」

キモいって・・・健太ひどくない！？

笑顔なただけどなあ・あははははははは

「いや、だからキモいつて……」

「なんでえ？笑ってるじゃん……ふふ」

笑ってるのに・・・

糞野郎が

「てか、何があつたんだ??」

何があつたあ??はあ!?

言つても信じないつてか頭おかしいと思うだけのくせに

ふざけんなよ?このバナナが!!

世の中誰も信じらんねえよ!!ケツ

やってられつか!!

酒持つてこーい!!

「おっけーやで」

「あん!?

不幸の現況のような招き猫・・・さんの声が聞こえやがったような・

・

「ひろし!?あんつてなんだ??あんパンでも食いたいのか?」

健太は、不思議そうにしていた。

あんパンは別に食べたくないけど・・・

「なんでもない」

またできる限り笑顔で言う。

「おい!!ひろし、酒持つてきたでえ」

・・・

完璧、招き猫さんやん

「ひろし??コジキのヤクザみたいになつとつで??」

コジキでヤクザつてどんなんだよ

「とりあえず、酒飲め」

「何言つてんですか!?!ここは、学校ですよ!?!しかもみんなには、招き猫さんの姿が見えてないんですよ!?!」

できるかぎり小声で話す学習能力のあるべく。

「だから?」

だからじゃねえええええええええええ!!

「酒」

いやいや

ぼくは、招き猫さんを人の居ない所に連れて行った。

「なんやねん！？ひろしこないなとこに連れて来て！！」

「あのですね」

「ま、まさか！告白か！？」

「いや」

「そうか！告白か、ひろしの気持ちは分かった」

「いや」

「分かつとう、分かつとうから！！何も言っな・・・」

「おーい」

「何も言っな言ってるやろ！！」

「・・・」

「よし！ひろしの気持ちは分かった。けどな、わいらは男どうしや！！ひろしがどんなにわいを好きでもな、超えたらあかん一線ってあるやろ！？ひろしの気持ちは悪いんじゃないで！？ひろしのキモい気持ちが悪いんじゃないから！？分かつとう、分かつとうからな！？」

「気まずくとかならへんから心配せんでええねんで！？キモイ気持ちがありがとう！！」

「うっわ・・・」

「突っ込みどころ多！！」

「あー」

「わかじゃっるー！！」

「わかじゃっるってなんですか？？」

「新種の言葉や」

「噛んだんですね。はい、はい」

「ぼく告白するために連れて来たんじゃないんですけど」  
「何イイイイイイイ！」

男は、黙って！！

じゃなくて・・・

その驚き様がなにだよ

「じゃあ、なんのために？？」

「心底不思議そうに言わないで下さい。」

まったく

「なんで学校来てるんですか？？」

ぼくは

かなああああアアあり当然の疑問を言ったのですが

「なんでって、楽しそうやなあって思ったから」

「はあ！？」

ム力ついた。

腹たった。

「学校に来て暴走されたらぼく困るんですよ。」

「知っとう」

「空気ヘンになるんですよ。」

「知っとう」

「みんな心配して、親切にしてくれたりするんですよ。」

「知っと・・・知らんわあああ！！」

びつくりするなあ

「親切ってバリええことやん！？」

そうですね

「なんでそんなんがひろしに！？」

頭大丈夫みたいこと思ったり、同情してるからでしょ

「ひろしにええことが起きるなんて世界は、終わりやアアあああ

！！」

そこまで？

「作者！！なにやっとなねん！？ひろしにええこと起こったらか

んやろ!？」

(いいこと起こってないじゃん)

「おおそうやったな!!」

(解決やる?)

「うん」

解決早いなあ

作者は、ぼくにいい思いをさせる気はさらさらないようだ  
ひっどいなあ

「まあ、まあいつものことやん」

「そうですね・・・って心読みました!？」

エスパー!？」

「何ゆうてんねん(笑)口に出しとったで!？」

「マジですか!？」

「マジマジ」

おうのう!!

無意識の内に口に出してしまうなんて・・・老化現象!？  
しよっきんぐー

ってこんなことするキャラだっけ!？」

ぼくって・・・

「まあそういうわけやから」

なにが!？」

そういうわけってどういうわけ??

ほわい!？」

ほわっつ!？」

ぼくなんにもワカリマセン

「ひろしってさあゝ、ヘンやな。」

「今さらですか??」

「自覚あつたん!？」

一応

「ようするに、楽しそうだから学校来たわけですか?」

「うん」

「酒とか言ってたのは？」

「楽しい」

「告白とかは？」

「ネタ」

「ネタ考えたのは？」

「今さっき」

「キモい気持ちっていうのは？」

「ひろし」

「ひどいですね」

「いつも」

納得のいく答えをどうもありがとうございました。  
しくしくしく

泣いてるんじゃないやい！！

目から汗が出てるんだい！！

「あー！！」

「どうしたんですか??」

招き猫さんが肝心なことを忘れていたような声を出しました。

「どっちがヤバイ??」

・・・朝の話しに戻ってるやんけええ！！！！



第4話グレた感あるけど実際あんまグレてないですよ。(後書き)

どもです

結局招き猫さんは、朝の答えが心底ほしかっただけですねエー！

まあ、ひろしやからええやあ

ひろしに良い思いさせるかは、ワカリマセン  
って感じですので

## 第5話ひろしの家って実は・・・

とりあえず招き猫さんには、帰ってもらいました。

招き猫さんは、

えゝ

って感じだったけど・・・

結局しぶしぶ帰っていきました

「ひろし、何にやけてんだよ？キモいつて」

健太・・・どんな顔しててもぼくはキモいんですね？

よく分かりました。

「んー、なんでもないよ。キモいつてヒドイよー!!」

「さつきもキモかったけど、今はもつとキモいな（笑）」

だからなんちゆうこと言うんですか!?

傷つくよ・・・

まあ

今は、普通に機嫌いいから　いつか

らんらん

スキップ、スキップらんらんらん

「何キモい顔してんだよ・・・ひろし・・・」

2人連続で言わないでくれるとありがたいんですけど・・・バナナさん？

「キモい顔つて2人ともヒドイよー!!」

「悪い、悪い、マジキモかったからさあ」

「それ、マジ失礼ですから!」

むっかあゝゝ

つてか、バナナだつてぼくのことと言えるような顔してないじゃん!!

「冗談だつて!怒んなつて!!もともとそんな顔だったよな」

「そうだよ!!」

つて・・・ん!?

「なんでじゃああ嗚呼亜あ亜ああああ!?!」

はっ!?

みんなびっくりしてる・・・本日2度目でございます  
しくしくしく

(よく泣くな)

おんどのせいじゃあああ!!

(そんな口聞いていると思ってるの?)

すいません。

いや、マジすいません。

ちよつと調子に乗りたい年頃で・・・

マジすいません。

なんなら

土下座します。

(分かればよろしい)

あざっす

「ひろし・・・?」

健太が精神病院連れて行こうか??的な感じでこっちを見ていた。

「精神病院は、大丈夫だから」

「あ!そうなん??連れて行こうと思ってたのに・・・つまんね」

そこは、否定しようよ!!

マジにつまんなそうに言うのもやめよ!!

健太って・・・ふう・・・

「ひろし、マジ冗談だからすまん。」

バナナが謝ってきた。

うん、まあ、ぼく人間できてるし!?

許してあげないこともないけどね!?

「別にいいけど」

「あつそ！よかった、じゃ、今日はもうサボるわ！！」

あつそってなんじゃござーーーー！！！！

まあ

人間できてるからいいけどね！？

「じゃーな、バナナ！！」

「じゃーな」

健太と一緒にバナナに分かれを告げた。（死んだみたいやん）

そして

あつと言つ間に学校は、終わりましたあ

いえーい

ぼく達は、いつもメンバーで、いつもの帰り道を歩いています。

「てか、みんな酷いよ！！」

大声ですねたように怒鳴っているのは、淳

ぼく達がトイレに引きこもっているのを止めさせるところか、忘れていたので怒っているのだ。

「だーから！！ゴメンって言ってるじゃん」

とか何とか言いながら、楽しいそうなのは、健太だ。

「じゃあ、健太がデートしてくれたら良いよ」

「ぎよえ！？」

何故か変な声を出した健太・・・

いいじゃん、デートしてやればいいのに

「なんだよお・・・その反応は！！」

「何度言ったら分かるんだ？俺は普通の少年なんだよ！！そんな道

に行くつもりはない。」

健太って普通だったの？

ぼくは近くに居る男みんな愛人だと思ってたよ？

「健太って普通だったの？」

声を出してみた。

「おい。ふざけんなよ？俺をなんだと思ってやがる」

「え？ピーだと思って・・・ざけんな」

思いつき健太にどつかれました。

痛いなあ・・・招き猫さんで慣れてるけど

「健太デートしてくれるのか！？」

「するわけねえだろ！！」

「ひどい！！トイレがない！！」

引きこもるつもりだったの？

そんな感じのいつもの帰り道でした。

「だだいまー！！」

家に着いて、いつもどおり部屋にランドセルを投げ捨てた。

「ひろし、お帰りー」

なぜかハイテンションで俺を迎えたお母さん。

なんかあったのかなあ？？

「ねエ、ねエ、ひろし」

「何？？お母さん」

何かを聞いてほしそうにしているお母さん。

やれやれ、世話のやける親だ

「どうしたの？？機嫌いいけど」

「んっふふ 実はねエー 今日、久々にご飯が早く食べれそうなの」

・・・は！？

「それだけ？？」

「うん」

「あつそう」

へんな母親。子供の顔が見たいよ。

「ひろし、気付いてないの??」

「何に??」

「早くにご飯ということは・・・ふふ」

あー

そういうことか

「今日は、姉ちゃんと兄ちゃんが2人とも早く帰って来るの??」

「大正解」

謎はすべて解けた!!

「ただいま」

「ただいま」

「きゃー!! 帰って来たわああ!!」

そうこうしている内に兄ちゃんと姉ちゃんが帰って来たようだ。

お母さんが騒ぎすぎと思うかもしれないが、我が家ではこれが普通だ。

「おつかえりー!!」

「ただいま、お母さん」

「母さん、飯は?」

「はい、はい」

がちゃ

兄ちゃんと姉ちゃんがぼくの居る、リビングに入ってきた。

「ただいまー!! ひろしー」

「お帰り。姉ちゃん」

「なんだ、なんだー!!? テンション低いぞー!!?」

単純に姉ちゃんが高いんだと思うが……

「お前が、高いんだろ？」

「ひどーい！！お兄ちゃん！！これでも抑えてるよ！？」  
それで抑えてんの！？

「あー、兄ちゃんお帰り。」

ぼくは、兄ちゃんに声をかけた。

「ん？あーただいま」

兄ちゃんは、冷蔵庫を開けながらぼくの声に答えた。

ぼくは、実は5人兄弟だ。

上から……

兄ちゃん、姉ちゃん、ぼく、弟、妹だ。

作者が紹介しろと言っているので、紹介します。（余計なこと  
言うな）

兄ちゃんは、鈴木<sup>すすき</sup>苳<sup>れいし</sup>支

高校2年生だ。

クールであり喋らないけど、たまに天然ボケをかます。

サッカー部のエースでサッカー馬鹿。明けても暮れてもサッカー、  
サッカーだ。

ルックス良し、頭良し、スポーツ良しの完璧人間だ。

もちろんモテモテだが、付き合ったことはない。女嫌いだから。

姉ちゃんは、鈴木<sup>すすき</sup>杏<sup>あんり</sup>里

中学3年生だ。

兄ちゃんとは、正反対でテンション上げ上げ。元気であかるすぎる。  
バスケ部の副キャプテンでバスケ馬鹿。明けても暮れても、以下省略  
受験生だっというのに余裕なのは、バスケ推薦が決まっているから  
である。

姉ちゃんも美人だし、頭も良い、スポーツもそつなくこなしている。

兄ちゃん同様モテモテだが、付き合ったことはない。男嫌いだから。ちなみに、健太の姉ちゃんと同じクラスである。

そして・・・

「苓兄達帰って来てんの!？」

弟の、鈴木ハルキ

小学3年生だ。

はつきり言っと、見た目も、中身もチャラ男である。

小学生でピアスをつけている。パイポも吸っている。髪は、茶色だ。ちなみに地毛。

バナナの話しでは、将来有望な不良らしい。

女の子をとつかえひつかえしている。この若さで・・・お兄さん悲しいよ!!

でも、モテる。やたらモテる。

顔はものごつつう良いから。そこらへんのアイドルユニットよりよっぽどイケメンだ。

でも、頭は悪い。

「苓兄ちゃん、杏姉ちゃん、おかえりー!!」

妹の鈴木さくら

小学1年生だ。

おとなしい子だけど、友達は多くてクラスでも人気者らしい。

劇団に入っていて、将来は芸能人だと言われている。

キレると手がつけられない。

はつきり言って、顔はがっさ可愛い。運動は、平均よりちょい下ぐらいだ。

勉強は、テストでいつも100点というほどの出来っぷり。

どうせ似てないですよ。



兄弟の誰ともね。けっ  
どーせ

出来損ないですよ。

けっ

誰からも期待されてませんよ。  
平均人間ですよ。

## 第5話ひろしの家って実は・・・（後書き）

ひろしがヒガんでいるので強制終了です（笑）  
えっと・・・

実は5人兄弟でしたー

エヘ

じゃすみませんね、はい。

1人、1人の紹介話を書いてく予定なので、詳しくはその時に

## 第6話ひろしと苓支

えつと・・・

どーも 作者です。

いやあー、ひろしが5人兄弟だなんて・・・まいりましたね!!  
え・・・設定したのあんただろって??

細かい気にせんでええやん

あのご飯から、1日経ちました。誰がなんと言おうと1日です。

今回は、ひろしの兄である、苓支れいしの紹介話になりますので・・・  
紹介話ながらに、楽しんでもらえたらと思います

え・・・!!?

なんで、作者が登場してるのかって!?!出たかったそれだけです!!  
では、

どうぞー

「兄ちゃん!?!居るー??」

ひろしです。

今日は、土曜日。

学校が休みなので、兄ちゃんとなんとかしゃべろうかなあと思っ  
て、今兄ちゃんの部屋の前に居ます。

ストーリーカーっぱいとか言わないで!!

「おう。居るけど」

どうやら兄ちゃんも今日は、めずらしく部活が休みらしい。  
ぐっとないみんぐ

普段の行いが良いからね!!イエーイ

「入るよー!？」

「おう」

がちゃ

「どうした？ひろし」

「んー、特に用はないけど・・・なんとなく最近しゃべってないからしゃべろうかなあって思ってた!！」

兄ちゃん言葉にそう返した。

「ふーん。まあ、なんでもいいけど」

いいんかい!!

「じゃあさー、兄ちゃん最近学校はどう?？」

「なんだよ、その親みたい質問」

「いいじゃん!!」

「んー、まあどうでもいいけど」

いいんかい!!

「どうって・・・普通。」

「ふーん」

・・・会話終了??

「テストとかは、ないの??」

「ある」

あるんかい!!

「てか、もう終わった。」

終わったんかい!!

「どうだった??」

聞かなくても分かることを聞いた。

「普通」

普通が相変わらず多いな

「普通って・・・兄ちゃんの普通って普通じゃないじゃん!」  
兄ちゃんは、

いつもいつも普通と言っているけど、学年トップの時とかあるし・

・  
「そうか？」

「そうだよ!!」

「んー・・・ってか結果忘れた。」

・・・うん。兄ちゃんはそういう人だ。  
うん、うん

「結果って忘れるもんなの??」

「さー」

さーって・・・

「ほかの奴に興味ないし」

さいですか・・・

「じゃあさー、高校には可愛い人とか居ないの??」

あまり興味なかったけど、話し続けるやオーラってか殺気がするの  
で、聞いてみた。

答え分かってるけど・・・

「知らね。」

やっぱり

「興味ない。」

やっぱり

「ってか、女子って居たっけ？」

共学ですから!!

「居るよ」

「あー、そう」

「こないだってか、今も机にラブレターあるじゃん・・・」

机の上には、大量のラブレター・・・

チラッと見ただけでも、30枚以上はあるっばい

「ラブレターってなに？」

はい!?

「うまいの？」

うまくないです！！

てか、食べるな！！

「調理法は、どんなの？」

調理するな！！

バター焼きがいいかも！！

・・・ってちがーう！！

「兄ちゃん・・・ラブレターっていうのは、自分の気持ちを文章に表したものだよ」

自分で言っていて馬鹿らしくなってくる。

「ふーん、うまい物食いたいとか？」

食べることにしかないんかい！！

「違うって・・・」

「じゃあ、何？」

「んー、やっぱりあれでしょ？あなたが好きですー！！っていう・・・自分で言って恥ずかしいわ！！

「断る。」

はい??

「俺達は兄弟だ」

告白ネタ多すぎだろ！！

「いや、ぼく兄ちゃんにラブレター出してないから！！」

「あっそうか。」

はい、そうです。

「まあ、どうでもいいや」

結局それ!?

「ってか、お前はどんなの？」

「ほエ!？」

へんな声出た。

「最近」

「あー、んー・・・普通かな??」

「お前も普通って言ってんじゃないよ。」

「あ!!」

ほんとだ・・・

「健太と淳は、元気か？」

「うん!! 元気過ぎて困るよー!!」

「そうか」

「うん!! 昨日なんかまさ、淳トイレに引きこもってさー!」

「またかよ(笑)」

「うん!! で、ぼくと健太忘れてたんだよねー」

「ひつでえなー、お前ら」

「えへへ」

「えへへじゃねエし(笑)」

「とか何とか言いながら、兄ちゃんも笑ってるし!!」

「俺は、いいじゃんよ」

「なんで!？」

「なんでも」

兄ちゃんは、まったく(笑)

昔から変わらないなあ・・・

変わらないのは、いいことだ!?

「で」

「え!?!? で?!?」

なんの話し??

「いや、俺よりお前はどんなの? えつと・・・かぶれたーだけ?」

「違うから!! どこがかぶれてるの!？」

ラブレターって言ったのにイ・・・

「かぶれててもいいじゃねえか」

「いや、かぶれてないから!!」

「そうか、まあどうでもいい」

また、それかい!!

「んで、どうなの?」

「兄ちゃんがそんなこと聞くなんてめずらしい!」

「ん? あー、お前が聞いてきたからさ。」

そういうことだったのかー!!

「んで、どうなの?」

「あるわけないじゃん・・兄ちゃんとかとは、違うしさ・・・」

ちよつと寂しい。

劣等感?? かなあ・・・

「なんで?」

はっ!?

「え!?! なにが??」

「俺ら兄弟だし、違うことないだろ?」

兄ちゃんは、当たり前のようにそう言った。

ぼくは、なんだか嬉しかった。

「かも」

「かもってなに? (笑)」

「んー、なんだろ??」

「自分でも分かってないのかよ (笑)」

ははは

「兄ちゃん・・・」

「ん?」

「・・・」

「何?」

「なんでもなーい!」

「なんだそれ (笑)」

ありがと

って言おうとしていたのは、秘密です。



## 第6話ひろしと苓支（後書き）

なんか、

しみじみ？ほのぼの？

になつてしまいました（笑）

まあ、たまには、いいでしょう

ひろしもいろいろあるんですよ・・・

劣等感感じてるんですよ

上とか下の出来がいいとイヤ

ですよねぇ！？

けど、そんなこと関係ないんですよねぇ

鈴木兄弟は・・・

## 第7話ひろしと杏里

「ひろしー おはよー」

「おはよ、姉ちゃん朝からテンション高いね」  
ひろしです。

今日は、日曜日。

朝からテンションの高い、姉ちゃんとあいさつを交わしたところで  
す。

「ひろしが低すぎんのー!!」

「いや、いや、姉ちゃんが高いんでしょ??」

「どっこがー!??」

うん。

全体的にだね。

「ってか、ひろしさあー」

「何??」

「昨日、やたらお兄ちゃんと話してたよね!??」

「うん。まあ」

知ってたのか??

実際そんな話したわけではないけど、

兄ちゃんが無口・・・ってか、話すのがめんどいって人なので、あ  
れだけで

やたら、話したことになるんだよね・・・

「じゃ、今日は私とはなそ」

何がどうなって、そこに行き着くのか分かんないけど・・・

姉ちゃんにしたら、いつもどおりなんだよね・・・

「うん。いいよ!」

そういえば、

姉ちゃんとも、この頃あんまり話してなかったなあゝって思って話

すことにしましたとさ。

「んー・・・何はなそ??」

そっから!?

「何がいい??」

そしてぼくに振るの!?

「あー! 健ちゃんと淳は、元気ー!??」

そして、自己解決!?

「あー、うん! 元気だよー!」

「そっかあ! よかった」

「姉ちゃんこの頃、全然会ってないもんね??」

「うん・・・なんか、忙しくてさー!」

姉ちゃんは、この頃ものごつつう忙しそうだ。

部活とか、部活とか、部活とかでね!!

「部活大変なんだ??」

「うん! 部活だけじゃないけどねえ」

だけじゃないんかい!!

「ほかに、食べることとか、寝ることとかで忙しくてえ」

それ、忙しって言わないから!!

なんでそんな、食べることに結びつけようとすんの!?

「それ、忙しって言わないでしょ!??」

「え!??」

なんでそんな驚いてんの!?

「えっと、当たり前だよ??」

「ウソ!? 最近の小学生は、そうなんだ!??」

最近じゃなくてもそう!!

小学生じゃなくてもそう!!

「時代が流れるのは、早いねえ!」

いつの時代だよ!!

ってか、

姉ちゃんまだ、中学生だからね!?

「淳は、相変わらずトイレに引きこもってるのお??」  
話しとんだー!!

「ひろし聞いている??」

「聞いているよ! 姉ちゃん、めっちゃ話すとぶね・・・」

「いいの、いいの!」

自分で言うな!!

「まあいいけど・・・」

でも、結局許してしまうぼくって・・・  
とっても優しいね

「んで、引きこもってるの!」

「うん!! 引きこもってるよぉ!!」

「そうなんだー さすが淳!!」

さすが!?

「さすがなの!」

「さすがでしょ??」

何当然のごとく言っちゃてんの!?

「でもさー、トイレにはつか引きこもってつまんないのかな!」  
「?」

つまる、つままないの問題じゃないと思うけど・・・

「好きでトイレに行ってたんだからいいんじゃない??」

「トイレラブか!!」

「うん、そう。」

そうなのか知らないけど

「健ちゃん、相変わらずSなの??」

「うん、DSだよ」

「やっぱりねえ!!」

あのSは簡単には直らないでしょ?

「淳とはラブってる?」

「淳は健太LOVEだけど、健太は俺は普通の少年だったかなんとか」

か言ってるよ」

「普通じゃないのにねえ」

「だよねえ」

「健ちゃんは、受け入れてあげる気ないのかな？」

「ないと思うよ？今は」

「まあ、淳頑張れって感じだねえ」

「うん。早く受け入れて楽になればいいのに」

「だよねえ」

まったく、淳の気持ちを考えてやればいいじゃん

女装したら似合うと思うけどなあ

「まあ、その話はいいや。」

そうですか

やっぱり兄ちゃんと姉ちゃんは、兄妹だな。

うん、うん

「そおいえば……彩香<sup>さやか</sup>さんは、元気??」

彩香さんっていうのは、健太の姉ちゃん、姉ちゃんと同じクラスの人。

怒らせると……ゾク!!

悪寒が……

ぞわぁ!!

殺気っぽいものが……

「彩香??うーん……いつもどうりかなあ!？」

なんでちよつと疑問系なの!?

ぼくに聞かれても知らないから!!

「なんか、彩香ってあんま人間としゃべんないじゃん!？」

「うん……まあ。」

彩香さんだからね。

「私が彩香って呼んでんのだって、呼ばせてもらえるようになるまで、どんつつつなに苦労したか!!」

「大変だっ たんだね・・・」

「うん!! かなりねエ」

「でも、嬉しそうなのはなんで??」

声が弾んでるんすけど・・・

「だつてさあ やつと、呼ばせてもらえるようになったんだよ!?

嬉しい」

あー・・・

姉ちゃんって・・・彩香さんラブ!?

「姉ちゃん、彩香さん好きなの??」

ちよつと聞いてみた。

「うん」

マジデスカ

「あのさー・・・ひろし?? ヘンな意味じゃないよ!?? ひろしが考  
えてるようなんじゃないからあ (笑)」

あつ・・・そうですか。

「ひろし、何考えてんのお (大笑)」

そんなに笑わなくても・・・

「あははははは」

笑いすぎです!!

「そんなに笑わなくても・・・」

「あー、ゴメン、ゴメン!!」

とか言いながら、まだ笑つてるし!!

「怒らないでよお」

「だつてさー」

笑いすぎだし・・・

「だからー、ゴメンってば!!」

「うん」

まあ、ぼく優しさマックスだし!?

許さないわけないけどね!?

「でもさー、ひろしがヘンテコリンなこと考えるから悪いんだよ!

「？笑わないわけじゃないじゃん！？」

「ひつでエー……ぼくの美学を！！」

「まあ、いいじゃん」

「姉ちゃんが決めることじゃないから！！」

「ぼくが決めることだから！！」

「まあ……いつか」

「ん！？」

「どしたん？？ひろし？？」

「姉ちゃんさー」

「うん！？」

「どうして、ぼくが考えてること分かったの？？」

「なんでだろー、なんでだろー、なでだなんでだろー」

「古いね。」

「そりゃ、分かるよ」

「なんでだー！！！！」

「なぜだー！！！！！！」

「どうしてだー！！！！」

「この謎解く気はない！！じっちゃんの名にかけて！！」

「だって、姉弟だもん」

「それだけかい！！」

「何考えてんのか見ればだいたい分かるよ！！」

「すごいな！！」

「リアルにすごいな！！」

「まあ、半分てきとーだけどねエ」

「てきとーかあい！！！！」

「あ！！やっぱいい！！！！部活の時間だあ」

「そっか、今日部活だっけ」

「じゃーねエ」

「いつてらっしゃーい！」

ドタドタバタドンガラがっシャン！！

「いつてきまーす！！！」

嵐のような人だ。

姉ちゃんは……

ドンガラがっシャンって……なにがあっただ！？



## 第7話ひろしと杏里（後書き）

杏里は、嵐のような人なんです  
うん、うん（なにが？）

なんか、兄弟のキャラの方が濃いような・・・  
気が・・・まあいつか

## 第8話 人格変わる！？ナルシBOY

「おはよー、ひろし！！」

「おはよ、淳！」

今日は、学校！！

淳といつもの場所で合流して、健太の所に向かってます。

今日の淳は、機嫌が良いから・・・ちやぶん・・・噛んだ・・・多分、占いの結果が良かったんだろうなあ

「淳、今日占いの結果良かったの??」

聞いてみた。

「うん そーなんだあ！！わかるう」

「うん。めちやくちや分かる」

めっちゃ機嫌いいじゃん。

目に見えて・・・

「ひろしは、テンション低いじゃん」

「朝だから」

「それだけかー！ーい」

何、ヒゲ男 くみたいに言ってたんだよ。

占いの結果が良いとこんなテンションだもんない  
めんどくさいなあ

「あ！健太だ、おっはよー！ー！！！！」

「はよ。朝からテンション高いな！！淳」

いつの間にやら、健太の居る所に着いてたみたいだ。

「ひろし？おはよ！」

「うん。おはよ健太」

「ひろしは、テンション低いな！！」

「朝だから」

「それだけかよ!」

それだけだよ。

「それよりも!!健太、聞いてくれよ!!今日の占いは・・・なんと・・・1位だああああああ!!!!」

そう言つて淳は、健太に抱きついた。

健太は、勢いよく抱きつかれて、少し苦しそうだ。

助ける気はないけど

ふわぁあ

眠い・・・

つてか、淳嬉しそうだなあ

良かったな・・・どさくさでも抱きつけて

健太が受け入れてくれる日は近いようで遠いぞ!!

「うつ・・・くる・・・し・・・」

あー、マジで死にそうだな。健太が  
そろそろ助けないと

「淳、健太が死ぬって」

「死ぬのは、ヤバイ・・・」

そう言つて、淳は健太を離れた。

よかったな。

死ななくて

「なんか、ひろしテンション低すぎ!!」

「なんかあったのか?」

2人にそんなことを言われた。

なんかあった訳じゃなくて・・・

「これからあるんだよ・・・めちゃくちゃめんどくさいことが・・・」

「「これから?」」

声が八もつてる!!

息びつたりじゃん。やっぱり2人は結ばれるうんめ強制終了

「なんだ？めんどくさいことって？」

健太、やっぱり覚えてないのか・・・まあどーでもいいことだからなあ

「今日、ハワイから・・・帰って来るじゃん・・・あいつ・・・」

「ああ~~~~！！！！」

またハもつてる！！

やっぱり2人は結ばれるべき終了

「確かにめんどくさいな（笑）」

とか言いながら笑ってるじゃん！！

ぼくの苦勞がそんなに嬉しいか！！このやるー

「あいつはなあゝ、ひろしとつちや害だよな！？」

「うん。そのとうり」

よく分かってる！！淳

「まっがんばれ」

嬉しそうに言うなよ！健太！！

（教室）

「やあ、やあおはよう！！」

はあ・・・

うぜえ・・・

「おっはよー、ナル！！」

「久しぶり、ナル」

淳と健太は、ナル・・・鳴海貴坐なるみ きざき紀つて奴に声をかけていた。

鳴海と貴坐紀つて両方名字みたいだな。

どーでもいいけど。

ぼくにとっては、最低最悪の害！！

なぜなら・・・

「ひろし君!!おはよう」

ゲツ・・・

キヤガッタ・・・来るんじゃないよ・・・（なんかヘンなスイツチ入ってる）

「あー、おはよ・・・ナル・・・」

はぁ・・・

マジうぜえ

「どうしたんだ!!元気がないじゃないか!!はっはっは」  
てめえのせいだよ。

何、背景にバラしょってんだよ。

バラを背景にして許されるのは、健太のお母さんだけだぞ。

「時に杏里さんは、元気か??」

てめえ、それが聞きたいだけじゃねえか。

ふざけんなよ。

「元気だけど?」

やつべ、顔がひきつる。

「そうか、そうか それは、良かった!!」

消えるよ。

おまえ

「てつきり、僕がいなかったんで、寂しがってるのかと思ったよ・・・  
・フツ」

いっぺん死ぬか?

「そんなわけねえだろ。てか、聞きたいこと聞き終わったんなら消えるよ。」

「はっはっは 僕がモテるからってヒガマナーい はっはっは」  
マジどつか沈め。

「お前より、ハルキのがモテると思うけど?」

「はっはっは・・・いいじゃないか!! そんなことは!!」  
負けを認めたな。

ざまあみろ。

ってか、こいつモテる奴目の敵にしてるよなあ・・・  
完璧僻みじゃん。

「ひ、ひろし??」

「何??」

「キャラ変わってるぞ!!」  
淳に言われた。

まあ、マジで大嫌いな奴見るとちよつとな・・・

「キレてるなあ（笑）」

「健太・・・まあな」

おもしろがつてるなあ・・・健太は・・・

「でもさー、ナルって杏里さん好きだよなあ!!」

健太が言った。

「それがウザい」

マジウザい。

「シスコンかよ（笑）」

「違う。身の程しらないところがウザい。姉ちゃんがあんなの好きになるわけない。ってか、存在覚えてないから」

こないだ聞いたなら、「誰それ??」って言ってたし

「まあ、杏里さんだしー（笑）」

健太さつきから、楽しそうだな。

「杏里さん綺麗だもんなー」

淳が言った。

まあ、姉ちゃんは美人だから

「だよなー! ひろしの姉ちゃんとは、思えないよなー!!」

「うん」

2人とも何気にヒドイからな? それ

健太楽しそうだし・・・

「悪かったな」

スネた。

「スネんなって!!」

「そーだよ!似てなくてもいいじゃん」

淳!

フォローになってないから!!

「今、思っただが・・・」

ウツゲ・・・

あいつ来た・・・吐きそう。

「何を思っただー??」

健太があ野郎に聞いた。

「今度の日曜、ひろし君の家に行くっていつのはどうだろう?」

はあ!?

ふざけんなよ。

てめえなんか、家にいたら腐るんだよ。家が

つてか、ぼくの都合を聞けよ。

ばーか

「・・・ひろし?・・・どうするんだ?・・・聞かなくても分かる

けど・・・」

「いいわけねえだろ。」

淳の言葉にきつぱり言った。

「なんでだい!?僕と杏里さんの邪魔をする気かい!？」

「黙れ。てめえなんか入れたら腐るんだよ。家が。つてかうぜえん

だよ。姉ちゃんは、てめえのことなんて覚えてねえよ。」

マジうぜえ

「なんてことを!!こっとなったら・・・家に行く!!」

「学習しろや!!てめえ!!!!!!ムリつつつてんだろ!?!いい加減にしろや!!!!!!」

イライラすんなあ

「ひ、ひろし？」

「うん？何淳、コナン君？？」

淳とコナン君がいつの間にかぼくの横に居た。

「あのさ・・・このままじゃ授業始められないし・・・ひろしもすごい頭に血上ってるみたいだから・・・とりあえず、今回は僕達も家に一緒に行くってことで・・・手をうたない？？」

マジかよ

いつやだああ！！

でも・・・コナン君が言ってるしなあ・・・

ふう・・・しょーがない

「いいよ。分かった」

「よかったあ」

「一件落着」

「ひろしの家久しぶりだー」

「ありがとう、ひろし君！！杏里さんと話せる　はっはっは」

てめえら・・・

ただぼくん家来たかっただけかよ。

「ひろし　ええやん、友達は大切にやで」

って招き猫さーん！？

来てたの??

しかも、1言言っただけか！！

それが言いたかっただけか？

それにしても・・・

日曜が怖いな・・・はあ・・・



なんで、あんなナルシスト、キザ野郎、かつこよくもないのにモテるとか思ってる奴家に入れなきゃいけないんだよ。

マジやだ。

## 第8話 人格変わる！？ナルシBOY（後書き）

新キャラ登場です！！

ナルシストな子なんですけど・・・

つぽくないですね（笑）

まあいつか

杏里とのからみは、どうなるんでしょうねー

## 第9話 愛の力は偉大すぎる!?

「ただいま・・・」

はあ、日曜のことを考えるとため息しかでない・・・

「おつかえりー」

そんなぼくとは、対象的にお母さんは、上機嫌・

なんかあつたのかな??

その謎は、すぐ解けることになる。

ガチャ

リビングのドアを開けると、珍しくこんな早い時間に家族全員がそろっていたんです!!

そりゃ、お母さんの機嫌が良いはずだ・・・うん、うん

「おかえりー ひろしー」

いつものようにテンション上げ上げなのは姉ちゃん。

「おかえり」

普通に冷蔵庫を開けながら言うのは兄ちゃん。

「帰って来たんだ? ひろ兄、まあおかえり」

そっけないというか・・・興味なさそうに言うのはハルキ。

「おかえり、ひろ兄ちゃん!」

笑顔で言ってくれているのはさくら。

全員そろってるってなんかいいなあ

さっきまで機嫌悪かったんだけど・・・ま、いつか

「ああ これでお父さんが居れば完璧ね」

お母さんがふとそんなことを言いました。  
・・・ん？

お父さん・・・？

「「「ええええええええ！？」」「」」

3人の声が重なった！！

3人っていうのは・・・ぼく、ハルキ、さくらです。

「なんでそんなに驚いてるのよ？」

お母さんがそんなことを言っている！！  
ってか、

普通驚くだろ！！

ぼく、お父さんは死んだものだと思ってたぞ！？

「ちょ、まてよ！！」

「なあに？？ハルキ？？」

「俺、父さんは死んだと思ってたぞ！？」

「まあ 勝手に死なさないでよお 旦那様を」  
の量多いって！！

ハルキの意見に賛成！！

「ぼくも死んだと思ってた」

「やあだあー ひろしまでえ」

「ひろ兄、普通に思うよな！？」

「うん。思う！！」

だって、

父親見た覚えもないもん！！

生きてんの！？

「さくらは！？」

ハルキがさくらに聞いている!!

「私は、何度かお父さんからファンレター貰ってるから!」

「送られてきたのかよ!？」

「うん!! ハートマークいっぱいついてたよ」

「「親馬鹿かよ!!」」

ハルキとハもった。

「ハートマークいっぱいだなて・・・お母さん妬いちゃうわ」

「「のろけかよ!!」」

ハもりまくりだな。

「兄ちゃんと姉ちゃんなんで笑いながら見てんの!？」

兄ちゃんと姉ちゃんが笑いながら見物していたので、気になった。

「だって、うけるんだもん」

もん

じゃないよ!! 姉ちゃん!!

「だな・・・」

兄ちゃんも違う!!

「なんで、驚いてないの!？」

「だって・・・」

会ったことあるし」

「「はあああああああああいいい!？」」

「そこまで驚かなくても・・・」

驚くよ!!



姉ちゃんがめちゃくちゃ不思議そうに、お母さんに尋ねた。  
確かに気になるなあ

「うーん・・・愛の力」

「はいはい」

「分かったから、真面目に答えようね?」

「いい加減にしようね?」

「ご飯は?」

「兄ちゃん今重要なところだから!!」

お母さん、責められ???てるなあゝ・・・

「いつかみんなにも、顔出すって」

それで解決しようとすんなあああああ!!!  
いつかっていつだよ!?

「じゃ ご飯にしましょうか」

「よっしゃ」

兄ちゃんただけお腹すいてたの!?

「はい」

「へいへい」

「うん」

みんな納得早いよ!!

そおいえば・・・招き猫さんがこの頃姿みせないなあゝ・・・  
どうしたんだろ??

嫌な予感がするなあ・・・

第9話愛の力は偉大すぎる！？（後書き）

愛の力はすごいなあ（笑）

気が向いたらひろしのお父さん

出しますんで

やっぱり

兄弟のキャラのが濃いなあ（大笑）



## 第10話祝10話 招き猫だらけのタイトルマッチ

「さあ、始めました！！招き猫さんだらけのタイトルマッチ！！」  
えっと・・・

こんにちは。なぜか実況のひろしです。

「さあ、どのような対決が見られるんでしょうか！？」  
やつほー

解説の作者でーす

今回は、10話を記念して特別編をやっちゃいまーす！！

いきなりタイトルマッチとか言ってますが・・・

そのまんまの意味ですので

いちいち説明もめんどいんで、進めますねー

「実況はぼく、毎度お馴染みのひろしです。」

「解説は作者でーす ヨロシク てか、ひろしもっとテンション上げろよお！！」

「いや、ムリだから。」

「ムリって言うからムリやねん！！次ムリって言ったら罰金な！！」

「えー」

「もう、進めろ！！」

自己中な作者だなあ・・・まったく

「えーと・・・さあ、招き猫さんだらけのタイトルマッチ！！王者・鈴木家の招き猫さんに勝てる者は現れるのでしょうか！？両選手の紹介は・・・後ちよつとです！！」

ふー・・・

なんとか言えた・・・

「なんだかんだ結構ノリノリで言ってるやん」

「しょうがないからだよ・・・」

「へー」

なんだよあ・・・そのニヤニヤした顔は!!

「ほーら 選手もうすぐ出てくるで!? 紹介せな!!」

「はいはい」

「はいは、1回!!」

「・・・はい」

「3回目やんけ!!」

「どうすればいいの!?!」

つと

こんなことやってる場合じゃない!!

選手の紹介しないと!!

「青コーナー・・・身の程しらずに・・・って身の程しらず!?!」

ええから、台本どりにやれ!!」

「う、うん・・・失礼しました。

青コーナー!! 身の程しらずにもほどがあるー、てめえなんか招き猫様に勝てる訳がない いったん東京湾に沈んで、中国まで泳げ!! 挑戦者の・・・

ノラ招き猫!!」

ノラ!?!

ノラって何!?!

招き猫にノラとかあんの!?!

紹介文ヒドいな!!

「続きまして・・・赤コーナー・・・最強!! 強い!! 男前!! 男の中の男!! 時にはプリティィ!! あなたのためなら死ねます!! え・・・王者・・・鈴木家の招き猫さん!!」

うおおおおおおおおおおおおおおおお!!

「おおつとすごい声援です！！これだけでも、王者鈴木家の招き猫さんの人気が伺えますね！！実況のひろしさん！！」

「え・・・えつと、はい？・・・」「ちゃんと返しぐらいしろや。だからお前は、ひろしやねん」

「ごめんなさい・・・って、えええ！？ぼくの存在完全否定！？」

「そうやで だから何？」

「だから何って・・・」

「ひどいなあ・・・ぼくに優しくする気はないのか！？」

「ないよ」

「はあ・・・って心読んだ！？」

「すごいな！」

作者

「うん。まあ、そんなんええから実況しろよ！？ほら、試合始まるって！！ちゃんとせえへんかったら・・・フッフ・・・」

こ、怖い

作者だけに怖いな・・・

この作者なにやらかすか分かんないし・・・

ちゃんとやろう・・・

カァァァン！！

「さあ、試合開始のゴングとともに始まりました！！招き猫さんだらけのタイトルマッチ！！」

いったいどのような対決を見せてくれるのでしょうか！？」

ふー・・・

言えたあ・・・

「おい！！お前ノラのくせに調子のんなよ！？」

「うるさいやい！！ノラでもいきがる権利はあるわい！！」

「じゃかましいんじゃない！！くらえ！猫ぱーんーち！！」

「おーつと！！出ました！！伝家の宝刀猫パンチ！！この猫パンチを直にくらったことのある・・・実況のひろしさん！！ちゃんと実況しろや」

「はい・・・ごめんなさい。」

「これじゃ、うちが実況やんけ！？なめとるんか！？」

「すいません！！なめてません」

「ちゃんとやれよ！！」

「はい・・・」

やるしかないかあ・・・はあ

「猫パンチ炸裂！！挑戦者のノラ招き猫さんは、苦しいんじゃないでしょうか！？どう思われますか？？解説の作者さん？？」

これでいいよ・・・ね？

「そーですねえ・・・ノラっちもまだ頑張れるというか、頑張ってもらわないと書くのに張り合いがないんで、強制的に立ち上げさせます。はい」

リアルなこと言ったああー！！

いいのか！？

そんなこと言って！？

「えつと・・・実にある意味・・・分かりやすい説明をありがとうございます  
ございます・・・」

「いえいえ」

「倒れるや!!」

「倒れたいののは、俺もやまやまやねん・・・めっちゃ痛いもん!!  
けど・・・作者があああ・・・えつく・・・ひつく・・・」

「分かった もう分かったから・・・猫キーツク」

「ぐはあ!!」

「あはは もつと苦しめ そして倒れられないという事態になれ  
楽しい」

うわあ・・・

可哀想・・・

「ひろしに言われたくないと思うで!？」

「そうですね・・・はは・・・ってまた心を!？」

「ええから、実況」

「はい」

「なんと言いますか・・・いろんな意味でダメージがあるように思  
われますが?どう思われますか??解説の作者さん??」

「うーん、まあしょーがないよ!?雑魚なんだから 倒れてもええ  
けど・・・王者鈴木家の招き猫さんが気の済むまで殴る、蹴る、す  
ると思うで!？」

「確かに・・・」

そうかも

「ちょ!待って!!ダウンしてるって!!ギブ、ギブ!!プロレス  
じゃないけどギブ!!ていうかお願いします!？」

「い・や ははははー」

「ぎゃあああああ!!」

「あっははは」

ひ、ひどい・・・

「だから、ひろしに言われたくないって!!」

「そーですけどぉ・・・」

心読まれることに慣れてるのが怖い・・・

「マジでぼくでも、可哀想と思うぐらいやばいですが・・・どう思われますか?? 解説の作者さん??」

「んー・・・おもしろかったらええと思う」

「それもヒドイですが・・・?」

「1,2人の犠牲はしゃあないって」

「おい、おい」

「あはは」

今めっちゃ思ってたけど・・・

この作者・・・招き猫さんの作者だわ・・・

「もう飽きたぁー もうええわ!!ばいばい 猫真拳奥儀窮鼠が噛む前に噛み砕く!!」

「ぐほお!!!!!!・・・あ・・・あ・・・ありが・・・と・・・ざいま・・・す・・・」

カンカンカン

「試合終了ー!! 終わりましたね? 解説の作者さん??」

「そっやなー 結構おもしろかったからまあ、ええやあ ものたりん

けどなあ」

「よお！！ひろし&作者」

「招き猫さん！！」

試合が終わって、めちゃくちゃすがすがしい顔をしている招き猫さん・・・

タオルで汗ふいてるし・・・

「お疲れさん」

「さんきゅー」

作者と普通に会話してるし・・・

「ま、招き猫さん？」

「なんや！？ひろし??」

「今みたいな試合でファンは、大丈夫なんですか??」

ファン着いてきてくれるの!?

今の試合で!?

「何言うてんねん！！KO勝ちやぞ!?!ファンめっちゃ喜んでるわ!!なめんな!!」

なめてないですけど・・・

「招き猫様最高ー最強ー」

「LOVE」

「きゃーきゃー」

「結婚してくれー!!男だけど」

「Sっぷり最高ー」

「すかつとしたあー!!」

「愛してますー!!」

「さとうきび食べたいー」

うわぁー・・・

ファンすげー・・・

最後のよく分かんないけど・・・

「なッ！？大丈夫やる」

「そーですね・・・」

「ってか、ひろしに心配されるよーなことないってえ」

「やんなー」

マジでぼくの存在否定だね。

「否定ちゃうで！？消そうとしてるだけ」

なお悪いよ！！

「えー・・・タイトルマッチは、鈴木家の招き猫さんの圧勝に終わりました！！」

まあ当然ですけどね！？負けると思った人なんて1人もいないと思いますし」

「実況は、ひろしがお送りしました。」

「最後はばっちり出るねんな（笑）」

次回からは、普通に帰りますので  
今後ともヨロシクお願いします

b y、作者



## 第11話 ひろしとハルキ

「ただいまぁ」

学校から帰ってきた所だけど・・・

返事がない・・・

いつもは、お母さんが出迎えてくれるんだけどなぁ・・・

がちや

いつもどおりリビングのドアを開ける。

そこには、誰もいないと見せかけて・・・ハルキが居た。  
でも、寝てる。

雑誌を読んでいたんだろうなぁ

雑誌を顔にかぶせて寝てるから・・・ソファの上で・・・

ハルキを起こさないように

そおつと歩く

「ふぁゝぁ・・・」

・・・その努力は無駄だったようだ。

ハルキが起きた・・・

なんか空回ってるな・・・ぼく

「つれ？ひろ兄帰ってきたんだ？おかえり」

「うん。ただいまぁ」

そう言つてぼくは、冷蔵庫に入っていた缶ジュースを取り出して飲んだ。

おいしい

「ひろ兄、俺にも取つて」

「うん！はい」

ハルキのジュースを冷蔵庫から取り出して、ハルキに手渡した。

「サンキュ」

そう言つてハルキは、20秒ぐらいでジュースを飲み干した。

早いな、おい

「そういえば・・・お母さんは??」

ジュースを片手にハルキに尋ねた。

「んー？母さん？」お友達と遊びに行つてくるわ 適当にご飯食べ  
てもむちゃくちゃしないでね？帰つて来ておかしいことになつ  
たら、どうにかなつちゃうかもよ？ ってみんなにも言つといて  
ね」とかなんとか言いながら遊びに行った」

怖いな

お母さん！！

「ちなみに、苓兄と杏姉はいつもどおり部活。さくらは、ドラマの  
撮影。父さん行方不明。」

分かりやすい説明だ。

うん、うん

「ハルキはどつかが行かないの??」

そおいえば、ハルキが今の時間家に居るのも珍しいって思つて聞い  
てみた。

「あー、何人かの女に誘われたけどだりイから断つた。」

さいですか・・・

ぼくには一生かかってもそんなセリフ言えないよ！！

どーせ、どーせ

「相変わらずモテるね??」

ちくしょー

「まあね」

否定もしないしね。

まあ、マジでモテるからいいんだけど・・・

「なんかさー、ひろ兄と2人で話すの久しぶりじゃね!？」

そう言つて、ハルキは無邪気に笑った。

我が弟ながら・・・イケメンだわ!!

こりゃ、女がほつときませんぜ!! 旦那!! (誰だよ。あ!うちか)

笑うとやっぱ弟つて感じだなあ

「ひろ兄なんか、話してよ!!」

そう言つてまた、笑った。

「うん!なんかさ・・・日曜・・・友達が家に来るんだ・・・」

「マジで言つてる?・・・それ」

「マジもマジ大マジ」

「ヤバクね!？」

「だよ・・・ね??」

「うん。ヤバイ」

「墓作つた方がいいかな??」

「うん。棺おけとか用意した方がいいって」

「だよね・・・」

「友達ヤバイな(大笑)」

「ハルキ笑つてるじゃん!!」

「だつてさー(笑)てか、友達つて誰？」

いまさら!?

えつと・・・誰だっけ??

「えつとお・・・健太と淳とコナン君と・・・糞ナルと・・・番と・・・バナナかな??」

多分あつてと思うけど

「ふーん。じゃあ・・・6人死人が出るかもつてことか(大大笑)」

「ハルキ笑いすぎ!!」

楽しそうだし・・・

「死人が出ないことを願うしかないね・・・ナルは別にいいけど」

「ナルつて・・・誰？」

そりゃ、分からんわ

1回会ったことあるけどね

「1回だけ会ったことあるけど・・・ナルシストで姉ちゃんに一目ぼれした奴」

「・・・あー!!あのキモロンゲか!!」

ハルキがふと思い出したように大声で言った。

「そーそれ!!」

「あの、かつこよくもないのにカツコイイとか勘違いしてる可哀想な奴だよな!？」

そうだけ・・・

ヒドイな・・・

まあいいけどお

「そうそう」

「しつかしさあ・・・杏姉に惚れるなんて身の程知らずもいいとこだよなあ」(大爆笑)

笑いまくりだなあ」(笑)

まあ、分かるけど

「俺ら兄弟に惚れるなら、良い顔じゃねえと」(笑)それがムリなら性格が良くねえとなあ」

まあ、

ぼく以外の兄弟ならね・・・はあ・・・

「でも、ひろ兄は例外かあ」

ぐさ

「言葉がいたあゝい!!!!」

「ひろ兄反応おもれ」

ひどいぞ!!

ハルキ!!

「ははははははは」

まったく・・・

まあいいや・・・

だんだんげやりだよ。

「でも、健兄とあつ兄と真面目な人は殺されないか・・・」  
話し戻ってるし！！

「あー、多分・・・」

「でも、キモロンゲと及川先輩と番先輩は、危ないかもな」  
「糞ナルは確定だね」

「だな そだ！！」

「どしたの！？ハルキ」  
いきなり・・・びつくりするなあ

「俺も日曜、家居るわ！！楽しそうだから」

「いいよ。ってかダメって言わせる気ないでしょ??」  
「ない」

やっぱりね。

日曜はどうなることやら・・・

「たっただいまー」

姉ちゃんが帰って来たみたいだあ！！

マジ

どーなるかな!?

日曜日・・・

## 第11話ひろしとハルキ（後書き）

ハルキの紹介話??でした  
うーん・・・

日曜日どうしょー

考えてないわぁ（＾０＾）／

まぁ、ノリで乗り切ります

## 第12話ひろしとさくら

「たっだいまあゝ」

なんとなく、テンション上げて帰宅しました

「おかえりなさい。ひろ兄ちゃん!!」

そんなぼくを迎えてくれたのは・・・妹のさくら。

今家には、ぼくとさくらしかない。

なぜかというと・・・

お母さんは、昨日と同じく「お友達と遊んで来るわね 昨日みたい  
にちゃーんとしてね でないとぐちゃぐちゃになっちゃうかもよ」  
って言うて遊びに行った。

怖いなあ・・・

母親だけど・・・

兄ちゃんと姉ちゃんは部活。

ハルキは「今日は女のとこ行ってくるわ!ひろ兄1人じゃつまんな  
いだろうからさくら居てやれよ!!」って言うて女の子の所に行っ  
た。

というわけで、

家に居るのはぼくとさくらなわけです。

「ひろ兄ちゃん!!」

「何??さくら」

さくらが突然大きめの声を出したのでバビった。

バビル2世だな!!

「日曜日にお友達が家に来るってほんと??」

さくらが上目遣いぎみに言った。(ひろしの方が背が高いから必然

的にそうなる)

ああ。

可愛いなあ・・・さすが将来は女優やら、芸能人やら騒がれるだけのことはある。

ぼくは、普通だけだね・・・

普通で何が悪いんだい!!

「ひろ兄ちゃん??聞いてる??」

「あ!うん!!聞いてる」

「賑やかになつて楽しそうだねえ」

喜んでるし!!

「健太お兄ちゃんと淳お兄ちゃんに会うの久しぶりだあ」

そおいえば・・・

さくらも忙しそうだもんない

「さくら、ドラマの撮影は順調??」

さくらは今初の連ドラの撮影をしている!!

小1ですごいなあ

主役の妹役で出ている。

「うん!!順調だよ」

「そつかあ、演技とか難しい??」

「ううん!!楽しいよ」

楽しいと思えるプロ根性がすごいよ!!

小1だよ!!

6歳だよ!!

誕生日まだだから!!

どうせ、ぼくとは違うよーだ・・・(卑屈スイッチ入った!!)

3歳の頃からテレビに出てるさくらとはちがいますよーだ

「ひろ兄ちゃん??どうしたの??」

さくらが不思議そうにぼくを見ていた。



キョトンとした顔で、悪意のない顔でぼくを見ないでくれー！！  
ま、まぶしすぎる・・・

汚いことを考えてたばくなんて・・・

「ひ、ひろ兄ちゃん??」

1人でぐわあ！！

とかなんとか言ってるぼくに少しひいてる様子・・・  
妹にまでひかれてるぼくって・・・

ひゃーはっはっはっは（壊れた!??）

ぶおんぶおん！！！！

!?

なんか外からバイクの音が聞こえてきます！！  
暴走族!?

今どき古いぞ！！

「ひろ兄ちゃん、バイクの音すごいね!??」

「うん・・・うるさい」

「だよな」

でも、外に行つてうるさいんじゃー！！とかは、言えないぼく・・・

「あー、もううるつさい!?!」

さくらはそう言つて、外に出て行つた！！

危ない！！

暴走族！！

「あの！！うるさいんですけど??」

さくらがはつきりとした声で言つた。

「へー！？お嬢ちゃん！？どこがうるさいのかなー？？」

「あんたら」

「可愛い顔して言うねー！！ママんとこ帰らなくていいのー！？」

暴走族もどき達は、笑っている。

「消えれば？」

「ああ！？ちよつとこつちが下手に出てたら調子に乗りやがって！  
！」

キレタ模様。

「いつあんたらが下手に出たわけ？顔といっしょで頭も悪いんだね  
？」

「んだと！？このガキー！！」

さくらが殴られそうになつてる。

さくらは・・・よけた。

「年下に手出すような人なら遠慮いらないやあー」

何気うれしそうだな。

さくらは、どこから出したの！？

つて突っ込みを入れたくなるような感じで包丁、ナイフ、カッター、  
スタンガン、殺虫スプレー、離婚届を取り出した。

「おっわー！！」

暴走族もどきはビビッている。  
当然だ。

「お前らなー、次ここでぶんぶんぶんやつとたらなあ・・・目  
ん玉ほじくり出して、目玉親父の人形つつこんダルからな！？人形  
音声付やぞ！」「おい鬼太郎」って言うねんぞー！！なんとか言うて  
みイー！！」

さくらは、包丁をぶんぶん振り回しながらそんなことを言っており  
ます。

「す、す、すいませんでしたー！！」

「謝るんやったら最初からすんな、ぼけえー！！」

「は、はい!!」

そう言つて暴走族は去っていきました。

「ふー、すつきりしたぁー」

「良かったな。さくら」

「うん」

そう・・・

さくらは、キレたら手がつけられない

二重人格

なんです・・・

## 第12話ひろしとさくら（後書き）

なんか・・・関西弁になってるし・・・  
まあいつか

招き猫さん関西弁やし

目玉親父の人形目に入れられたら痛いんかな!?

### 第13話本人に言いましょう

「おはよー ひろし」

「おはよー！ 淳」

今日もいつもの電柱の所で淳と待ち合わせ、健太の所に向かってます！！

「今日の占いはな！？ 5位だったんだ！！」

「微妙だね？？」

「うん！ けどこういう微妙な順位の時こそはりきるんだよ！！」

確かにはりきってるみたいだね。

でも、

ぼくは今日、嫌な予感がするよ・・・すごく・・・

「ぼくは、やな予感がする・・・」

「ええ！！ 大丈夫だって 嫌なことがあるのは、いつものことだろオ」

淳、天然にヒドイこと言うな・・・まあいつもだけど

「何気ヒドイよ！？」

「大丈夫、大丈夫」

「何が！？」

まったく・・・

「おっはよー 健太」

そんなことを話してる内に健太との待ち合わせ場所に着いた。

淳はすぐに健太にあいさつしていた。

「おはよー！！ 健太」

「おはよー！ ひろし」

ぼくも健太とあいさつを交わして、いつものように3人で学校に向かった。

〈学校〉

「おは．．．ん!?」

何!?

なんか、ハンカチで口押さえられてる!!

まさか．．．クロロフォルム!?

マジデ．．．

ぼくは、そのまま気を失った

「ん．．．ってここどこ!?」

目が覚めたらなんか薄暗い．．．ヘンなとこに．．．  
手足縛られてるし!!

禁断のSプレイか!?(なんでそっちに走るねん)

えー、えー

なにこれえ!?

「あれ?鈴木君、目覚めたの??おはよー」

「おはよ．．．ってあいさつしてる場合じゃない!」  
ってか

ぼくを見下ろしてるこの女の子はダレデスカ?

なんか、見たことあるような気がしないこともないけど．．．

「突っ込み入れてる場合でもないよね?」  
はい。

ごもつともです。

「まあ、いいや」

いいんですか!?

「ねえ。」

「はい?」

「私のこと知ってる??」

そう言つて、謎の女の子はぼくの目線に合わせてくれているのか  
その場にしゃがんだ。

ばくは、なんかヘンなこの床?に倒れているから・・・

「知らないです。」

「なんで敬語? 同年なんだけど(笑)」

ええ!?

同年なの!?

どーみても、年上なんですけど・・・?

大人っぽい顔してるし・・・

背も女子にしては高いし・・・ ぼくよりは低いけど、1cm、2cm  
m 違いって感じだし

「じゃ、自己紹介ね」

謎の女の子はにつこり笑つてそんなことを言っている。

自己紹介するんだ・・・

「私は、藤崎未来! 隣のクラスだよ ヨロシクね」

「あ・・・うん・・・よろしく」

この状態でよろしくできないと思うのはぼくだけなんだろうか?

隣のクラスってことは・・・3組かな?

「ねえ、隣のクラスって・・・3組??」

「そうだよ」

やっぱ、そうなんだ

「ぼくも自己紹介した方がいいの?」

「いいよ 知ってるから」

「そうなんだ」

なんで知ってるの!?

はやりのストーカー!?

ってないない

「なんで知ってるの? って顔してるね?」

「え!？」

なんで分かったの!?

エスパー!?

エスパーなんだね!?

はやりの!!

「エスパーじゃないからね!？」

また読んだ!?

「顔に出てるから(笑)」

「そうなんだ・・・」

顔に出てるんだ・・・

顔色読んだのか!!

「私と鈴木君、2年の時一緒にクラスだったんだよ? 覚えてないんだ!？」

「2年の時・・・」

ぐりゅりゅりゅりゅー (記憶巻き戻し?)

「ああ!! 藤崎さん!!」

「そおだよ 思い出してくれた?」

「うんうん」

・ 2年の時、やけに大人な感じな子だった・・・あの藤崎さんかあ・・・

ん?

なんか忘れてるような・・・

「あ!!! てかここどこ!？」



1番忘れちゃいけないこと忘れてたよ・・・ぼく

「ここは・・・使われてない体育倉庫だよ!!」

「体育倉庫!？」

言われてみれば・・・アスファルトの床・・・独特の臭い・・・  
完璧体育倉庫じゃん

「あのさ・・・こんな所にぼくを連れてきて・・・何か用があったの・・・？」

かなあり大事なことを今さら聞いてるぼく・・・

「・・・実はね・・・」

藤崎さんは顔を真っ赤にして、言いにくそうにしている。  
??

どうしたんだろ??

「どうしたの??」

ぼくが言葉の続きを催促すると、  
意を決したように、藤崎さんは口を開いた。

「あのね?私・・・私・・・」

さ、笹川君のことが好きなの!!!!」

・・・はい?

えつとお・・・はい?

ん?

へ?

「えええええええ!!」

マジデス力?

健太？

良かったな

じゃなくて！！

淳がキレルよ！？

泣き喚くよ！？

そして

ぼくにどうしろと？

そおいうことは、本人に言うべきでしょ！！

「それでね？」

「うん・・・」

まだ続きがあるみたいだ・・・

「鈴木君に協力してほしいの！！」

はい？

協力？

何をどうしろと言うんですか！？

役立たずと言われてるぼくに！！

「あ、あの・・・ダメ？かな・・・？」

藤崎さんは、半泣きになりながらこつちを見ている。

そんな顔されても・・・

ぼくに何が出来るわけですか？

「お願いします・・・」

お願いします

とか言われたら・・・ねえ！？

「うん・・・分かった・・・」

引き受けるしか・・・ないじゃん？

「ほんと！？ありがとう」

「でも・・・あんま期待しないでね？」

「だいじょーぶ」

ほんとに大丈夫かなあ・・・

健太になんて言おう・・・

### 第13話本人に言いましょう（後書き）

つてわけで女の子登場です

健太LOVEの

なんか女の子あんま出てないやん・・・って思って出しました  
ひろしに相談とか完璧相談する人間違えてますよねえゝ

さあ、恋の行方は！？

ぶっちゃけどーでもいいです。（おい）

## 第14話恋する女は・・・〈前編〉

困ってます。

突然すいません。

けど・・・

とっても困ってます。

今、教室の前なんですけど・・・もう、2時間目が始まっていることが判明・・・

どおしよ・・・

ただでさえ藤崎さんのことで悩んでいるのにイ！！  
追い打ちかけるのか！！（かけるよ　もちろん）

うーん・・・

しょうがない・・・

入ろう・・・

ぼくは意を決して教室のドアを

から

開いた。

「鈴木ー！！何やってたんだ！？遅刻だぞ」

「はい。すみません・・・」

「何やってたんだ！？」

答えられるわけないでしょ！？

体育倉庫で藤崎さんと密会してましたあ　なんてさ！！

ぼくの気持ち読んでよ！！

のぶっちー！！

「・・・なんか、すっごい顔してるな・・・鈴木・・・もういいか

ら・・・席に着け！！学力がそれ以上下がる方が困るからな！！」  
「はい」

助かったあ

けど・・・それ以上下がるって・・・ヒドイんですけど？

先生でしょ！？

まあ、のぶつちに常識求める方が間違ってるかなあ

キンコーンカーンカーン

「ひろしー！？何やってたんだ？」

「急にいなくなるからビビッたぞ！！探す気はなかったけどな」  
チャイムが鳴ると同時に健太と淳がそんなことを言ってきた。

探す気なかったんかい！！

いつものことですけどね？

はあ

「ちよつと、いろいろあつてね・・・」

なんか、

めちやくちや疲れた・・・

女の子ってめんどくさいなあ

ってか、なんでぼくに相談！？

「てかさ・・・淳に相談があるんだけど・・・」

淳に言ったらおもしろいことになりそうだなあって思って言うてる。

「別にいいけど？」

「ほんと！？ありがと」

淳がなんか快く？？引き受けてくれたので、助かった。

「なんだよ！！俺はのけ者か！？ひろしのくせに」

健太が不機嫌そうだ・・・

だって・・・しょうがないじゃん？

ていうか、ひろしのくせにつてヒドクない！？

「ゴメン・・・でも、今はちよつと・・・」

うーん・・・

健太に知られると困るんだよお

「ふーん・・・分かった」

ほッ

なんとかおっけー

（階段）

なぜか階段で淳に相談する的な感じになりました。

「で！？相談つてなに？」

結構興味はあるらしく、以外と真剣に聞いてくれるようだ。  
良かった良かった

「それがさー・・・3組の藤崎未来って知ってる??」

「藤崎？うん、知ってる！！あんま話したことないけど」

「その藤崎さんが・・・健太のこと好きなんだって!!」

「ええ！？うそだろ!？」

かなり驚いてる。

ある意味健太に失礼じゃないか？

「それが・・・めちゃくちや本当なんだ!!」

「・・・俺の健太に・・・」

なんかブツブツ言ってる!!

殺してやるとか聞こえるんですけど!？

「ほーう・・・藤崎未来が健太君のことが好きだったとはね・・・  
なかなかやるじゃないか・・・健太君も！」

なんか糞ナルが居ます。

立ち聞きますか？

趣味悪いですよ？

「ナルう・・・俺の健太が・・・」

「まあ、いいじゃないか！！そんなことわ！！はっはっは」

「いいわけないないだろ！！」

ないが1個多いつて！！

それと・・・ナル・・・

黙れよ。

「ひろし君！！そんな情報どこで手に入れたんだね！？」

「藤崎さんから直接」

近寄るな。

「じゃ、朝居なかったのつて藤崎と居たから？」

はい。

そのとうりです。淳

「藤崎、ひろしに協力頼んだのか！？完璧な人選ミスだあ！！まあ・

・あんな奴・・・俺の健太に手を出す奴なんて・・・どうなった  
つて・・・」

怖いつて！！

どんだけ怒つてんの！？

「それは、置いといて・・・問題は藤崎未来だね！！藤崎未来つて  
いったら、大人っぽくつて・・・主に下級生に大人気！！隠れた人  
気女子だよ。その藤崎未来が！！僕じゃなく、健太君が好きだつて  
言うんだから・・・まあ僕は、杏里さん一筋だからいいけどね！？  
別に、健太君が羨ましいとかあるわけないけどね！？  
フツ・・・」



うん。

羨ましかったんだな

悔しいんだな

なんか、昔オマエ藤崎さんに告った過去があるらしいし、藤崎さんから聞いた>

てか、その情報なんだよ

「で、どうすんの？協力とかしたら怒るよ？」

淳、キレすぎだろ！？

「どうするって言ったって・・・まあ、適当にやり過ぎすよ  
なんとかなるでしょ？」

「ふーん・・・じゃあ、頑張って藤崎の野郎が二度と健太に近づかないようにしてくれよ？」

ええ！？

じゃあ、自分でやればいいんじゃない？

「えっと・・・淳・・・自分でやれば・・・？」

「なんで俺がそんな糞女と話さないといけないんだよ！？」

ええ・・・

なんていうか・・・ノリで？

おもしろいかなあって

「自分でやればよくない！？」

「なんで？俺そんなことしたら殺しちゃうよ？」

やめなさい。

犯罪じゃん。

「だから・・・しつかり頼むよ？下手なことしたら・・・」  
・・・ぼく

友達間違えた・・・？

めっちゃ怖いこと言われてるんですけど？

「うん・・・？まあ・・・でも・・・ちよつとぐらいさ？」

「何がちよつとぐらいだ！！健太に指1本でも触れさせてみる、許さないから！！」

うつわあゝ・・・

ぼく淳の恋応援してるけどね？  
でもね・・・

「じゃあ、ひろし？頼んだよ？」

「はい。」

オーラが怖すぎて、こつ言っしかないんですけど・・・  
選択の余地が・・・ねえ？

第14話恋する女は・・・〈前編〉（後書き）

タイトル恋する・・・とか書いてるのに

藤崎さん出てなーい

まあいつか

次はちゃんとするんで!!

## 第15話恋する女は・・・《後編》

すいめーん！！

いきなりすみません。

ひろしでござります。

自分でも訳がワカリマセン

えっと・・・今、藤崎さんが前にいます・・・

気まずいんですけど・・・

糞ナルが居るから・・・

「えっとさ・・・なんで鳴海君が居るの？」

藤崎さんめっちゃ嫌そうやん（関西弁！？）

「ぼくにもよく分かんない」

ほんとに分からない。

なんで

居るんだ！？

「はっはっは！！協力してあげようと思ってね！！はっはっは！！  
この僕がじきじきに協力してあげるんだから、感謝したまえ！！は  
っはっは」

うわぁ・・・うぜえ

藤崎さんも同じことを思ったのか顔をしかめている。

「あのさ、鳴海君の協力はいらないから」

顔色1つ変えず藤崎さんが言った。

怖いんですけど・・・

「な、なんですと！？」

そんなに驚くことなの！？

「何も糞もないし。鳴海君のことキライなんだよねー。」

・・・なんか可哀想に思えてきた。

藤崎さんっではつきりした性格してるんだなー

「はっはっはっは・・・照れなくても・・・いいんじゃないですか  
い？」

弱気だな！！

さっきまでの勢いはどこにいったの！？

糞ナルは女の子にキツクされるとダメだからねえ・・・うんうん

「・・・まあ邪魔しないでよ？」

「はい！！承知しました！！」

完璧服従してるじゃん

「で、鈴木君！！」

「はい！？」

なんでしょう？

勢いが若干怖いんですが・・・

「どうすればいいの！？」

そっから！？

そっからですか！？

てか、直球ですね

「うーん・・・告ればいいんじゃないの？」

それで振られれば円満解決でしょ？（円満ではないやろ？）

まあいいと思う。（女の子のことになると適当やな）

なんかめんどくさい（ひろしが言うな！！）

何それ！？

「それが出来れば苦労しないんだけど・・・？」

困り顔で笑われても困るんですけど・・・

「だって、告るしかないんじゃない？」

「うーん・・・でも・・・」

でもお・・・って言われても・・・

「じゃあ、こういうのはどうだろ」鳴海君は黙ってて。

糞ナルは黙りました。

なんて素直なんだ

「じゃあ・・・告白したら成功すると思う？」

しないと思う。

はつきり言ったら怒るかな？

やっぱり・・・

だって、健太そおいうの興味ないしなあ・・・野球馬鹿だし・・・  
なんていうか・・・なんていうかだよ

「鈴木君？」

不安そうにぼくの方を見ている。

うーん・・・

はつきり言うべきですか？

ぼくはドウスレバイインデスカ？

「鈴木君！！」

「はい！！」

びつくりしたあゝ・・・

「はつきり言つて！！私は兵器だから！！」

平気の漢字違うし！！

逆に言いにくくなったよ！！

「そおだよ！！はつきり言つてあげ「鳴海君黙れ！！」

言葉がキツクなったね。

なんか糞ナル・・・藤崎さんに口にガムテープ張られてるよ・・・

あー・・・べりって1回剥がされた！！

口真っ赤だ

藤崎さんはすかさずまた張る！！そして・・・剥がしたあ！！いい  
音がしましたあ！！

糞ナルの口は炎症寸前！！

おっと！！藤崎さん飽きたのか？

止めたあ！！

「で！！どうなの！？鈴木君！！」

「え？イヤ・・・その「はつきりして！！」

はつきりしたら切れるでしょ？

女の子に切れられるの嫌なんだよねえ・・・怖さを知ってるから・

・・・家で・・・

「はつきりしろ。」

はぁ・・・マジですか？

どうすればいいの？作者！！（はつきり言ってあげ！！それが優しさや！！）

じゃぁ・・・言おう！！

いい加減めんどくさいし・・・

「振られると思う」

（うつわぁゝ、はつきり言ったぁ）

え！？

言えって言ったじゃん！！（なんのこと？どうなっても知らんから）

おいおい！！

「・・・」

藤崎さん黙ってるし・・・

え！？

なんか後ろから邪悪な感じなようなオーラが出てきたんですが！？  
ちよつとちよつと！！

「ざけんな・・・」

え！？

あのお・・・

「ざけんなよ・・・振られる？・・・よくそんな顔で私にそんなこと  
と言えたもんよね？私と付き合いたいって言う男は結構居るのよ？

・・・今日だって・・・今日だって・・・ラブレター貰ったんだから  
！！下駄箱に入ってたし！！体育館裏でだって！！」

シユチエーション古いよ！！

昭和じゃん！！

それとさ・・・そんな顔って・・・ひどくない？

リアルに落ち込むんですけど・・・

「いいわ！！じゃあ、勝負しましょうか！？私が笹川と付き合えたら私の勝ち！！もし私が振られたら、あなたを殺して笹川を殺して私も死ぬわ！！」

ええ！？

ちよつと！！冗談だよね！？

ウソだよね！？

ウソだと言つて！！

藤崎さん早まらないで！！

つてかぼくを殺さないで！？

せめてぼくだけでも！！

出来ればでいいから、健太も殺さないでやって！？

もう自分だけで死んで！？

つてか、健太呼び捨て！？

「あのさ・・・自分だけで死んで？」

・・・なんか・・・ぼくすごいこと言っちゃった？

藤崎さんすつごい形相してるんですけど！？

「ざっけんじゃないわよ！！！！！！あなた何様のつもり！？」

じゃあ、あんたは何様なんだよ

「私を何だと思ってるのよ！？」

藤崎未来だと思ってる

「笹川と鈴木！！ついでに山田と及川も殺してやるわ！！」

・・・逆に殺されると思うよ？

バナナに

「もう！！みんな殺してやるんだから！！私の恋を实らせない奴なんか死ねばいいのよ！！」

じゃあ、世界中の人みんな殺さないといけないね。



「なんとか言いなさいよ！！しゃべったら殺すけどね！！」  
どっち！？

つてか、糞ナル避難してるし！！

1人だけ逃げるなよ！！

昔惚れてた女だろ！！

なんとかしやがれ！！

「聞いてんのかあ！？鈴木！！」

聞いてねえよ。

「はあ！？あんた誰だよ？誰に向かってそんな口聞いてんの？」

？

今のぼくじゃないんですけど・・・

つてか、この声は・・・

「鈴木の子！？」

ハルキじゃん・・・グットタイミング！！

「はあ！？俺の質問に答えろよ。あんた誰？誰にそんな口聞いてんの？」

異常なハルキの迫力に押されてる藤崎

そりゃ怖いよな。一応女の子だし

ハルキは学校でもかなり目立ってるからねえ

「・・・藤崎未来・・・鈴木ひろしに・・・」

さっきの勢いはどこえやら・・・

小声になりながら答える藤崎

「ひろ兄に？なんかあったのひろ兄？」

ぼくに向き直ってハルキが不思議そうにしている。

「なんか、健太のことが好きって言うてて、協力してくれって言われたんだけど・・・ぼくが本当のこと言ったら切れて、あやうく殺

されそうになった。」

「ふーん、どんなこと言われた訳？」

「うーんと・・・かくしかじか」

藤崎に言われたことを全部話した。

「ふーん・・・この女超自己中じゃん マジで殺してやろうか？」

笑いながら言われた藤崎は、めっちゃ怯えてる

「俺さあ・・・自己中な女大きっらいなんだよねー・・・なんかマジ消えてほしいって言うかさー その気持ち悪い性格と顔治してから人前でれば？それとも何？自分がマジで顔良いとか思ってるわけ？笑わせんなよ？馬鹿な男落としていい気になっくんじゃねえよ（笑）マジうけるんだけどー ってかさ、オマエのことが好きな男ってさー、超不細工じゃねえ！？可哀想にそんな男しか寄ってこないんだなー 同情するよー 鏡見てから人に物言え。」

うつわあー・・・

久々だなあ・・・ ハルキのマシングントーク・・・

可哀想に・・・泣いてるじゃん

まあいいけど。当然の報い？

「ハルキくうーん 何やってるのぉ？」

「早くこっち来てよー」

「なあにー？その人オー？」

甘えた様な気持ち悪い声が聞こえてきた。

多分ってか、絶対ハルキのことが好きな女の子達だろーなー

ここに居る子達だけで・・・6人居るよ・・・

「わりイー・・・向こう行っててくんない？ってか着いてくんなって言ったじゃん」

めんどくさそあだなー・・・

「ええー ひっどーい、ハルキくうん」

「五月蠅いつて」

「はぁーい」

軽そうな子達だなぁ・・・

「てかさぁー、なんなのぉ？この女・・・見たところ5年か6年だ  
と思うけどぉ・・・」

不機嫌な声を上げながら、まだ目に涙を溜めている藤崎をすごい顔  
で睨んでいる。

女って怖いなぁ・・・

「5年だよ。こっちの男は俺の兄貴」

「ええー！？ハルキ君のお兄さん！？はじめましてえ　ハルキ君の  
お友達でえす」

「抜け駆けしないですよ！！初めましてえ　ハルキ君には仲良くして  
もらってまあす」

はぁ・・・

何この子達・・・疲れるなぁ・・・

「友達じゃねえし、仲良くもしてねえよ。」

「ひつどーい」

ああ・・・気持ち悪い・・・

「ってかさー、ひろ兄もう帰ろうぜ。5時だぞ？今」

もうそんな時間！？

「そだね。帰ろうか！！」

この場に居るの嫌だしね・・・

「ええー！！ハルキくん」

ぎゃーぎゃー騒ぐ女の子達と藤崎をほってばかりとハルキは学校を後  
にした。

なんかもう・・・あれだね・・・

恋する女って・・・怖いね・・・

第15話恋する女は・・・《後編》（後書き）

やっと終わったあ!!

長くなつたなあ・・・後編!!

ハルキが解決しましたねえ・・・

なんかもう、健太とのからみめんどいわあって感じで結局こんな才子になりました（笑）

まあいっか

おっけーおっけー

第16話ばらーらマンゴーがきたあああ！！テーブルの下からこんにちは

はぁ・・・

暗い始まりで誠にすいまめーん！！

はぁ・・・

あの恋する女事件？から2日ですが・・・

あれから、廊下で藤崎とすれ違って変な空気が流れたり、ハルキのことが好きらしいつとおいしい女軍団が寄って来たり、ハルキに助けてやったんだからとパシられたり、

事情を説明した健太と淳、他に笑われたり・・・

といういろあつたけど、一応基本平和でした。

このまま日曜まで平和でいられるかなあ

って思ったのですが・・・この作者がぼくを幸せにする訳がないのです。

そうなのです。

ぼくは甘かったのです・・・

それを今日思い知らされるとは・・・思ってたよ・・・

現在時刻午後8時。

夕飯を食べ終えて、家族そろってりのんびりまったりモードです。

リビングでお菓子&ジュースなどを食べながら、テレビを見ております。

「このバラエティ番組おもしろいよねえ」

楽しそうに笑いながら言う姉ちゃん。

この番組は毎週見ている。

確かにおもしろい！！

「これなんて番組だっけ？」

「忘れたあゝ」

ハルキの問いに笑顔で答える姉ちゃん。

つてか、忘れたんかい！！

まあ、ぼくも忘れたけど・・・

「ぱららーらマンゴーがきたあああああああ！！」

！？

何！？何が起こったの！？何が何でなにをどうしたの！？ストップ  
T H E ストップだよ！！

「あ！！言い忘れてたあ」

え！？

何を忘れたの！？これがあれであつれえーなの！？もう助けて！？  
許して！？

「ただーいま」

は！？

ただいま？

今の状況を説明しますと・・・

変なおじさん？ちょっと若いかな？が我が家のテーブルの下から出てきました。

手には“ぱららーら上等”と書いたマンゴーを持っています。  
そして、ただいまと言いました。

以上。

「おかえりなさい　ダーリン　」  
！？

はい！？ダーリン！？母上の！？  
つてことは……

父上？で・す・か

「ただいま　亜沙羽<sup>あさは</sup>　」

こんな時ですが、お母さんの名前は亜沙羽です。  
つてか、お母さんはよお説明してくりよー  
頼むよおー！ー！

「おつと、ただいまー！ー　俺の愛すべき子供達よおおー！ー！」  
ぎゅううううう！！

絞めてる！！絞めてるよ！！お父さん？

「ギブ！！ギブ！！お父さん苦しいよ！！」  
姉ちゃん受け入れるの早いよ！？

「おつと、すまん　嬉しすぎてな　」  
そう言つてにつこりと言うよりにつかし笑った。  
なんか……

兄ちゃんとハルキと似てるな……



さくらにも・・・ちよい

「もお 駿二さんしゅんじったら 子供達こどもばかり・・・」

ぷくうと頬を脹らませるお母さん・・・

いや、いい年して何やってんの？

恥ずかしいよ・・・

「ゴメン、ゴメン でも、亜沙羽とは毎日会ってるだろ？子供達とは久しぶりだから・・・な!？」

「でも・・・会えない時もあるもん!!」

「しょうがないだろ？仕事がヤバイ時があるんだから・・・な!？」

「もう!!しょおがないなあ・・・子供達ばかり愛さないでよ？」

「俺は亜沙羽を1番愛してるよ？子供達より」

「ほんと？」

「ほんと 亜沙羽にウソ尽いたことないよ」

「うん 駿二さん大好き」

「俺の方が好きだよ」

「私」

「俺」

「私」

「俺」

いつまで続くの？

これ・・・

ていうか、気持ち悪いんだけど？

親じゃないような気がしてきた・・・

ってか、親じゃないほうがいいよ・・・

「母さん、いつまで続くわけ？」

ぼくが言う前にハルキが不機嫌な声で言った。

めっちゃ怒ってるじゃん・・・ハルキ・・・

「あ ごつめーん」

ずっと続けていたお母さんとお父さん？がやっと思めた。

よかった・・・あのままだってたら、ラブシーンでもやりそうだったし・・・

さくらは居るっていうのに・・・

教育上宜しくないよ？

「ってかさー、お母さん！？ちゃんとお父さんのこと説明してよお

」

めちやくちや楽しそうに言うのは姉ちゃん。

めちやくちや受け入れるの早いよ！？

いくらノリだからって！！

「そおねー 説明しなきゃね」

「早くしてくんない？」

ハルキ不機嫌すぎ

「えつと・・・私のダーリン」

それだけ？

えつとお・・・ねえ？

「母さん、ふざけてるつもりはないだろうけど、ちゃんと分かる様に説明しないと、ハルキとひろしとなによりさくらがキレる。」

「あ さくらはヤダ」

兄ちゃんの言葉でお母さんはちゃんと話す気になった様だ。

よかった、よかった

兄ちゃんナイスだよ！！

「えつとねえー・・・あなた達のお父さんよ

」  
すすきしゅんじ

「父さんでーす 名前は知ってると思うけど、鈴木駿二ー！！」  
うん。

名前は知ってるけど・・・  
それ以外知らないよ？

「仕事は？こんなでかい家建てれる仕事してるんでしょ？」  
ハルキが見合いの席で言うようなことを言ってる。

「そおいえば、家でかいね!？」

姉ちゃんは今気づいたの!？」

「でかいのか？」

兄ちゃん!!まだ不思議そうにしないで!？」

「無駄に大きいよ」

さくら!!

無駄とか言わない!!

「んーと・・・ホームレス兼財閥の会長」

ええ!？」

マジデスカ？

両方ともマジデスカ？

「あ マジだからねえ」

お母さん・・・マジなんですか？

「あのさあゝ・・・なんで財閥の会長がホームレスしてるわけ？」  
よく言ったハルキ!!

「ん？ノリだよ ってか、そっちのがおもしろいじゃん 鈴木財閥会  
長がホームレスもやってます!! ってウケない!？」  
会長って忙しいけど、暇だと思いたくてさあ」

思いたいだけ!？」

ってか、おもしろいっという理由だけでですか!？」

・・・姉ちゃんとハルキの親だあ・・・

「じゃあ、おっけー」

「ノリは大事だもんねー」

姉ちゃんとハルキの2人は認めちゃってるし……

「私は元からお父さんだつて知ってるし」

「俺はどーでもいいし」

兄ちゃんとさくらはこんなだし……

「うん ていうか、みんながもし認めてくれなかったらお母さん  
グ  
れる予定だったんだけどなあー」

お母さんこんなだし……

「ははは さすが俺と亜沙羽の子供達だ」

お父さんこんなだし……

「ひろしも認めてくれるわよね」

「認めてくれなきゃ、俺と亜沙羽は不良になっちゃうぞ」

「ひろし 別にいいでしょ!？」

「どーでもいいだろ」

「ひろ兄、おもしろいんだからいいじゃん」

「ひろ兄ちゃん、認めるも何もこれがお父さんだからしょうが  
ないよ!!元氣出して!？」

うん……そうだね……

なんか、もういいや……

「もう……なんでもいい……」

「そお よかったあ でも……駿二さんと不良になるのも楽しそ  
うだったんだけどな」

「俺は、亜沙羽とならなんでもいいよ」

「駿二さんったら」

「あつはつはつはつは」

「ふふふふ」

なんで・・・なんで・・・こんな親なの？

ねえ、ぼくは基本まじめだよ！？

ていうか、なんでテーブルの下から出てきたの！？

「あ！！いい忘れてたけど・・・テーブルの下は俺と愛するファミリーを繋ぐ秘密の地下室だからな」

お父さんそんなこといい忘れないでよ！！

「ほかに結構な仕掛けがこの家にはあるからなあ  
なんでそんなの作ってるの！？」

「ちなみに俺と亜沙羽の趣味だから」  
趣味かい！！

もう・・・本当に・・・

なんで？

（大人になるためには受け入れなきゃいけない現実があるんだよ。）  
最後、作者が閉めるの！？

第16話はらーらマンガーがきたあああ！！テーブルの下からこんにちは

お父さん登場です！！

なんか、ラブラブですね・・・キモ・・・

書いてて鳥肌立ちましたよ！！

ひろしは・・・ほっといてえ

家の仕掛けとかは後々書くと思います！！・・・たぶん

とりあえず

お父さん登場イエーイってことで

## 第17話まさかの子ステリー！？

「よっしゃあー！！俺子沢山」

「お父さん現実でも子沢山じゃん」

「そーだったあ」

「次さくらの番だぞー！！」

「うん！」

「さくらも子沢山かあ！？」

「まだそおいうルートじゃないってー！！」

「そーか」

「そおいう年でもないよねー」

「杏里うまい！！」

ナンデス力？

この微笑ましい光景は？

今、家族そろって人生ゲームをしています。

ってか、なんで人生ゲームなんだ？

「ひろしの番だぞお」

もうすっかり馴染んでるなあ・・・お父さん・・・

「うん・・・」

とりあえずルーレットを回す。

「おお！！ひろしも子沢山1歩手前だ！！」

1歩手前かよ！！

確かに子供やたら多いな・・・4人居るんですけど・・・

「ひろ兄かあ・・・意外だなあ」

何が意外なんだ、ハルキ

「なんか子供そんなに作らなそうだもんねえ」

姉ちゃんはなんでそんなに嬉しそうなの!?

「ひろしは健全」

兄ちゃんなにが!?

「ひろ兄ちゃん、子供0人目指してます!!」

なんの目標!?

「ダメよお 私と駿二さん以上に作ってもらわないと」

「孫は多い方がいいもんな」

あなた達はどんだけ孫を抱く気ですか?

「ていうかさぁ・・・今思っただけど・・・4人が子沢山1歩手前なら、5人のお父さんとお母さんは子沢山じゃないんじゃないの?」

・・・なんか痛いところ突くね・・・姉ちゃんって・・・  
実際どうなんだろう?

「誰が5人って言ったの」

「たった5人な訳ないじゃないか」

・・・はい?

えっと・・・はい?

「それって・・・まだ兄弟が居るってこと・・・?」

なんとか言葉に出来ました。



「「そーだよ」」

笑顔で言わないで!?

そんな大事なことなんで今まで黙ってたの!?

それ以前になんどこに居ないの!?

ってか、どんだけ兄弟居るの!?

「その兄弟今ここに呼んで。」

兄ちゃん冷静だね!?

まあ、そうして貰うのが1番良いと思うけどさあ・・・

「あつ!もう来てるから 俺連れて来たもん」

マジデス力?

「おーい!!出てきていいぞお」

その声を合図にテーブルの下から3人出てきたんすけど?

マジですか?

ドッキリとかじゃないですか?

「紹介するぞお みんなちゅーもーく」

なんでそんな嬉しそうなの!?

ぼく等の驚いてる顔がそんなに嬉しいですか!?

ああそうですか!?

「えつと・・・1人、1人自己紹介するぞお」

兄弟で自己紹介ですか?

とっても珍しいシーンだと思うよ。

女の子2人に男の子1人だ・・・新しい兄弟は・・・(何気受け入れ早いやん)

招き猫さんを見てきてるからね・・・(納得)  
ってか、めっちゃ小さいんですけど!?

「コホン・・・えっと、この子は4歳！！鈴木ミリアすずきって言うんだあ 可愛いだろ？」

親馬鹿ですか？

まあ・・・さくらに似てるから、可愛いんだろうけどさ・・・（兄馬鹿ですか？）

「鈴木ミリアです！！お兄ちゃんとお姉ちゃんに会えて嬉しい これからここに住むのでお願いします」

ここに住むの！？

これから！？

「というわけだからあ」

というわけじゃないよ！！

「じゃあ・・・次なあ この子達は双子なんだあ」

双子なの！？

って見れば分かるけど・・・

同じ年ぐらいだし・・・

すずきりんな

すずきりんこ

「鈴木凜南と鈴木凜十だ 男の子と女の子の双子でまだ2歳なんだよ」

そーなんだ！！（なんか諦めたか！？）  
うん。

なんかこういう親だからしょーがないよ！？

もう、なんでもこいつて感じ！？

「これからは、兄弟全員お母さんとこの家で暮らしてもらおう！！」  
「なんで？」

珍しいなあ・・・兄ちゃんが食い付く？なんて・・・

「俺の仕事が忙しくなってきたんだ・・・俺も愛するファミリーと居たいのに・・・うう（泣）」

マジ泣きですか！？

とりあえずハンカチを差し出しといた。

「ありがとう・・・ひろし！！」

抱きしめられると暑いんですけど・・・

「俺もちよくちよく帰って来るようにするけど・・・俺のこと忘れないでね！！忘れたら泣くからね！！」

ぼくを離して、なんか力説してます。

「なけー」

「けれー」

なんか・・・双子コンビが恐ろしいこと言ってるんですけど？

「ヒドイ！！俺のことはもうどうでもいいのか！？」

昼ドラですか！？

「いいー」

「かねー」

今度もなんか恐ろしいんですけど！？

「なんだって！？俺なんかどうでもいい！？金置いて出てけ！？」

恐ろしいな！！

「ヒ、ヒドイ・・・今まであんなに尽くしてきたのに！！」

こっちは怪しいこと言ってるよ・・・

「しらんー」

「ぶたー」

今度はなに！？

「な、な、なんてことを！！尽くして貰ったことなんて知らん！？

このオス豚が！？」

ヒドイな！！

「はいはい 駿二さんは後で慰めてあげるから 泣かないの」

「うわーん！！亜沙羽ー！！」

「よしよし」

うつわあー・・・なんか何？

この奇怪な光景・・・

お父さんは泣いてるし・・・お母さんはそれを慰めてるし・・・姉ちゃんとさくらはミリアと凜南と凜十と遊んでるし・・・

ハルキは寝てるし・・・

兄ちゃんは・・・お菓子食べてるし・・・

ぼくはどうすればいいんでしょう？

とにかく

鈴木家に3大家族が増えました。

これで、4男4女の8人兄弟・・・10人家族です・・・

ああ・・・

めちやくちゃ五月蠅い・・・

第17話まさかの子ステリー！？（後書き）

兄弟増えましたー

どんだけ増えるんでしょうかね！？

増やす予定は・・・どうでしょうかね（笑）

ちなみに双子は・・・最初に変なこと言ってるのが凜十で後から言ってるのは凜南です！！（なんの説明だよ）

## 第18話恐怖の日曜日!? 〈前編〉

「おっじゃましーす」

ついに……。ついに……。この日がやって来てしまいました……。恐怖の日……。日曜日です……。いつやだああ!!

糞ナルを家に入れたくなあい!!!

ああもう!!

やだよお……。 (よっぽど嫌なんやな。)

「いらっしやーい」

お母さん笑顔でみんなを居れないで!!

昨日お父さんとかが来て嬉しいのは分かるけどさ!!

「やあやあ、こんにちは!!お母様!!今日もお綺麗ですね!!」  
糞ナルがなんか言ってます。

人の母親に何言ってるんだ?

「あらあら ありがとう だけど……。あんたのお母様じゃないわよ 次言ったら埋めるよ」

怖いよ……

「は、はい!!以後気をつけます!!」

相変わらず、女の人に弱いなあ……

「亜沙羽さん、こんにちわあ」

「きゃー 淳くん久しぶりー 相変わらず可愛いわね」  
「どもです」

淳との会話が弾んでいるようで……

お母さんは、可愛い子が好きだから……後面白い子

「亜沙羽さん、これうちのおかんからです!!」

「まあまあ　ありがとう　健太君　恵理えりさんにもお礼しなきゃ　健太君も相変わらずいい感じね」

なんが いい感じなの!?

お母さん健太もお気に入りで……なんでかは知らないけど……Sだから!?

ちなみに健太のお母さんの恵理さんと家のお母さんは仲がいい。

「今日は。お久しぶりです。亜沙羽さん!家の親もこれを持っていて……つまらないものですが、貰ってやって下さい。」

「ありがとう　哲くんはいつも礼儀が良いわねえ　成績も良いしひろしにも見習ってほしいわあ」

うるさいな!!

どーせ、成績も平均点ですよ!!

コナン君は成績良すぎだよ!!

「どーも、今日は突然お邪魔してすみません。あまり騒がない様心がけますので。」

「まあまあ　良いのよそんなこと　なんなら家で花火してもいいわよ　悠馬君ゆうまも礼儀正しいわね　さすが児童副会長ね」

突然ですが、新キャラです。

はまなかゆうま浜中悠馬ゆうまについて、児童副会長をしている超真面目な奴!

真面目さではコナン君と張るほど!!

頭は当然良い。

かなりのしつかり者。面倒見が良い?

「どおも　おひさでーす　いつ見てもでっかい家っすねー」

「無駄に大きいでしょお　旭あさひくんめっちゃ久しぶりねー　相変わら

ず可愛いけどお」

また新キャラです。

たちはなあさひ橘旭、1言で言う……馬鹿です。

バナナと張る馬鹿です。

だけど、面白いし顔はカッコイイと可愛いが混じった感じなので（  
どんなんだよ）クラスで愛されています。

なんていうか・・・ノリノリです。

ハンバーグLOVEです。

意外と苦勞人です・・・

「邪魔でえゝす マジで花火していいっすか!？」  
言い訳ないだろ!？」

「いいわよお バナナ君黄色ね」  
いいの!？」

つてか、バナナ君つて!!

黄色ね つて主語を入れて!!

「壁ぶつ壊していいですか？」

番なに言つてんの!？」

言い訳ないじゃん!!

「いいわよお」

いいの!？」

「すいません、嘘です。」

嘘かい!!

「なんだあ 嘘なの わかりづらいよお」

確かに分かりづらい・・・

つとまあ・・・今日はこの8人が家に来たわけです・・・はあ・・・

「ひろし君!!」

うっげ!!

もうお分かりだろうが、糞ナルが寄つて来ました。  
来るんじゃない!!

「杏里さんはどこだね!？」



「部活」

今日も姉ちゃんは部活だ。もうすぐ帰って来るけど・・・

「なんてことだあ！！感動の再会があ！！」

寝言は寝て言え。

「とにかく、ひろしの部屋行こーぜ」

バナナ勝手にぼくの部屋に入ろうとしないで！！

「あれ！？鍵かかっているじゃねえか！！」

念のため鍵かけといてよかった

糞ナルに入られたら大変だから・・・

「あれえ！？使ってる部屋が増えているじゃん！！前はここ使ってたのに！！」

淳・・・そこは・・・昨日知ったばかりの妹と弟の部屋だよ・・・

「そこは・・・ミリアの部屋。隣は凜南と凜十の部屋。」

「誰だよ！？」

健太・・・そりや分からないよな？

長い付き合いでも・・・分からないよな！？

普通、昨日知った兄弟とかありえないよな！？

なんとか言ってくれ！！

「新しい妹と弟だよ。」

あっさり言ってるのは、ハルキです。

ってか、いつの間に・・・

「ええ！？」

全員声揃えて驚かないでくれ・・・

「なんか、昨日お父さんが来て・・・」

「ひろしお父さん居たのか！？」

淳・・・あんまり突っ込まないでくれ・・・

「ぼくも、昨日会うまで死んだと思ってた。」

「ええ！？」

だから声を揃えて・・・

「勝手に殺さないでって感じよお」

ならもつと早く会わせてくれればよかったじゃん・・・

「亜沙羽さん結局どいうことなんすか！？」

旭めっちゃ興味津々だな・・・

「かくかくしかじかじかこれこればればれなのよ」

「ええ！？」

だから声を揃えて・・・

普通驚くか・・・はあ・・・

「ひろし・・・お前も結構大変なんだな・・・」

「分かってくれるのか・・・旭・・・」

なんていい奴なんだ！！

「大変だったなあ　ひろし」

健太なんでそんなに嬉しそうなんだ？

「ひろしに大変な思いは、付き物なんだよ！！きつと！！」

それはどおいう意味ですか？淳さん？

「ひろ兄よかったな　こんなにひろ兄のことある意味理解してる友達居て」

ハルキ・・・何故そんなに嬉しそうなんだ？

ある意味って・・・

「大丈夫だ！！ひろし君・・・杏里さんは必ずこの僕が幸せにし」  
てめえは黙ってろ！！」

糞ナルが喋るとイラつきます。

「何騒いでるの??? ひろお兄ちゃん」

ミリア登場……

このタイミングで?

「おお!! ひろしの妹じゃないだろ!?!」

「絶対違うだろ!?!」

「ひろしは突然変異なんだよ!!」

「そーだよ!! 触れないでやれ!!」

「そつかぁ……ゴメンな?」

「可哀想になぁ……」

「つてかさぁ……兄弟の誰とも似てないよね? ひろしつて」

「大丈夫 ゴミクスでも生きてるんだからさ」

……泣泣泣泣

みんなヒドインですけど?

なんかもう……ヒドインですけど……

「ひろし……大丈夫だよ? 生きてれば必ず1つは良いことがあるから」

「そうだよ……気を落とすな?」

「ありがとう……コナン君!! 悠馬!!」

2人ともなんていい人なんだ……ぼくには2人が神に……仏に見えるよ!!

「そうだよ!! ひろし君!! 僕のようにイケメンな生き方はムリでも「うるせえ!!」」

糞ナル……地獄にオチ口……

とりあえず、ミリアと凜南と凜十を紹介しといた。

くリビングく

結局リビングに移動しました。

何故か、ミリアと凜南と凜十も居ます。

「ゲームしようぜえ」

バナナ・・・結局ゲームなんだな・・・

「げーむ」

「こわすー」

ああ・・・双子コンビがまたなんか言つとる・・・

「ゲーム壊して遊ぼうだつてさ」

のんきに通訳するなよ・・・ハルキ・・・しかも嬉しそう・・・

壊すのはダメだからな！！

「それいいな！！」

よくねえよ！！

何考えてんの！？バナナは！？

「君達！！今日の目的を忘れたのかね！？」

無視

全員ナルはスルーです。

「てか、ゲーム壊さないでよ！？」

「ダメなのか？」

「ダメに決まってるじゃん！！」

ダメでしょ！？普通

「じゃあ・・・ナルで遊ぶか」

健太・・・S発動か？

まあ、ナルならどこでもいいけど・・・

「杏里さんが帰って来たらおもしろいことになりそうだよなー」

旭・・・人の姉で遊ぶ気か？

まあ、いいけど・・・（いいのかよ）

「ただいまー」

「ただいま飯」

「ただいま」

タイミング良すぎじゃない!？

第18話恐怖の日曜日！？〈前編〉（後書き）

ひろし・・・タイミング良くしないと話が進まないんだよ！！  
空気読めよ！！

それにしても・・・言われない放題だな　ひろし  
楽しいからいいけどね

続きどうしよーかなあ・・・

## 第19話恐怖の日曜日！？〈後編〉

「おおおおお！！杏里さんか！？杏里さんなのか！？」

見苦しい始まりですいません。

誰の言葉かは、お分かりですよ？

糞ナルです。

あーうるさ・・・

「なんか靴いっぱいあるけど・・・誰か来てるの？」

完璧姉ちゃんの声ですね。

「あ、あ、あ、杏里さんの声だあああああ！！」  
五月蠅い。

「五月蠅い」

兄ちゃんの言うとおり、ってか一言ですか！？

「人ん家でぎゃーぎゃー騒ぐな！！」って感じたよねえ  
「何気怒ってない！？さくら・・・」

ガチャ

ああ・・・入ってきてしまった・・・

「たっただいまー」

ぼくの気持ちとは、裏腹に明るい声の姉ちゃん・・・はあ・・・

「おつかえり」

お母さんもやたら明るいし・・・

「飯」

いやいや、第1声それですか！？

兄ちゃんお腹すきすぎでしょ？

「はいはい」

素直に応答！？

「疲れた・・・仕事やつと終わって帰って来たのに・・・なんなの？でかい声でさあ・・・うつとおしい。」

めっちゃキレテルよ・・・

「さくら 変な子だからしょうがないでしょ」

はつきり！？

「まあ・・・そーだけどさあ」

納得！？

「おじゃまでえす」

みんななんかテンション上がってない！？

「きゃー 健ちゃん、淳、久しぶりー！！」

お母さんと同じような反応じゃない！？

そんなに嬉しいことなの！？

「「お久しぶりです！！」」

2人は元氣にお返事してるし・・・

糞ナルは2人をすっごい顔で睨んでるし・・・

「バナナっちも久しぶりー」

「ども！」

今度はバナナを睨んでるし・・・

「コナン君 久しぶりー 相変わらず頭良さそうだね」

「お久しぶりです！！そんなことないですよ？」

コナン君を睨んでるし・・・

「歩夢君もお久ー また背伸びたんじゃない！？」

「どうも・・・計ってないから分かんないっす」

番を睨んでるし・・・

「悠君もめっちゃ久しぶりー 副会長になったんだって！？」

「お久しぶりです。はい！一応・・・」



悠馬を睨んでるし・・・

「旭っちー 久しぶりー」

「どおもつす」

旭を睨んでるし・・・

「その子は・・・えつと・・・初めまして？」

糞ナルを見て姉ちゃんがそんなことを言いました。

かなりシヨックを受けている様子の糞ナル。

ざまあみろ。

ハルキがひそかに笑っている。

・・・ってか大爆笑？

「・・・ひろし君！！なんとか言ってくれたまえ！！」

嫌です。

「ヤダ」

「なんてことを！！僕のためじゃないか！！」

知るか

「なんでぼくが？お前のためとか知らねえよ。」

「ぬわんてことをお！！」

だから知らないって

「自分でなんとか言えよ。」

はぁ・・・ウザイ

「・・・しょうがないな・・・」

しょうがないとか言われたくねえよ。

「あ、あ、杏里さん？僕のこと覚えておらっしよいましよんでしゅか？」

噛みすぎ

しゅか？ってなんだよ

健太と旭とハルキ笑いすぎ。

「えつと・・・噛みすぎじゃない！？」

突っ込まれてるし・・・

糞ナル顔真つ赤になつてるし

ご愁傷様・・・（ポクポクチーン）

「しゅみましえん・・・」

また噛んでるし・・・

んで、笑いすぎだつて・・・いいけど

「また噛んでるし（笑）」

あーあ・・・姉ちゃんも笑い出したよ（笑）

「えつとお・・・僕・・・1度会ったこと・・・あるんですけど？」

「ええ！？うつそお！？全然まったく記憶にない！！」

ヒドイよ！？

糞ナルだからいいけどさ

めっちゃ×100シヨツク受けてるじゃん

んで、笑いすぎだよ！？みんな・・・

「そ・・・です・・・か・・・」

この世の終わりみたいな顔してるよ・・・

「えつと・・・ゴメンね？」

「イエ・・・」

廃人みたいな顔してる・・・

みんな笑いすぎね！？

「はいはい　おやつですよー」

糞ナルで遊んでたので、気がつかなかつたけど・・・もう3時でした・・・

「ありがとうございます。」

「わざわざすみません。」

コナン君と悠馬だけだよ・・・そんな風にお礼言ってくれるのは・・・

なんていい人達なんだ・・・

ほかの奴は、イエーイ　とか、おっやつー　とか、杏里さんがああ

「！！と言ってるだけなのに・・・」

「おお！！うまそうですね」

「亜沙羽さんが作ったんすか！？このケーキ」

健太と旭がそんなことを言ってます。

それ、作ったの・・・ぼくなんだけど？

「あらあ 私じゃないわよ」

「そーそー、母さんの作った料理食ったら死ぬって」

「ハルキ 後で覚えといてね」

お母さんの後ろからドス黒いオーラが・・・

「え！？じゃあ、誰ですか？」

ぼくですけど・・・

「あ！！分かった！！杏里さんだよ」

淳・・・ぼくだよ？

「杏姉の料理・・・おえ・・・」

ハルキ・・・気持ち分かるぞ・・・

「ひどくない！？」

でもヤバイでしょ？姉ちゃんの料理・・・うっぷ・・・

「じゃあ、誰が？」

「ひろしよ」

「・・・ええ！！！？？」

全員声揃えて！？

そんなに驚くこと！？

「ひろしに得意なことがあるなんて・・・」

「世界は終わりだああ！！」

「ありえない！！」

「嘘だと言ってくれえ!!」

ヒドイよ!?

そんなにぼくに特技があるのが変なの!?

「ひろし・・・僕等はそんなこと言わないからな?」

「うんうん」

「ありがとう・・・コナン君!悠馬!」

2人とも毎回のことながらなんていい奴なんだ!!

「ひろしは、パリのコンクールで優勝するほど料理上手なのよ」

「ええ!?!」

そんなに驚かないでよ・・・

「人間なにかしら特技があるもんだな!!」

「ひろしでもな!!」

「ゴミクズがゴミに昇格したな」

おい!!

ヒドスギルヨ?

「君達!!今日の目的を忘れたらいけないんじゃないありませんことですか?」

弱気になったな!?

糞ナル・・・多分、姉ちゃんに忘れられてたからだろうなあ

「もう、フラれてるだろ 大丈夫だ同情だけはしてやるよ」

健太がとどめをさしました。

Sだな・・・

糞ナルはなんか魂抜けてます。

（ナルの恋は終わった。てゆうか始まってもしなかった ひろしの  
意外な特技があきらかにそれだけでこの話はいいんだよ ナルはか  
ませ犬だよ）

なんで最後作者が閉めるの！？

第19話恐怖の日曜日！？〈後編〉（後書き）

ひろしに特技があるとは！！  
世界は終わりだああ！！

まあどーでもいいとして・・・  
とにかく言われない放題だな ひろし  
もっと言ってもよかったけどね

とにかく終わってよかった よかった

## 第20話居酒屋作者！？愚痴聞きます？

はい、どーも

今回は20話と言うことでね、特別編やっちゃおうぜ 的なノリなわけですよ。はい

10話ではね、招き猫さんのタイトルマッチをしたわけなんですが・

・

はつきり言って飽きたんですよ。

そんな何回も同じことできるかーてめーってわけだね。

今回は、居酒屋的なノリでね、

キャラの愚痴を優しく聞いてあげようと思いましてね。

聞くだけですよ？はい。

別に改善してあげる気はさらさらありません。

だって私がおもしろくないじゃないですか！！

キャラがどうなろうと知ったこっちゃありません。

特にひろしは、苛めるためにいるようなもんですからね。

だからおっけーです。

前置きはもういいでしょう・・・めんどいですしね

ではあ

くひろし

「ちょっとマスター！！聞いてよ！！」

「ヤダ。」

終了

く 健太 く

「マスター!! 聞いてくれよ!!」

「ん? どうしたん?」

「なんで俺がSキャラなんだよ!!」

「どう考えてもSやん」

「そおだけどさ・・・」

「認めるんだ」

「なんかねえ!?!」

「何がだよ」

「じゃあさ・・・もつとひろしをいじれよ!!」

「イジるから大丈夫!!」

「よっしやあ!!」

「やっぱSじゃん・・・」

終了

く 淳 く

「へい! マスター!!」

「いらっしやーい」

「あのさぁ・・・もつと占いの話書いてよ!!」

「海月先生に頼め。終わり」

「ヒ、ひどい!! うわーん!!」

「ばたん!! (トイレが閉まる音)」

「特別編でまでやるな・・・」

終了



くバナナく

「よお！！マスター」

「よお！！バナナ」

「もつと悪戯させてくれ！！」

「めんどいからヤダ」

「なんだとお！！」

「逆らうなら、出番なしだぞ」

「はい・・・」

「うちに勝てる思っな！！」  
終了

くパイナップルく

「やつほお　マスター」

「お前まだ出てへんやろ！！」  
終了

くコナン君く

「今日は。マスター」

「やつほ」

「あの・・・なんで僕が地味な役なの！？ふざけんな！！あいつらがめちやくちややるから押さえ役やってやってるだけだよ！？なのになんで！？出番少くない！？」

むしろ僕が主役でいいじゃん！！」

「・・・落ち着いて！！」

「はい・・・」

「気持ちは、分かるで！？分かるけどな！？大人の事情つてもんがあるやる！？地味がなんや！！蹴散らしてまえ！！」

「分かった！！頑張るよ！！蹴散らすよ！！僕の逆襲話書いてね！

！」

「はいはい（それは分からん）」

終了

〈番〉

「よお、マスター！」

「よお！！」

「特に理由はないけど、来た。」

「理由ないんかい！！なんで来たんや！？」

「なんとなく。」

「・・・おい」

「嘘」

「分かりにくいっちゅうねん！！」

終了

〈ナル〉

「おい！！作者あ！！」

「マスターって言わんかい！！どあほ！！」

バキィ！！

「ぐはあ！！・・・フツ・・・さ・・・すが・・・僕・・・倒れても・・・

・男・・・前・・・」

ドゲシィ！！

「ごぼお！！」

終了

く悠馬く

「こんばんは。マスター」

「おこんばんはあ」

「さっき、コナン君は今日ばって言ってたけど・・・昼か夜どっちですか？」

「細かいなあ、時間が経つのは早いねん!!」

「そうなんですか!? つか、早すぎでしょ!？」

「突っ込みできてんな。」

「一応？」

「疑問系かい!!」

「僕、副会長ですよな？」

「そーやで？」

「もっと児童会のこと書いてください!!」

「意外と直球やな・・・」

「僕を活躍させてください!!」

「なんか・・・真面目キャラみんな崩れていきよるやん・・・」

「これが本性です!!」

「そおいうこと言ったらあかん!!」

終了

く旭く

「マスター」

「なんやねん!!」

「俺をもっと出すべきだと思うな」

「なんで、みんな特別編やったら直球やねん!!」  
「ぶちまけれるから」  
「だから、そあいうこと言うな!!」  
「ハンバーグの話の書いてよ!!」  
「気が向いたら・・・多分・・・おそらく・・・分からん・・・」  
「そんなんが作者してていいのか!!」  
「やかましいわ!!ふざけんなよ!? 出番なくすぞこらあ!!全員  
の要求なんか答えてられるかあ!!アホ!!うちは、基本ノリなん  
や!!適当なんや!!うちになんも求めるな!!」  
「・・・すいません・・・」

終了

くのぶつち

「ちよつとマスター聞いてよ!!」  
「どうしたん?のぶつち」  
「うちのクラスの奴らなんなんだ!!」  
「なんなんだって言われても」  
「疲れる!!」  
「先生なんかになるからや!!」  
「ヤケ酒だあ!!」  
「ビールでええか?」  
「おう!!おりやあ!!!!」  
「気合入れて飲みすぎや!!」  
「ごほごほ!!」  
「ほらむせた」

終了

く ひろし父く

「へい！！マスターリオン！！」

「誰やねん！！」

「なんで俺は仕事なんだ！！」

「別にあんたが仕事ちゃうやん」

「愛するファミリーとのコミュニケーションがあああ！！」

「男が泣くな！！」

「だってだって・・・凜南と凜十がヒドイんだよおお！！」

「やかましい！！2人のキャラやからしやあないやろ！！」

「うわああ！！もう飲んでやる！！」

「金払えよ」

終了

ややこしいキャラ達やなあ・・・

まあ、言いたいこと言わしたったからええやろ

こんな優しい作者に感謝して貰いたいもんやで

「作者あー！！ぼくの愚痴聞いてないじゃな」やかましい！！黙つとけ！！」

見苦しい奴が入って来て申し訳ありません。

ほんまに・・・クズが

「なんか機嫌悪くない！？」

「お前が特技とかあるからやろ！！」

「自分が作つたんでしょ！？」

「なんのことが分からん」

「ちよつとちよつと！！」

「ちよつと、ちよつとちよつと？」

「なんでタッチみたいな!!」

「ノリや」

「・・・しょうがないな・・・」

「うるさい。まあ・・・招き猫さんに可愛がって貰うからいいねんけどな」

「え?え?えええええ!!!!??」

「じゃ!そおいうことで」

「ちよつと待つ「終わり終わり」」

## 第21話シャボン玉事件！？

「じゃーなあ！！」

「ばいばい」

学校が終わって、健太達と別れたところです。

はあ・・・日曜日はさんざんだったなあ・・・

ってか、特技が1つあるだけであんなに驚く！？普通・・・

みんなヒドイんだから・・・

「ただいまあ」

「お帰りー」

お母さんめっちゃめっちゃ機嫌いいじゃん・・・

またなんかあったの？

何があったのか気になったけど、いつもどおり部屋に先にかかる。

ガチャ

リビングに入って・・・何コレ・・・ねえ・・・何？

「あ！！ひろしお帰り」

「ひろ兄遅かったな！！」

「ひろ兄ちゃんお帰り！！」

「ひろお兄ちゃん、お帰りなさい！！」

「りー」

「りー」

笑顔でお出迎えですか？この状況で・・・

何やってんの？

「何コレ？」

「見て分かんない？シャボン玉だけど？」

見れば分かるけどね？

でもね？普通この状況見たら誰でもこう言つと思つよ？うちの家族は例外としてね？

「うん・・・それは分かるけど・・・何で家の中でやってんの？しかもシャボン玉でかくない！？」

そう・・・この人達は家の中でシャボン玉をしていたのです。

しかも・・・超巨大シャボン玉も混じっています・・・マジ何やってはるんですか？

一瞬風船かと思いましたよ？

風船よりもでかいですけどね？

「楽しいかなって」

お母さん・・・あなた止める側でしょ？

何先導切ってるんですか？

「いえー」

「こわすー」

家は壊したらダメですから！！

双子コンビちゃん何言ってるんですか？

「あらあら 壊してもいいけど、ちゃんと金稼いでね」

お母さん・・・あなたに常識はないんですか？

「んで、俺に小遣いくれな」

2歳の弟と妹にたかる気ですか？ハルキさん？

「私には仕送りしてね」

どこにですか！？

家ここですよ！？

さくらは仕事してるっしょ！？

「私には・・・えつとえつと・・・」

ミリア・・・悩むとこじゃないからな？

「しゃぼんー」

「こわすー」



ダメだっ・・・いや・・・それはいいけど・・・  
いつかは壊れる物だしね？

「やねー」

「あたるー」

うん・・・外でやったらあたるだろうね？

「やねー」

「こわすー」

逆！！

逆だから！！

屋根が壊れるんじゃないから！！シャボン玉の方だから！！

「じゃあ、入ろうか」

はい！？

入る？

どこに？

「はいー」

なんで素直に応答してんの？

ちよちよちよと！！

超巨大シャボン玉の中に入って・・・浮いてるって！！

おわあ！

割れそうになってるって！！

いくらなんでも、6人は入りすぎだって！！

ぎよえ！？

変な反応しちやっただじゃん！！

「きゃー 楽しい」

「最高」

「ふーふー」

「われるー」

「ぐしゃー」

言ってる場合か！！

状況考えろー！！

あ・・・あ・・・天井に当たってるって！！  
わーわー！！

火災探知機に当たってるって！！ダメだって！！  
ぐにやっとなってるって！！

あー！！

内側から突いちゃダメー！！  
きゃっきゃ 言うてる場合かー！！！！

母上も突くの手伝わない！！

何やってはるんですか！？

（あのさあ・・・口に出して止めたれよ！）  
止めると思う？（思わん）

でしょ！？

だからしよーがない（あつそ）

「割れそー」

「誰が1番うまく着地できるか競争しよー」

「いいな」

「やるー」

「やるー」

「よーし 壊すわよー」

ちよちよい！！

待ちなされ！！

ぼくが非難するまで待ちなされ！！

凜南と凜十もやるの！？

2歳だよ！？まだ

まあ・・・大丈夫か？

パン！！

結構な音がして、シャボン玉は割れた・・・リビングの中に石鹸っぽい物を撒き散らしながら・・・  
みんなが落ちてくる中・・・ぼくはこんなことを考えていた・・・

ああ・・・掃除大変そうだな・・・

「よっしやー！！着地成功」

1番に降りてきたのは、やっぱりハルキ  
運動神経はいいからなあ・・・うんうん。

「2番 まだまだ若いわねえ 私も」

2番はお母さん・・・若くもないですよ？

36歳ですからねえ・・・

まあ、運動神経は衰えてないようで・・・

「イタ！こけたよお やっぱ運動ダメだなあ」

3番はさくら。

運動は苦手だからねえ・・・

「よっこいしょーいちろうー！！」

誰だよ！？

4番はミリアです。親父くさいこと言ってるなあ・・・  
キャラが崩れるぞー

でも、着地はちゃんとしている。運動は得意なようだ

あれ？

双子コンビは？

まさか・・・

ガン  
ゴン

うん・・・まさかだったね・・・よく考えれば2歳だもん・・・出来るわけ・・・ないよね？

大丈夫だよ？ちゃんとお葬式はしてあげるからね？

「いたー」

「しぬー」

・・・生きてました。

「ドジだなあ　ちゃんと着地しろよー」

ハルキ・・・それはムリだと思うよ？

「ほんとねえ　私と駿二さんなんか、赤ん坊の頃からこういうことやってるわよ　」

何やってんですか!？

おじいちゃんとおばあちゃん何考えてんの!？

「こわすー」

「あたまー」

ダメダメ!ー!何言っちゃってんの!？

ダメだよ!？

てか、どんだけ壊せば気がすむの!？

「あ!ー!そだ　」

ハルキがニヤって顔をしました。

嫌な予感がびゅんばびゅんします。

何6人で集まって、ごによごによ言ってるの!？

作戦会議ですか!？

「ひーろーしー　こっちいらっしやい　」

嫌です。母上。

「ヤダ。　」

「矢田さんなら近所に居るでしょ　」

そおいう意味ではございません。



(こ愁傷様)

「うーん．．．．．」

「ひろ兄起きた!!」

「んー．．．ハルキ？」

「うん。俺俺」

「俺俺詐欺ー？」

「違うし」

ぼくは死なずに済んだらしい．．．マジびびった．．．

「「ひろし起きたの!？」」

お母さんと姉ちゃんの声が聞こえる．．．

「あー、よかったあ!!」

ぎゅう

「イッター!!」

お母さんと姉ちゃんに抱きしめられて分かったこと．．．頭が痛い．．．

「あ!ゴメンゴメン」

ゴメンじゃないよ．．．マジで痛い．．．

「頭打ってるから、寝とけよ。」

兄ちゃんの声?

「兄ちゃん帰って来てたの?」

「うん。」

今何時なの?

「今、もう8時だよ?」

マジで！？めちゃくちゃ寝てたなー・・・

「ご飯と掃除はどうしたの!?」

ぼくは主婦か？

「お前は主婦かよ？」

ごもつとも。

でも気になるし・・・いつもぼくがやってるからなあ・・・ご飯は特に。

「ハルキがやったから大丈夫」

「ハルキが!?」

「何その意外そうな顔？」

「いや・・・」

だって、ハルキいつもそんなことしないし・・・料理はまあまあ上手だけどさ・・・

「杏姉とか、母さんの料理なんてたまったもんじゃないし!!だから、作っただけ。」

ぼくから目を逸らしてそんなことを言っている。

「そっか・・・ありがと」

「だあかあらあ!!不味い飯はやダから作っただけ!!」

「あのさあ!!不味いつてヒドクない!？」

「ほんとのことだろ？」

「お兄ちゃんまでヒッドロー!!」

ぎゃーぎゃー騒いでる・・・

まあ、この五月蠅さがうちには、ちょうどいいんだろうなあ・・・  
なんか落ち着くし・・・

そのままぼくは眠りについた・・・

「ひろ兄!!おっはー」

「おはよ、ハルキ!!」

朝・・・めちやくちやくよく寝たので気持ちがいい!!

今日は大事をとって休むことにした。

もう、ハルキ以外は学校、幼稚園、仕事、その他・・・に行つた。  
いつもハルキが1番最後に家を出るのだ。

「じゃあ いつつてくる」

そう言つて、ぼくの頭を叩いて・・・痛い!!痛いって!!

「イタ!!痛いっていった!!」

ぼくの反応を見て満足そうに出て行きました・・・

1晩経つたら元に・・・Sに戻つてるし。

おまけ

「のぶうち」

「なんだ?笹川達?」

「なんでひろし休みなの?」

「シャボン玉とワインが襲つて来て、家と格闘したら負けて、頭が  
つきーんだからだそうだ。」

なんだよそれえ!!!(クラス全員の心の声)



## 第21話シャボン玉事件！？（後書き）

ひろしをもつと苛めたほうがよかったかなあ（笑）

これから苛めるんではないですけどね

お母さん・・・めちゃくちややつちゃダメですよ

ひろしは、ご飯だけ用意してます！！

ほかの家事は、一応・・・たまに・・・気が向いた時・・・お母さんがします。

## 第22話お見舞いマイマイ

「ふわぁーあ・・・暇・・・」(ヒマつぶしのキャラみたいなこと言うな!!)

全然更新してないじゃん!!(てめえ・・・殺されてえのか?)  
すいません。

ベットで寝てるだけっていうのは、すごい暇だなあ・・・  
この話は、前の話に続いてるんだけど・・・  
ばくは、シャボン玉事件があったから学校を休んでいる。

大事を取ってだけどね?

もうそろそろ下校時間なのです。

あー・・・暇

学校行けばよかったなあ

お母さんは友達と遊びに行っただし・・・

お父さんは行方不明だし・・・仕事だけどね?

兄ちゃんは学校・・・ってか、部活しに行ってるようなもんだけど  
ね?

姉ちゃんも学校・・・ってか、部活以下省略

ハルキも学校・・・

さくらも学校・・・

ミリアは幼稚園・・・

凜南と凜十も幼稚園・・・

あぁー!!!暇!!!

がちや

「たっただいまあゝ」

さくらが帰って来たみたいだ!!  
これで暇ライフからおさらばだよ!!

キィ

「ひろ兄ちゃん、大丈夫?」

さくらがぼくの部屋に入って来て心配そうにしてくれている。  
なんていい子なんだ!! (優しくされること少ないもんな)

・・・ああ・・・そうですよ・・・どうせね・・・

「ひろ兄ちゃん!? ダークオーラが出てるよ!?!」

「なんでもないよ・・・はは・・・」

なんでも・・・ないよ・・・

「ひろ兄ちゃん、私これから撮影だから!?!」

え!?!

マジっすか!?!

「そ・・・なんだ!?! がんばれえ!?!」

「うん ありがとうお! いつてきまーす」

「いつてらっしゃーい!・・・」

ボタンがちゃ

ちゃんと鍵かけてるな・・・偉い偉い・・・

暇ライフよ・・・こんにちは・・・

また会えたね?

暇リンマーマレード・・・なんのこっちゃ・・・  
ガチャ

「たっだいー」

おおおおお！！！

ハルキだあ！！

ガチャ

「ハルキイイイイ！！」

「なんだよ・・・いきなり！！」

嬉しさのあまりつい・・・うっうっ・・・

「何泣いてんの？もっと泣けるように手伝いしてやるつか  
遠慮します。」

「いや・・・いい・・・」

「つまんね。」

マジでつまんなそうにされても！！

「ハルキが帰って来てよかったよ」

「なんで？」

「めっちゃ暇だったんだ」

死にそうなほど暇だったよ・・・マジで

「ふーん・・・」

何か考えている様子のハルキ・・・嫌な予感・・・

ピッピッピ・・・

何してはるんですか？

「真理子？今からそっち行っていい？麻衣も居んの？分かった。す  
ぐ行く」

プチ

えっと・・・ねえ!?

携帯で・・・女の子に電話かけてたねえ・・・?

ねえ?

ねえ?

「ってわけで!ごめんね　ひろ兄」

わざとだ・・・

「・・・うん・・・」

「じゃーなあ」

めちやくちゃ清しい顔でハルキは出て行きました。  
満足そうだったなあ・・・

暇ライフよ・・・一緒に生きていこう。

ピンポーン

誰か来た・・・誰だろ・・・

1階に下りて、インターホンの画面をしてみる。

・・・?

何?アレ?

暑中見舞い?

陣中見舞い?

ご愁傷様見舞い?

なんですか?コレ

「ひつろしー　死んでるかー」

健太達じゃん・・・

インターホンの画面には、健太、淳、バナナ、コナン君、パイナツプル（なんか、初登場）、悠馬、・・・・・・ナル・・・・・・が居た。マジですか？

いや、暇だったからぶっちゃけちやうど良いけどね！？

けど・・・・・・なんで糞ナルが居るわけ！？  
ケンカうつてる？

「生きてるよ？」

『生きてんのかよお つまんねえ』

つまんねえって・・・・・・どんだけえゝ

『とにかくさあゝ、入れて』

「はいはい」

がちや

とりあえず開けた。

「よお！！死んでたか」

「生きてるって・・・・」

いきなりどわあ！！っと入って来た・・・・

マナーがないのか！！

まあ、ないんだけどね？

つてか、糞ナル入んな！！

「糞ナル！！入んな。」

ばったん！！

思いつきり閉めました

あんな奴に入られてたまるかってんだ!!

こないだ来たときなんか・・・家族全員で殺虫剤撒きまくったんだよ!?

ふざけんなってんだ!!

「ひろしってさあゝ ナルにわ、きびしいよね?」

何故か初登場のパイナップルに言われました。

だって、キモいじゃん。

遅くなりましたが・・・パイナップルって言うのは、からいめん河東悟。バナナと一緒に悪戯ばつかしてる問題児っぽい奴です。

なんでパイナップルかと言うと・・・パイナップルヘヤーだからです。(前髪をパイナポウ!!って感じに括る奴ね)。今まで出なかったのは・・・故郷(南国)に帰ってたからです。

ぶつちやけ旅行?滞在?ですけどね?

「だって、ナルキモイじゃん」

「ひろしに言われちゃお終いだよな」

健太・・・どどういう意味ですか?

『ひろし君!!なんてことをするんだね!?僕のような男前に!!』

あー・・・なんか聞こえるような気がするけど・・・

気のせいかなあ?

空耳だよなあ?

「ひろし 何か言ってるぞ」

なんでそんな嬉しそうなんだ!?健太・・・Sだな・・・

「え?何が?なんも聞こえないんだけど?別に、見苦しい、暑苦しい、死んでほしい奴の声なんか聞こえないよ?」

うん、マジで。

プチ

インターホン切ったしね?

「ひろしって、ナルの時だけSだよな？」

みんながそんなこと言ってたけど、知らないー

「あー！そうそう、これみんなからお見舞いだよー！」

「おー、ありがとうー！悠馬」

って言いたいとこだけどさ・・何コレ？

暑中見舞いって・・今は5月だよ？

陣中見舞いって・・ぼくは、怪我っぽいもので休んでるんだよ？

ご愁傷様見舞いって・・死んでないからー！！

「何コレ？」

「見舞いじゃん？」

淳も疑問系になつとるやないですか。

「ありがたく受け取つとけてー！！貰えるだけでもいいだろー？」

バナナ・・貰えればいいってもんじゃないだろ？

イヤ、あるけどね？（どっちやねん）

「う・・ん？」

「微妙な返事だなー！！」

そんなこと言われましてもー！！

「そおいえば・・旭は？」

旭がいないんですけど・・・糞ナルじゃなくて旭が来ればよかったのに・・・

「旭わ、一身上の都合だよ」

一身上の都合って・・まあ、訳は分かるけどね・・・

「ひろし、ハルキ君とさくらちゃんは？帰ってるはずだよね？」

さすがコナン君ー！！（なにがだよ）

「なんか・・さくらは撮影に行つて」

おおー！！って言う歓声？が上がってるけど・・・なんで？



「ハルキは・・・女の子んところ行った」

また、歓声？が・・・

「ひろしの妹と弟とは、思えないよね？」

淳・・・キズツクんですけど？

「まあなー」

だからなんでそんな嬉しそうなの！？健太は

「ひろし気を落とすな？」

「そうだよ！！大丈夫だからな？」

なんて優しいんだ！！！！

コナン君・・・悠馬・・・いつもありがとう！！

地球に生まれてよかったああ！！（何がやねん）

「ありがとう・・・うつうつ・・・」

「何泣いてんの！？？」

「うるさいやい！！これは、汗だいい！！」

汗だもん！！

「それわ、汚いと思うよ？」

パイナップル・・・冷静に突っ込まないでくれ・・・

「ってかさー、思ったんだけど」

バナナ？

何を思ったんだ？

「死ぬ時はどんな死に方がいいかか？」

普通にそんなこと言わない！！

健太、危ない人だよ！？

「いや、そうじゃねえよ！」

普通に違うと思うよ・・・

「ぢゃ、なにい？」

パイナップルが言いました。  
マジでなんたるー

「ハルキつてさ、

男の友達居んの？」

は！？

めっちゃめっちゃ予想ガイですって感じなんだけど？

でも・・・言われてみれば・・・男友達と居んの見たことないなあ・  
・

いつも女の子と居るしなあ

「言われてみれば、ハルキ君って・・・女の子としか居ないよね？」

悠馬・・・そんなはつきり

「それわ、モテるカラだよ！！」

「確かに・・・それは言えるかもなあ。」

「男って僻みやすいもんね！！」

パイナップルと健太と淳がそんなことを言ってる・・・  
ぼくらも男でしょ？

「ハルキ君も、いろいろ大変なんだろうね・・・」

コナン君・・・弟の心配までしてくれるなんて・・・！！

にしても・・・

ハルキ・・・大丈夫かな？

## 第22話お見舞いマイマイ（後書き）

大丈夫だよ

見上げればもう

すいません。

お見舞いに来たのか、遊びに来たのかワカリマセンね！？

ハルキは大丈夫・・・かなあ？

まあいつか

良くない？

まあ・・・ちゃんと書きますよ！！

書けばいいんでしょ！！

別に機嫌悪いとかじゃないから！！

体育会の練習始まってサボろうとしたら、先生に見つかって機嫌悪いとかじゃないから。

うん。マジで

第23話ハルキの苦悩あるの？〈前編〉（前書き）

ハルキ視点です。

## 第23話ハルキの苦悩あるの？〈前編〉

「たっだいー」

女共と遊んで、今帰って来た。

今は、7時ちょうどだ。

このぐらいの時間なら絶対怒られない。

はつきり言つて、うちの親は俺にさほど興味ないように思える。

苓兄と杏姉は、何でも出来て将来を期待されてるし、まあ2人もいろいろあつただけださ。

ひろ兄は・・・何でも平均だけど、イジルの楽しんでるみたいだし？料理人としての将来は期待されてるしな。

さくらは・・・運動はイマイチだけど、成績は常にトップだし、女優としての将来を期待されてるし

ミリア、凜南、凜十は可愛がつてるし

でも、俺は別になにも思われてないように感じる。

ただ、顔が良い。

ただ、運動が出来る。

別に何にも懸けてる物がないからさ。

苓兄で言ったら、サッカーみたいなさ。

俺以外の兄弟はみんな懸けてる物がある。

俺は別に大切な物がないから、何でも出来るわけだから、こんな風にやってるわけ。

どうせなら、パーっとやりたいからさ。

まあ・・・

何も無い奴が着飾っても別に意味はないけどな。

ただ・・・

ちよつとでも、目立ったら・・・ちよつとでも派手なことしたら・・・  
ちよつとでも・・・誰かがこっち見てくれるかな  
って思っただけ。

ただ、それだけ

誰も俺を見てないから。

だから・・・ちよつとでもって思っただけで・・・

我ながら女々しいな・・・カッコ悪・・・

ガチャ

「おつかえりー！！ハルキ」

リビングを開けると、ひろ兄の声が聞こえてきた。

「たっだいー」

それに適当に答える。

・・・ってか、何コレ？

ひろ兄の周りには・・・なんか変なモンが山ほど並んでいた。  
マジなんだよ。

「何？コレ？」

「なんか・・・お見舞いらしいけど・・・？」

ひろ兄本人も、お見舞いとは思えてないらしい。

そりゃそうたる。

だって、暑中見舞いって書いてある色紙があるんだぞ？

5月だぞ？今

しかも、その色紙に寄せ書きが書いてあるけど・・・ってか、手間かけてんなあゝ

ひろ兄のためにそこまでするなんて、物好きなクラスだな

「ひろしいゝ、寄せ書き見して」

つとここで杏姉乱入！！

「俺にも、見せて」

かなあーり興味があつたから、見せて貰うことにした。

「いいけど・・・変だよ？」

ひろ兄あからさまに嫌そうにしてるなあ  
めっちゃ見たくなってきたんですけど

「んゝ、何何？頭ガツキンってなんだよお！！びゅーてふおー？  
バットでやられたか！？死んでるのか！？お線香ぐらいはあげに行つてやるよ 葬式には参加しないけどな ってか、暑中見舞い関係なくない！？そこは突っ込むなよお！！KYが！！この後トイレに引きこもりました だつてさ」

杏姉が音読してる。

・・・笑笑笑

超ウケるんですけど

ちよいひろ兄の顔を見してみる。

眉間にしわよつてた

楽しいんですけど

「こっちは何」

陣中見舞いつて書いてあるもんを見てみた。

「ぶぶっ！！」

吹き出しちまつたじゃん

「何コレえ！！」

杏姉もめっちゃ笑ってるし

「何だコレ」

普段あんま顔に出さない苓兄までちょい笑ってるし  
ってか、失笑？

「あはははははー」

さくらは、爆笑してるし

「あらあら」

母さんも笑ってるし

「ぶつくつくつく」

ミリアは、腹抱えて苦しそうに笑ってるし

「ひろにー」

「こわすー」

めっちゃ怪しいこと言ってるんじゃない  
めっちゃ楽しいけどな

そこに書かれてたのは・・・双子コンビが言ってるとうり  
ひろ兄の絵が書かれてて、その絵をめっちゃくっちゃんにしてる感じ  
な物だった

俺もしたかったなあー

ってか、絵うまいな！！

誰が書いたんだ？

それにしても・・・ぶつぶ！！

ウケるわあー

みんなもまだ笑ってるしな

ひろ兄を見ている・・・

泣きそうになった

「ひろ兄！！大丈夫だって　いつもよりこっちの方が男前だからさ

」

人思いにトドメ刺してやったよ

俺優しいなあ



てか、ひろ兄の反応おもしろいんだけど  
跪いて、涙流してるよ

どす暗いBGM流しながら  
うける

「じゃ、こつちなんなの??」

今度は杏姉がご愁傷様って書いたやつを取り出してた。

「なにこれえ」

さくらが楽しそうな感じな声を上げていた。  
なんか、

数珠と寺の名前が書いてあった

マジで、ご愁傷様じゃん

ひろ兄の顔を見してみる。

膝抱えて、真っ黒なバック背負ってた

やべえ・・・超楽しい・・・

「でも、あれだよねえ!!」

いきなり杏姉が大声を出した。

なんで、そんなでかい声なわけ?

情緒不安定か

「そおいうのでも、くれるってことは・・・いちおーひろしのこと  
考えてくれてるんだろーね」

そおいうのって、いちおーって  
うける

「いちおーってヒドクない!?!」

ひろ兄がなんか言ってるけど、聞こえない  
雑音かなあ?

「そおね 一応でも、クズみたいな扱いされてても、ゴミクズでも、とにかくクズでも、貰えてるからいいんじゃない」

母さんとどめ刺したし!!

クズって3回言ったし

さすがだなあゝ (なにが?)

ひろ兄は・・・

バタン!!!

押入れに引きこもった模様

淳兄じゃないんだからさあゝ

兄貴が引きこもりト力超楽しいんですけど(笑)

「ハルキが休んだら、女の子がいっぱいお見舞いくれるんだろーね  
!?!」

そりゃ、俺が休んだらくれるだろ?

少なくとも100は超えるぞ?(ほんとかよ)

ほんとだ!!

まあ・・・男からはこないだろうけどな?

まあ、どうせ男は俺に僻んでる奴ばっかだから

ダチが出来たら奇跡だろうな。

## 第23話ハルキの苦悩あるの？〈前編〉（後書き）

なんか・・・暗い始まりやったなあ〜（笑）

そーでもないか！？

うちにしたら、奇跡なぐらい暗いねんけど！？

まあ、奇跡ではないけどな？そんな簡単に奇跡が起こるかつちゅうねん！！

まあ、それは置いて・・・このごろ前後編が多いなあ〜！！めんどくせえって感じやねんけど

まあ、それも置いて・・・どんだけ置くねん！！

まあ、それも置いて、兄弟の話ハルキ以外にも書いて行こうと思ってますんで！！

まず、ハルキの終わらせなって話ですけどね

## 第24話ハルキの苦悩あるの?〈中編〉

「おっはー ハルキ」

「・・・・・・はよ」

こっちは寝起きだつてのに、朝からでつけえ声出しやがつて・・・・・・  
母さんテンション高すぎなんだよなあ」

「あらあら 元氣ないわね!? 1日の始まりは朝って決まってるの  
に」

そりゃ1日の始まりは朝だろ?

何当たり前のこと言つてんの?

つてか、俺は低血圧なんだよ。(ほんまか?)

「寝起きはまだ寝みイんだよ。」

「あらあら」

あらあら じゃねえつての

あらあら 星人って呼ぶぞ。・・・・あらあら 星人ってなんだよ?

「ふわあああああ」

すげえ、あくび。

「ひろ兄あくびもウザイ」

「ええ!? まさかの身体の自由剥奪!？」

んな、社会みたいなこと言わんでも

反応おもしろいからいいけど

やっぱ、朝の目覚めはひろ兄イジリだよなー

超清清しいんですけど

うえ・・・・

やっぱ、朝メシ死んでるって・・・・

「母さん・・・・不味い・・・・おえ・・・・」

マジ気分ワリイ・・・うつぶ・・・

「やあだあ ハルキったら 恥ずかしがっちゃって」

思考回路飛んでんじゃないか？

てめえで食ってみろよ。

おえ・・・

「ふざけんな・・・おええ・・・」

「杏里よりマシでしょ」

そーいう問題じゃねえんだよ。

確かに・・・杏姉よりはマシだけどさ・・・吐きそうになって、気分悪くて、死にそうになるだけだからさ・・・おえ・・・

思ったら、杏姉の料理どんだけだな。

「んで、ひろ兄が作らねえんだよ・・・」

朝メシだけは、母さんが作る。

理由はぶつちやけ分かってる・・・ひろ兄が朝起きれないからだ・・・起きろよ・・・

明日から俺が起こしてやろうか

何があっても俺は責任とらねえけどな

てか、俺が早く起きて起こす価値もないか ひろ兄なんて

俺も朝弱いし・・・

「しょーがないじゃない」

「そーだけど・・・おえ・・・」

マジやべえ・・・

「ハルキったらオーバーなんだから」

さけんな。

俺らだから、死なずに済んでんだぞ？

普通の人が！一般人が食べたら即死だ！！

「うえ・・・うつぶ・・・おええ」

ひろ兄も死にそうになってるし  
まあ、いつものことだけどな  
死にそうにならないのは、苓兄と父さんだけだったの。

「2人とも、早くしないとダブルで遅刻よ」

母さんの言葉で、反射的に時計を見る。

時計の針は7時50分を指していた。

確かに普通だったらヤバイな・・・

「やつばイイイー!!」

ひろ兄は普通だから、ヤバイんだよ

普通だからなあ

「健太と淳待たせたら、どんなことになるか!!特に健太だけど・  
・」

そんなことをぶちぶち言ってた  
遅れて行けばいいじゃん

「いつてきまーす!!」

ひろ兄は急いで家を出て行った。

「じゃあ、私もそろそろ行くわね」

それに続くように母さんも出て行った。

俺はいつも最後だからな・・・

まっ、今日はサボるからいいんだけど。1時間目から算数とか、終

わってんだよなあ

なんか、集会とかあるらしいし  
ダリイっての。やってられっか

ガチャ

結局、俺が家を出たのは8時40分だった。

家に居てもやることねえし、つまんねえから、一応学校には行くようにしてる。

義務教育だしな・・・サボるけど（意味ねえじゃん）  
作者もサボってるだろ？（そこは突っ込むな）

俺は学校に行く途中、コンビニに寄った。

朝メシがあれだけとか、ありえねえから・・・時期に家族で病院行くことになるんじゃないか？

学校に向かいながら、パンといちごミルクを口に含む。（可愛いな！！）

いちごミルク大好きなんだよ！！

母さんの料理食った後だと、すっげえ美味しく感じるんだけど！！  
添加物も少ないやつ買ってるしな！！

業者に騙されてたまるかってんの。

キンコーンカーンコーン

そうこうしてる内に学校に着いた。

このチャイム何のチャイムだよ？

『今のチャイムは間違いです。』

間違いかよ。ちゃんとしろよ・・・これだから日本の教育は！！知らないけどな

とりあえず1度教室に行くか。

めんどいけど・・・はあ・・・（行かんでええやん）

出席とって貰うんだよ。（高校か）

皆勤賞ほしいんだよ！！（理由が可愛いぞ！！）  
ほっとけ

「おい！！鈴木」

「ちっ・・・なんだよ」

学年主任兼生活指導のセンコーかよ。名前知んねえけど

「また遅刻か。これだから、問題児のクズは！！」  
だれがクズだよ。

「はあ！？てめえにんなこと言われたくねえんだよ！！糞ハゲ 毛根ねえんじゃねえの」

マジでハゲてるから言うの楽しいんですけど

「なっ・・・なんだと！！お前は先生達の中でも要注意人物なんだからな！？」

「そりゃ嬉しいね」

「そ、それになんだ！？そのピアスは！！」

「個人の自由でしょ？てか、教師が生徒の尊厳とか自由とか奪っちゃダメでしょ？教育委員会に訴えるぞ？」

「・・・なんだそのカバンは！！ランドセルを持って来い！！」

「ランドセルのない子は、別の鞆を持って来ても良しとするって規則の所に書いてありましたけど？」

「なっ！！そ、それになんだその髪の色は！！」

「これ地毛っすよ？1年の時の変な紙に書いてるはずっすよね？」  
「・・・」

もう言うことはないようだから、俺は教室に向かった。

俺には向かおうなんて、1億年早んだよ

ガラッ

教室のドアを開けると、女子のキヤーって言う五月蠅い声が聞こえ



てきた。

男子からは、ため息だけどな

「鈴木君、どうして遅刻し「寝坊です。」

担任の言葉をかき消して、俺は1言だけ言った。

「そ、そう・・・」

担任は若い女だから、びくびくしてる。今年で1年目だしな  
てか、小3にビビんなよ・・・

俺は、自分の席である1番後ろの窓際の席まで行って、カバンだけ  
置いてそのまま教室から出た。

担任の声が聞こえたような気がしたけど・・・気のせいに決まっ  
てるし

「んー!! やっぱここは落ち着くな」

俺はいつものサボリ場である屋上で伸びをした。

ここは落ち着くわー

「あれ？ハルキ君じゃん」

突然後ろから声がしてビビった・・・マジビビルって・・・

「あ！旭先輩」

そこに居たのは、ひろ兄のダチの橘旭先輩だった。

つてか、旭先輩がサボリとか珍しいんですけど ついに不良の仲間  
入りか!?

「珍しいっすね、旭先輩がサボりって」

「んー・・・なんか、風が俺を呼んでるぜ!! 的なのがあったから  
さあ」

「なんすか それ」

おもろいなあー 風が呼んでるって・・・パラグライダーかよ

「ハルキ君は!？」

はっ!？」

俺いつもサボってるんですけど!？」

「俺はいつもサボってますから」

「それは知ってる ケド・・・この場所がサボリポイントだとは、知らなかった だって、ここ来るの命掛けでしょ!？」

「まあ・・・そうっすね・・・慣れたらどうってことないですけどね」

この屋上に来るには、空を飛ばないとダメだからな

この屋上は、普通とは違って階段を上っただけじゃ行けない。なぜなら・・・階段が途中で切れてるから どんな設計だよ

だから、隣のでかい木に乗り移って行かねえと無理なんだよなー  
運動神経のない奴は落ちるし、ある奴でも若干怖いらしくここに来る人は少ない・・・ってか、ほとんど来ない

だから、この場所好きなんだけどな

1人楽だし

「ここ好きなんですよ」

「そおなんだー 氣イ合うね、俺もここお気に入り」

ここお気に入りな人始めて見た・・・

「そうなんすか 氣イ合いますね」

「だね」

旭先輩いい人だよなー・・・ひろ兄のダチには、もったいないって  
たかがひろ兄の

「でもさー、ハルキ君が居ないと女子が騒ぐんじゃない？」

「カモしれないですね ってか、それは旭先輩でしょ？」

旭先輩結構人気あるからなー、俺ほどじゃねえけど

「俺は平気!ー! だって、かすし和志が居るから!ー!」

「和志って・・・ああ! もりたに森谷先輩っすか」

「そおそお」

森谷先輩人気あるもんなー！

森谷先輩は森谷和志<sup>もりたにかずし</sup>って言つて、すっげえイケメンの人！！

でも、普段クールで全然喋らない。ずっと本ばかり読んでる。頭は、コナン君先輩と悠馬先輩に次いで良いらしい。メガネをかけてる。一応？ひろ兄のダチカモシれないような・・・？まあ、隣のクラスの人

「森谷先輩女子人気すごいですからねー！！」

「だよねー」

多分5年の中で、1番モテてるだろーなー

「ハルキ君！もうすぐ2時間目終わるケド・・・どおする??」

もうそんな時間かぁ・・・

「んー、だりインでずつとサボってますよ」

教室行つても陰口言われるだけだし

「給食は??なんなら5年の教室で食べればいいじゃん」

「ありがとうございます！でも、5年の人が困るでしょ？だからいいです ありがとうございます」

旭先輩良い人だなあ 良い人すぎて、将来が心配だよ！！

「えー！！ひろしの弟なんだからいいじゃん！！」

「でも・・・家庭科室で飛鳥先輩<sup>あすか</sup>と食べるんで大丈夫っすよ」

「飛鳥と食べるの!？」

「はい！飛鳥先輩野菜ジュース作ってるんで」

飛鳥先輩<sup>かとりあすか</sup>って言うのは、香取飛鳥先輩！ひろ兄のダチ。

やる気のなさでは、学年トップらしい。授業中は寝てるか落書きらしい。でも、絵が超うまくて落書きには、見えない。テストは落書きするためにあるらしい。

家庭科室の主でいつも野菜ジュースを作っている。

そこでいつも給食を食べさせてもらったり、サボらせてもっている。ひろ兄も大会（料理の）が近い時は、練習に使わせて貰っている。

「そおいえば・・・飛鳥と仲良かったね」

「良くして貰ってるんです」

良い人だから、飛鳥先輩も!!

なんかひろ兄のダチって良い人多いな!?

「じゃあ、俺も給食までここに居るよ!!」

「え!? 気使わなくていいですよ!？」

そんなことまでしなくても・・・

「いいのいいの 風がまだ俺を呼んでるから」

「・・・そうですか」

マジで良い人すぎるだろ?

「旭先輩、これ食べます?」

俺は、猫の顔のお菓子入れからアン　ンマンチョココレートを出して  
旭先輩に差し出した。(だから可愛いって!!)

「ありがと でも、俺バイ　ンマンがいいなあ」

「分かりました どぞ」

バイ　ンマンのチョココレートを渡した。

アン　ンマンじゃなくて良かったあ

もう、食べちゃったからなあ

俺はショ　パンマンのチョココレートを出して、旭先輩と並んで食べた。

(可愛いなあ)

第24話ハルキの苦悩あるの？〈中編〉（後書き）

超可愛い・・・

なんか、いちごミルクとか猫のおかし入れとか、アン　ンマンチヨ  
コレートとか可愛くないですか！？

可愛いなあ・・・

ハルキは超が10個付くぐらいの甘党です

いつもおかし入れを持ってるんですよ！！

何気飛鳥と仲良し

## 第25話ハルキの苦悩あるの？〈後編〉

キンコーンカーンコーン

「よし 4時間目終了 行こっか、ハルキ君」  
「はい!!」

旭先輩は本当に給食まで、一緒に居てくれた。良い人だなあ  
俺と旭先輩は、来た時と同じように隣の木に乗り移った。(隣って  
言っても3メートルはあるけどね)

「ふー なんとか着地成功!!」

旭先輩と俺は無事着地!!

なんか、旭先輩のテンションが上がってる？

「じゃ 家庭科室行こっか」

「はい!!」

俺と旭先輩は、B棟1階にある家庭科室に向かった。

B棟には4年と5年の教室がある。

教室は、くじ引きで決めてるってなんか聞いたことがある。何して  
んだ？校長!!

そんなこんなで家庭科室前に着いた。

「飛鳥もう居んのかなー!？」

「多分、居ると思いますけど・・・」

いつもなら、もう居る時間だと思う。

ガラッ

俺は家庭科室の扉を開いた。

「よー、ハルキ！」

「どーも、飛鳥先輩！！」

飛鳥先輩はばつちり中に居た。

「あれ？なんで旭が居んの？」

旭先輩の存在に気づいた、飛鳥先輩が半ばどおでもよさそうに言った。

「ハルキ君とサボってたから」

それに笑顔で答える旭先輩。

「旭サボってたのか？」

「飛鳥、落書きに熱中しすぎて俺の存在忘れるの止めてくれるか！？」

「忘れてたんじゃない！！俺は、俺の芸術を創るのに100%集中してただけだ！！」

「はいはい」

2人の会話・・・おもしろえ

「つてか、俺1回教室戻るわぁ この状態じゃ給食食べれないし」

「ん、分かった」

そう言いながら野菜ジュースに使う、野菜を用意し始めた飛鳥先輩。

「じゃーねえ ハルキ君」

「はい！ありがとうございます」

「いえいえ」

そう言つて、旭先輩は教室に戻って行った。

「飛鳥先輩、いちごミルク3つ買ってたんですけど、なくなっただけで作って貰えますか？」

いつもいちごミルクがなくなったら飛鳥先輩に作って貰っている。

飛鳥先輩のいちごミルクは激うま！！

「オッケー、でも野菜ジュース作ってからなあ」

「はい！」

ウィイイイン

野菜ジュース作りに集中してる飛鳥先輩は誰にも止められない俺もいつものように、黙って見ている。

家庭科室に響いてるのは、ミキサーの機械音だけだ。俺にとつては、この音は落ち着く音だ

ひろ兄もよくミキサー使っしなあ

「ふー・・・出来た！！完璧だ」

野菜ジュースが完成した模様。

いちごミルク作ってくれ！！

「よし！次は、ハルキのいちごミルクだな？」

「はい 大至急で」

「おう」

ウィイイイイン

また機会音が家庭科室に響きだす。

「出来たぞ！」

速！！速すぎだろ！？

「飛鳥先輩？」

「ん？」

「野菜ジュースじゃないから適当にしてません？」

「・・・気にすんな」

おい

「気にしますって！！」

「大丈夫だ。うまいから・・・たぶん・・・」

自信なさ気じゃん！！

「なんすか？それ！？」



「まあ、野菜ジュースで力使い果たしたから」

「へいへい」

「しょーがねえなあ!!」

「まっいーっすよ」

「だろ？」

「だろ？じゃねえし」

「給食食おう!!」

「そーっすね」

いつも飛鳥先輩が給食を用意してくれている！いい人だ  
俺が行く必要なくて、ラクだし

「ハッローン 飛鳥ー、ハルキ君!!」

いきなり乱暴に扉が開いて、パイナップル先輩がひょっこり顔を出している。

テンションたけえー

「よお、パイナップルかよ」

「どおいう意味かなあ それわ」

若干殺気がするんすけど・・・

「あー・・・ちわっす!!パイナップル先輩」

「ハルキ君、ヤほー」

殺気が止んだようで・・・良かったなあ

「1人かよ？」

「違うヨ 健ちゃーと淳とひろしと・・・他にも  
他 って、ウケるんですけど

ってか、ひろ兄を他にしてくれて良かったのに

「「誰が他だよ!!」」

ハモって文句を言ってるのは、及川先輩・・・バナナ先輩でいつかと旭先輩。

他の、番先輩とコナン君先輩と悠馬先輩は文句1つ言ってない!!心の広い人達だなあ

「いいじゃん」

パイナップル先輩は満足そうな笑顔

俺も自然と笑顔になるよ

「飛鳥ー、使わせて貰っていいかな?もうすぐ大会の予選なんだ!!」

「ああ、いいけど。俺の野菜には触るなよ!」

「うん!分かってる!!じゃ、この野菜もあげるよ!」

「おお!!サンキュー、ひろし!これで新作野菜ジュースが作れる」

ひろ兄から、珍しい野菜を貰った飛鳥先輩は超ご機嫌  
そっか、ひろ兄もうすぐ日本大会の予選だっけ?

「ひろ兄、今度のテーマなんだっけ?」

料理の大会は大会ごとに、料理のテーマが決まっている。

今回は何だっけ?

「えっと・・・野菜サラダだよ!!」

「何!?野菜?」

野菜に過剰反応している飛鳥先輩。

「うん。そおいえば、観戦者の中から何人か試食出来るはずだよ?今回の大会予選」

「マジで!?じゃあさ、俺を家庭科室のよしみでさ!!」

「うん・・・出来るかどうか微妙だけど・・・頼んでみるね!!」

「おおおお!!サンキュー!!」

「じゃあさ、この野菜スパイスどお思う?」

「どれどれ・・・うまー！これ美味い！！」

「マジで！？じゃあ、これ使おう」

「悪い、美味すぎて全部食っちゃった」

「ええ！？まあ、もう1個買つといたからいいけど・・・」

「じゃあ、それも俺に「ダメだよ！？」」

2人の世界作ってねえ？

まあ、いつものことだからあの2人はほっておこ

「あの、2人わほつとこつカ」

「そーっすね」

ほつとけ ほつとけ

「つてか、ひろし大会予選かよ！？ひろしのくせになあ」

「健兄、それしか取り得がないんだからしょうがないって」

「あー、そつか」

「料理がなかったら、ひろ兄なんて糞以下だって」

「だよなー」

そんな会話をしてる、俺と健兄を見て・・・Sだなあってみんな思  
つてみたいだ

「そだ、バナップル先輩！」

「なにー？」

「なんだよ？」

バナップル先輩で通じて楽だな

1パック2個入りみたいな

「この新作お菓子どお思います？」

俺は猫のおかし入れから、新作のスナック菓子“さくらチップ”を  
取り出して、

バナップル先輩に差し出した。

「うーん・・・色わキレイなさくら色だね？」

「形も整ってるしな!!」

「これであんま着色料使ってないんすよ!？」

バナナプル先輩は食べる前にじっくりお菓子を見ている。

さすがだ!!

「もぐもぐ・・・美味しいけど・・・後から苦味があったりするね？」

「うーん・・・そうだな・・・なんか、まんまさくらちゃんみたいじゃね？」

やっぱりそお思うよな？

「そお思いますよね!？さくらですよね!？この味」

あのハラ黒さくら、まんまの味だろ!？

あいつ下僕とか居るしな・・・未来の彩香さんとか双葉さんだろ？

「うん」

「色は綺麗だし、形も整って綺麗だけど・・・いざ食べてみると甘味の後に苦味がどわぁーっと来るっていう・・・さくらちゃんまんまだ!!」

バナナ先輩の意見？すげえよ・・・無駄にこおいうことは、得意だよなあ　バナナ先輩　無駄に

「バナナ先輩って無駄にこおいうこと得意っすよね」

「無駄とか言うなー!!」

「」

楽しいなあ

「ほんと、ムダだよねー」

「そうっすよねー」

パイナップル先輩とは、バナナ先輩のことだと気があう

「あ！番先輩」

「何？ハルキ君」

「チヨコレート食べますか？」

「ありがとう！俺甘党なんだ」

「そーっすか」

良かった

「あー！俺も食う！」

バナナ先輩も！？

あ・・・甘党だっけ？

「あー 食べる」

パイナップル先輩も！？

まあ、見た感じも甘党だけど・・・

「あー！僕も」

淳兄も！？

「俺もー」

健兄も！？

「じゃあ、俺も」

悠馬先輩も！？

「僕も！！」

コナン君先輩も！？

「俺も！！さっき貰ったけどー」

旭先輩も！？

足りるか？

「えっと・・・ジャ おじさんとバ コさんとチ ズとカレ パン  
マンとメロ パンナとド ンちゃんしかないんすけど？」

「じゃあ・・・淳はいらないよな」

「なんで！？健太ヒドイよ！？」

「何がだ」

「うわああああん！！」

ボタン！！

淳兄トイレに引きこもったし・・・ウケる

「よし 1人減ったな」

健兄悪い

「ぢゃ、旭はダメでしょ？食べたんだからさ」

「えー！！」

パイナップル先輩のもっともな意見に批判してる旭先輩。

「旭先輩には、ペロキャンあげますから」

「マジ！？じゃ良い」

単純だな

「ぢゃ、チズ貰うね」

パイナップル先輩はチズを手にとった。ほかの者は出遅れたようだ。

「負けるかー！！カレパンマン貰・・・あー！！健太何すんだよ！！」

「え！？何があー美味しい」

バナナ先輩は健兄に横取りを喰らった！！

健兄は見せびらかすを使った。

バナナ先輩は悔しそうに見ている。

「じゃあ・・・ジャおじさん貰おうかな。じいちゃんに似てるし」

番先輩は祖父似のジャおじさんを手に入れた。

「うーん・・・バコさん頂くね！」

コナン君先輩は、遠慮しながらもバッチリゲットを唱えた。

「俺は・・・メロパンナ貰うね？」

悠馬先輩は、恐縮しながらもガッツリゲットを唱えた。

「結局、残り物かよ！！」

バナナ先輩は、文句言いながらガツガツ食べるを使った。

「ってか、淳兄呼んで来たら？健兄」

「何で俺？」

おい。健兄が引きこもりさしたんだろ？

「淳兄、健兄のこと好きだから、健兄が呼んだら来るじゃん？」

「キモいこと言うな！！淳は知らんが俺は普通の少年だ！！」

知らない そんなこと

「いいから、呼んで来てっつて」

「そおいうことは、ひろしの役目って決まってるんだ!」

とか言いながら、ひろ兄の所に行こうとしてるけど・・・止めといった方がいいよ

今ひろ兄包丁持ってるから

「おい、ひろし!」

ああゝあ 行っちゃった 止めたのに 心の中で

「あん?」

「え!」

あまりのひろ兄の豹変ぶりに驚いてる様子・・・まあ、すつげえ敵つい顔してるからな

「お前なんや?俺が料理しとんの分かって声かけとるんか?ええ!?なんとか言うてみい!」

「え・・・?」

「え・・・じゃ分からんやろ!?なんや嫌がらせか!?え?で俺がお前の思ってること分かるとでも思つとるんか!?ええ加減にせえや!!お前のせい・・・5分13秒も無にしてみたんけ!!ふざけんなや!!料理人にとって1分1秒が戦いなんやぞ!?それを5分も!!この罪は一生かけても償いきれんぞ?償いきれんねんぞお!!この5分の間に!!野菜が温もつてしもたらどないするんや!?微妙な温度の違い!湿度の違い!冷蔵庫に入れた時間!出してからの時間!これらがマツチした時に最高の料理つちゅうモンは生まれるんや!!それをお前は・・・」

長くなるので、強制終了で

健兄は後何時間かこの話を聞くことになるけどな

ひろ兄は料理道具を持つと人が変わるからなあ 特に包丁

「ひろしって・・・あんなキャラだった?」

旭先輩・・・全然違いますよ

「ひろし凄い!!」

淳兄!? 出てきた!?

やっぱりひろ兄のダチと居ると楽しいな

飽きないしな

俺のクラス・・・3年1組は病んでるからな・・・俺5年だったら  
良かったのに

同い年のダチはいないけど、ひろ兄達とこんな風に過ごすのもなん  
かいいなあゝ

当分はこのまんま楽しく過ごすがいいような気がした。



第25話ハルキの苦悩あるの？〈後編〉（後書き）

ふー・・・終わった

ケド、実際解決してませんね？

まっ！いつか

今が楽しいならええじゃないか！！（なんの話だよ）

注意

健太は、彩香で包丁には慣れてるため全然平気ですが、ひろしのあまりの変貌ぶりに

呆然としたようです。

## 第26話帰宅は道ずれ！？

「ただいまあゝ」

学校から帰って来て、いつもど通りの言葉を発した。

今日はちよつと遅くなっちゃったなあ・・・

ずっと料理の練習してたもん・・・疲れた・・・

まあ、大会もすぐだからしょうがないけどさ・・・

ガチャ

自分の部屋のドアを開ける。

え！？

えつと・・・ナンデスカ？

コレハ？

「よお！！お帰りい　相変わらず冴えない顔やなあ」

・・・招き猫さん？

あなた何してはるんですか？

「え！？この子が噂の普通のくせに意外とクセあったぜ的なひろし君？」

「そーやで　けつたいな顔しとるやろ！？」

なんてこと言っんですか！？

「ほんまやなあゝ、さつきチラツと見たけど兄弟は顔良いのになあ  
！？」

「そやる 突然変異やねん」

「そうとしか思えんなあ、確かに」

だから・・・なんてこと言うんですか？

リアルに傷が付くんで・・・マジデ・・・

「だつて言つたら、お前のひいひい孫やろ？ひろし君って」

「そやで」

「のわりには・・・まあ、可哀想やから触れんけども・・・俺優しいやろ？」

「めっちゃ優しいやん ケド、キモい奴思いに言つてもよかったのに」

勘弁して下さい。

めちゃくちゃ目に涙溜まつてきたんで・・・今にもポロツといきそうなんで・・・

「あー！紹介が遅れたけど、わいのふれんどの招き猫やー！」

「どーも、始めましてえ招き猫でえす。・・・こんなテンションでええんか？」

「ナイスてんしょんって言いたいとこやけど、やっぱちょっと乗り切れてないなあ」

何言つてんですか？

つてか、喋る招き猫ってみんな招き猫って名前なの！？

招き猫さんなんか、発音悪いし！！

状況の説明が遅れましたが・・・

招き猫さんが2人居ます。

終わり。（ヤケになるなー！）

疲れてる・・・（ちゃんとやれ）

はあ・・・

なんか、招き猫さんの友達の招き猫さんらしい・・・  
なんかSっぱい。

ってか、招き猫さんこのごろ見かけないと思ってたんだけど？

「招き猫さん、この頃家に居ないなあって思ってたんですけど？」

「ああ、旅出とった！！」

「へー」

突っ込む気になれない。

「どこに旅行ったんか聞いてみ、聞いてみ！！」

聞く気なれない・・・ってなんか拳だしてるし！！

勘弁して下さいよ・・・マジで

「どこ行ったんですか？」

この状態で殴られるのは命に関わるため・・・

「それだけは教えられねえ・・・」

ふざけんな。

聞けって言っただじゃん！！

「どうどう！？わい渋かった？」

「うん。めっちゃ微妙に渋かった」

「おっしゃー！！」

いいんだ！？

微妙でもいいんだ！？

「ひろしのせいで微妙になったやんけえ」

「ぐぶう！！」

なんでぼくのせい？

猫パンチ今喰らうとか・・・がく・・・

「ひろし君は力尽きた。」  
「ないすなれーしょん」

だから発音悪いよ？

それに力尽きてないよ？

尽きる1歩手前だよ？

確かに意識遠のきかけてますけど・・・  
目の前真っ白になりそうですけど・・・

なんとか繋ぎとめてますよ・・・？

「もう1発行つとく？」

「元気澆刺ー！？」

「オロナミンC」

何言ってるんですか！？

CMみたいなこと言ってる・・・

「んで、結局どこに行ってたんですか？」

「おー、ひろし君復活の儀式終了？」

儀式なんかないし！！

「こいつにそんなもん必要ない！！ほっとけばええねん」

だからなんてこと言ってるんですか！？

「そっか」

納得しないで！！

「長崎行つとつた」

このタイミングで答えるの！？

長崎つて・・・ええ！？

まさか・・・

「えっと・・・まさかとは思いますが・・・いここに会ったりなんかしてないですよね？」

「会った」

おい。

「皐月<sup>みづき</sup>ちゃん達と一緒にトータルテンボス壊しとつた」

なんてことしてるんですか！？

嘘ですよね！？

嘘と言つてくれ！！

公共物破損罪で訴えられますよ！？

「ほんまやで？」

真顔で言わないでええ！！

「まッそれは置いていて」

置いてかないでええ！！

まッしょーがないからいつか。

諦め早いなあ・・・ぼく！！

えっと・・・ぼくには、長崎にいたことが居ます。

皐月ちゃんって言うのは、霜月皐月しもつきひつぎって言って、高校1年の長女です。勝気な性格で男勝りと言うかなんと言うか・・・

そして、次女の霜月文月しもつきふづきちゃんは、中2で御しとやかな人なんだけど・・・たまに子供っぽくなる。

三女の霜月葉月しもつきはづきちゃんは、小6で超元気な子。いつもニコニコしてるところが杏姉とちょっと似ている。

四女の霜月睦月しもつきむつきは、小5でおとなしめの子。あんまり喋ったりかは得意じゃない。でも、占い大好きで占い話しだとベラベラ喋る。はつきり言って、美人4姉妹です。

そして・・・

母親の卯月うづきさん（39）は、何を隠そうお母さんの3つ年上の姉です。

ちなみに父親の俊也しゅんやさん（39）は、お父さんの2つ年上の兄です。すごい関係だな。

「ってか、何で皐月ちゃん達が招き猫さんのこと知ってるんですか？」

「ぼくしか知らないはずだけどなあ・・・」

謎が謎めく！！

「教えた」

だから真顔で・・・ってええ！？

「旅は道ずれって言うやろ！？」

言うけど、ちょっと違うくない！？

「俺は、帰宅は道ずれされてんだけど」

招き猫さんに無理やり連れてこられたんですね？

アーメン・・・

「うまいなあ」

「やろ？」

ほのぼのするところじゃない!？

「あ！そーや」

何が？

「ひろしの家族にもバラそうと思ってんねん」

「そーなんですか・・・ってええ!？」

マジで？

いや、マジで!？

そっちのが助かるっちゃあ助かるけど・・・

「嫌なん？」

「嫌ってわけでは・・・」

「そーか!！バラしたらこんなぶりていなわいをかわいっしゅなわいを1人占めできんようになるからやな!？モテる男はツライでえ」

「

頭の構造どうなってるんでしょう？

「別にバラして良いですよ？」

「無理して言うてくれてんねんな!？そーやねんな!？」



違いますけど・・・

「ひろし君・・・気を落とすな」

落としてないですけど!?

真顔で言われても、困るんですけど!?

「じゃー、バラしにねっつらごーごーふぁんぶ」

訳が分からん

第26話帰宅は道ずれ！？（後書き）

久しぶりに招き猫さん登場です！！  
正体ついにバラしちやいます

## 第27話猫パンチ　　に炸裂！！

「はっろー」

いきなり！？

あ・・・いきなりすみません。ひろしです  
招き猫さんがいきなり・・・

『わいの男前な顔を見たら、みんな受け入れてくれるに決まっとう  
やん』

とかなんとか言って・・・男前じゃなくて、プリティじゃなかった  
っけ？

まあ、いつか。

リビングの扉バーンって開いて、バーンってあいさつ？しました。  
ってか、姿見えるようになってるの？

招き猫さんってすごいな・・・

「ハロー」

姉ちゃん！？

何普通に言葉交わしてるの！？

「美味しそうな招き猫だな。」

兄ちゃん！？

食べないでね！？

「ご飯食べるか？」

ハルキ！？

和やかに話進めないで!?

「鈴可愛いね」

さくら!?

ファッション?の話とかいいから!!

「ほんとだあ、可愛い」

ミリア!?

何でそこに食いつく!?

「こわすー」

凜南&凜十!?

逆に壊されるからやめなさい。

「あらあら、ひろしの新しいお友達?最近の子はコスプレが好きなのね」

お母さん?

これがきぐるみに見えますか?

小5に見えますか?

宙に浮いてるんですよ?

頭の中どうなっていらっしゃるんでしょうか?

「ばっかもん!!」

!?

いきなりなんですか!?

「わいは、お前らのひいひいじいちゃんやぞ!!」

『ええええええ！？』

まア、なんて息の合った家族

じゃなくて・・・なんか、家族が驚いてるの初めて見た気が・・・

「ひろし！？」

「はい！？」

お母さんのかい声は、初めて聞いた気がする・・・めっちゃ驚いた・・・

「どげんことですか！？」

どこの方言！？

つてか、軽々しく方言を使うな！！

方言理論語つたるか！？

「えっと、実は・・・かくかくしかじか」

ぼくは、すべての事情を話した。

それはもうありとあらゆることを・・・

「つてか、何でこんなおもしろいこと早く言わねえの？ほんと愚図つたれだな」

ハルキ・・・そんな真顔で言わないで・・・

「だから、ひろしご飯あんまり食べなかったのか？」

いえ・・・ご飯はちゃんと食べてたよ？

兄ちゃんの食べるは、ご飯5杯とかだから、ほとんどの人ご飯食べ

てないに位置すると思うんだけど？

「まあ、おもしろければいいんじゃない!?」

弾んだ声で何言ってるんですか？

姉ちゃんはおもしろければ何でもオツケーにしそうで怖いよ。  
間違っても、公務員にはならないでくれ!!

「ひろお兄ちゃんって、靈感でもあるの?もしかして・・・その能力を使って金儲け!?そうだったんだね・・・あんなことやこんなことを・・・ひいい!!」

もしもし?

ミリアさん?

何を考えていらっしゃるんでしょうか?  
妄想癖だなあ・・・ほんとに

「まねー」

「こわすー」

だから、怪しいこと言わないの!!

君らの渾名“デストロイコンビ”だからね!?

まねーって招き猫さんか、お金かどっち!?

どっちも壊せんわ!!

「バーン 呼ばれて飛び出せばばバーン!!愛するファミリーよ  
オオ!!!!」

・・・何？

いきなり空気読まずにお父さんがテーブルの下から出てきました。  
誰も呼んでないけどなあ？

「呼んでダメね？」

「ハルキ、そんなほんとのこと言ったらお父さん傷つくでしょ！？」

「そーか、思っても隠しとくのか！！腹の中で笑うんだな」

「そーそー」

お父さん泣いてるよ？

姉ちゃんとハルキ言い過ぎだよ？

それも聞こえる声で・・・

「ひ、ひどい！！折角休み取って会いに来たのに！！」

「誰も頼んでねえよな？」

「確かにね」

「頼んでないねえ」

「ないない」

「どっかー」

「いけー」

「うわああああん！！」

なんてヒドイ・・・何も言わなかったのは、ぼくと兄ちゃんとお母さんと招き猫さんだけだもんなあ

お父さん号泣してるよ・・・お母さんに抱きついた。

「亜沙羽ー・・・みんなが苛めるよオ・・・」

「よしよし」

「折角・・・休み・・・取ったの・・・に・・・」

「よしよし」

「喜んで・・・くれ・・・る・・・って思ってた・・・た・・・のに・・・」

「よしよし 私は喜んでるよ」

「亜沙羽ー!!」

子供をあやしてるお母さんみたいだった。

また、いちゃいちゃし出したし・・・はあ・・・

子供が居るっていうのに・・・

「わいの前でいちゃつくとは・・・良い度胸やのオ!!」

招き猫さんキレてる・・・

「おじいちゃん!! 久しぶり、会いたかったよお!!」

お父さん!?

さっきの話全部聞いてたの!?

「そーか わいも会いたかったでえ、駿二!!」

「おじいちゃん!!」

「駿二!!」

2人は抱き合ってます。めでたしめでたし

ってか、招き猫さんと抱き合ってるって変な光景なんですけど?

招き猫さんってお父さん側のおじいちゃんだったんだ・・・

「亜沙羽ちゃんも久しぶりやなあ」



「お久しぶりです。おじい様」

「相変わらず可愛いなあ 駿二の嫁にはもったいない」

「ええ！？なんでさ、ベストカップルだろ！？」

「調子のんなー」

「ぐはあ！！」

出ましたー！！猫パンチ

ぼく以外がされてるとこ初めて見ましたねえ・・・はい。

ぶっちゃけ、楽しいです

っというわけで・・・どういわけか分かりですけど・・・

招き猫さんは家族公認となりました。

めでたしめでたし

「騒がしい家やなあ・・・」

招き猫さんの友達・・・ひそかに居ました。

## 第27話猫パンチ　　に炸裂！！（後書き）

ついにバレましたね！！

ってか、バラした？

駿二と亜沙羽は、2人共結構美形なのでベストカップルも別に嘘ではないです。

ただ、性格に問題ありますね

ひろしが若干やる気ないのは、疲れてるからです。

ひろしのくせになぁ・・・

## 第28話ひろしイジメ

「おっはー、招きつちー」

招きつちー！？

何の渾名ですか！？

つてか、姉ちゃん・・・よくそんな口聞けるなあ・・・

「おー、おはよお！！」

普通に返すんだ！？

ぼくは、ダメでも姉ちゃんは良いんだ！？

「お早う。」

兄ちゃん・・・随分淡白なあいさつで・・・

つてか、こつちもタメ語！？

「おう」

そして許すの！？

つてか、兄ちゃんと姉ちゃんが朝練ないなんて珍しい。  
自己朝練は、いつもどおりやったみたいけど・・・

「おっはよー 招き猫さん」

さくらは一応さん付けしてるな・・・

「おはよう さくらちゃん」

さくらも許すわけね・・・

分かってましたけどね！？  
分かってましたけども！！

「おはよう・・・眠いよぉ・・・」

ミリアもタメですか。

許すんでしょうけどね？  
分かってますけどね？

「おはようさん」

ほらね？

いいもんいいもん！！  
いじけてなんかないやい！！

「はよー」

「こわすー」

おはようを壊すの！？  
どうやって！？

朝からとんでもないこと言うな・・・

「可愛いなあ」

それで済ますの！？

まあ、招き猫さんのひいひい孫だから、あれぐらい言うて当たり前なの！？

でも、人間としてどうなんだ！？

ハルキはまだ起きてない、いつものことだけど・・・

ハルキにもどうせタメ語許すんだろうな・・・

どーせ、ぼくだけですよーだ!!

拗ねてなんかない!!

いじけてない!!

いいんだ、いいんだ!!

ぼくには、理論がある!! (無駄な)

ヒドイ!!

無駄だなんてえ!!

そもそも、無駄なんて言葉はぼくにはいらなくてですね (語らんでええ!!)

ちよつとぐらい・・・ (ちよつとも、ゴミほどもいらんねん。)

・・・たららゝん (はあ?)

いいもん・・・

ぼくは強い子だからいいもん!!

「おはようございます おじい様。」

「おはよう。亜沙羽ちゃん」

めっちゃ笑顔やん。

さわやかやん。

「じいちゃん!! 会いたかったよー!!」

「駿二ー!! って昨日会ったやんけえ」

「そうだったあ」

「エへ」

「エへ」

うつわー・・・何この変な光景・・・おかしいでしょ？  
ってか、意外と仲良いんだなあ。  
招き猫さんとお父さんって・・・

「思ってたんだけど、ほんまひろしって似てないわあ」  
「ヒドイ。」

まあ、ほんとですけれどもね！？  
自覚してますけどね！？

「わいも男前やったのに　まあ、今もかなりイケイケやけどな」  
（きらーん）

うわぁ・・・きらーんって言う効果音鳴ってる・・・  
ってか、招き猫の姿で言われても・・・

「猫パンチ！！」  
「ぐおばあ！！」

猫パンチ炸裂ー！！ってなんで殴るんですか！？  
ぼくなんか悪いことしました！？

「なんとなくおてがるに殴った。」

なんじゃそれえ！！

「ひろしを殴るのは、簡単でええなあ　壊れた方がええような顔や  
からなあ」

「・・・・・・・・」

ひどすぎる。

傷つくのに・・・・心が、ハートがくしゅくしゅしちゃうのに――  
――！！！！

何んてことなんだ！？

「ウケるわぁ その顔。」

真顔で言わないでえ！！

しかも顔！？

「いやぁ、朝のひろしイジメは清清しいでえ」

ぜんっぜん清清しくない――！！

おまけ

「こ、これが招き猫さん！？」

「そうよぉ 写真で見てもカッコイイでしょ」

「嘘・・・超イケメンじゃん！！イケテルメンズじゃん！！」

「駿二さんのおじい様ですもの」

「はいはい」

## 第28話ひろしイジメ（後書き）

招き猫さんが家族公認になりました  
やったぜ！！（なにがやねん）

人間の頃の招き猫さんはイケテルメンスだったんですよえ  
ひろしとは大違い



## 第29話じゃじゃじゃん いとこ登場!?

『こんにちは』

「……今日は祝日で学校が休みで嬉しいんだけど……何か来ました。

正体は分かってるけど……

「あら 姉さん、俊也さんどうしたの?」

そう……ぼくのいとこと……伯父さんと伯母さんが来たわけです。

はぁ……元気がないのは、トータルテンボスのことがあるからだよ……

「苓、杏里、ひろ、ハルキ、さく、ミリア、凜南、凜十!! 久しぶりー」

名前呼ぶの長!!

そして多!!

今声をかけてきたのは……なつき 皐月ちゃんです。

「ああ、皐月か。」

兄ちゃんの反応微妙……今日は珍しく……お父さん以外だけで、みんな家に居ます。

「何その、反応!!」

「どーでもいいだろ?」

「久しぶりに会ったいところなんて言う言い草!」

「どーでもいい」

「ったく!」

相変わらず男勝りだなあ……

皐月ちゃん……

「ひろ君、久しぶりね。」

「あッ!! 文月ちゃん、久しぶりー」

文月ちゃんは、相変わらず御しとやかだなあ、皐月ちゃんとは大違いだ!!

でも、皐月ちゃんにこんなこと言ったら……ひいひい!!

「ひろし!! 前会った時と変わらずシケた顔してやがんなあ!」

「は、葉月ちゃん……どうしたの?」

昔はもつと……良い子? だったはずなんだけど……少なくともこんなよりは……

笑顔は、変わってないけどね?

ってか、何があつたの!?

「葉月? 前より、言葉使い悪くなってる!?! 前も悪かったけど」

「杏里ちゃん!! 久しぶりー」

言葉使い戻った!?

何で!?

「私、ソフト部入ったんだー」

それが言葉使いと関係あるの！？  
ってか、ソフト部入ったんだー  
女子は野球部ないからなあー

「あッ！そういうことかあ」

姉ちゃん！？

それで分かつちゃうの！？

「そうそう」

そして納得！？

まさかの以心伝心！？

僕らはいつも って歌わないよ！！

「えっと・・・どういうこと？」

いい加減どういうことが知りたいよ・・・  
2人だけ分かっててもアレでしょ？

「ええ！？あれで分かんないの！？」

どんな驚き！？

分かんないでしょ！？普通・・・姉ちゃんは例外としてね？

「だからあ、ソフト部っていわゆる野球じゃん？」

「まあ・・・近くはあるね」

「でしょ？だから、多少グレてた方がロマンチックじゃん」

それだけ・・・？

まさか・・・それだけ？

「それだけ？」

えッ！？

何か怒ってる！？怒りで震えてる！？  
まずいこと言った？ぼく・・・

「それだけってなんじゃこらー！！」

キレた？

「お前ちよつとそこに座れ。」

「座ってるけど・・・」

「そうか、よし！」

説教ですか？

キレたらいつもこうなんだよね・・・葉月ちゃんって・・・

「お前な・・・ルーギーズ見てないんか！？」

見てたけど・・・

「他にも、メシヤーとかあるやろ？」

あるね・・・

「ええか！？野球漫画はグレてる方がロマンチックやねん！！それで勝ったりかしちゃったりとか、猛練習しちゃったりとかしたらバリカッコいいやろ！？そのカッコよさを目指してんねん！！ロマ

ンなめんなよ？この糞野郎が！！まあ、それで負けたら痛い子やけどもな……」

なるほど……相変わらずロマンストなのは、分かった。

まあ、確かにカッコいいけど……そのためにグレるのは、葉月ちゃんぐらいなもんだよ！？

止めても聞かないからいいけど……どーせ、ぼくの言うことなんて……誰も！！

いいやい、いいやい！！

つてか、お母さん達めちゃくちや笑ってるし……

「あれ？そおいえば……睦月<sup>むつき</sup>ちゃんは？」

さくらの一言で、睦月がここに居ないことに気づいた。どーせ占いだろうけどね……

「睦月だったら、今日は占いで……何やってもうまく行かないって出たから……」

まさか来てないとか？

「アタツシケースの中に入って来てる」

ええ！？

何やってんの！？

つてか、皐月ちゃん嬉しそうに言わない！！

死んでないかな？

「つてか、ハルキも久しぶりだし 相変わらず、将来有望な男前だ

あ！！！」

皐月ちゃん・・・男の品定めしなくていいから・・・  
それが趣味なのは、知ってるけど・・・しなくていいから・・・

「ってか、睦月ちゃん出してあげないといけないんじゃない？ひろ  
お兄ちゃん達！！」

ミリアの声で我に返る。

そういわれてみればそうだなあ・・・出してあげないと！

「睦月！？出て来なよー」

アタツシケースを開けると、嘘のように睦月が出てきた・・・

嘘だと言ってくれ・・・

何やってんの！？ほんとに・・・

「だって、だって・・・占いがあ・・・ひつく・・・えッえッ・・・」

泣き虫なのも相変わらず・・・占い命も変わらず・・・大人し  
そうな顔してるのに、めちゃくちゃやるのも変わらず・・・はあ・・・

「大丈夫だって・・・ここ家だからさあ！」

「家でも・・・何もしないー！！」

「じゃあ、ずっとこうしてるの？」

「オフコース・・・」

自信なさげに・・・半泣きでもちろんって言われても・・・

「ていうかね．．．ていうかね．．．」  
「うん．．．」

今度は何．．．？

「髪の毛絡まつてる．．．」

動けない理由それ！？

おつちよこちよいも相変わらずで．．．ってか、そんな長い髪だからだよ．．．

太ももらへんまであるもん．．．どんだけ．．．

でも、霜月姉妹はみんな美髪だと思う。みんなサラサラだもんなあ。黒髪だし

ってか、ロングの割合が多い．．．葉月ちゃんはセミロングに近いショートだけど、ほかの３人みんなロングだからなあ．．．

卯月<sup>きづき</sup>さんは、セミロングだけど

俊也さんは．．．男ですから

「睦月、髪が絡まって動けないの？」

「文月ちゃん．．．そうみたいだよ．．．」

文月ちゃん登場！！

文月ちゃんは腰まで髪がある。ポニーテールにっていて、いつもリボンを付けている。

「だから、変わってって言った時変わってくれなかったのね？」

ええ！？

言ったの！？文月ちゃんも．．．子供っぽいところがあるのは、相変わらずなようで．．．

「早く取ってあげなよ」

皐月ちゃん!?

何でそんな嬉しそうなの!?

「でも、このままでもおもしろいかもよ?」

葉月ちゃん・・・そんなこと言わないであげて・・・

「ひろ君でも面白いと思うわ」

文月ちゃん・・・何てこと言っんですか?  
止めて下さい。マジで・・・

『それいい』

良くないよ!!

みんな口揃えて言わないで!!しかも、ぼくの家族まで・・・ふふふ

ああ・・・

いとも癖ありすぎでしょ?



第29話じゃじゃじゃ〜ん いとこ登場！？（後書き）

いとこ登場ですー！！

ひろしの家系は、キレると関西弁になります・・・なぜかひろし以外の子はキャラ濃いですねえ やっぱ  
まあ、ひろしなんかどーでも

皐月は髪は腰ぐらいまでで、若干ウェーブがかかっています。睦月も皐月よりも若干かかっていますー！！  
どんなんだよって感じですね（笑）

### 第30話 崖の上の麵田ラーメン？

どーも

作者でござーい

いつもどーり？番外やってくんですけど・・・

あいつらが来やがらねえんだよ！！ふざけんなよ？ゴミの分際で・・・

・

ってか、別に特別何やろうって決めてたわけじゃないからいいんですけど

でも、遅刻しやがるとはいい度胸だ。

何してやがるんだ？

ピロリン

ん？

メールか？何だ写メじゃん

誰からだ？これ・・・海月っちじゃん

タイトル・・・

『崖の上のひろし』

なんだこれ？

とにかく開いてみますか！！

・・・ぶぶッ！！超ウケるんですけど

あいつら、向こうで番外に出てやがるのか……。しまった……。かぶったか

小説内では、時間が違うのに……。って言うクレームは受けつけないので!!

ここでは、作者ルールですから

ってか、これバンジーか!?

情けねえツラがますます情けねえツラになってるじゃねえか!!  
笑いが止まらない

あいつらこないととなると……。どうすっかな……。  
まッ、いつか

来なくてもなんとかなるしい  
でしゃばる奴ぶっちゃけウザいしな!!

景気良く歌でも、歌うか!!

曲名『崖の上のひろし』

ふつーふつーふつー普通の子

ふつーの星からやって来た

ふつーふつーふつー普通の子

普通すぎる男の子

ふつーふつーノーマル面白味に懸ける 懸けっちゃう

全然書きがない ちよっとはなんかやれっや

以上

これ以上あいつのためにしたくない

んー・・・じゃあ、次は麵田めんだラーメン紹介するわッ！！

おーい、麵田めんだ 麵太郎めんたろう出て来い！！

「へい、らっしやい！！」

別にいらっしやってないけど

「ええやないですか 売り上げあげないと破産なんで」

経営危ないやんけ

「いいんです」

いいんかい！！

麵太郎は、ひろし達の同級生です。

麵田ラーメンの跡取り息子です。弟も居るけど・・・弟はラーメン作りがめっちゃ下手。

ちなみに4年。

ぶっちゃけ、今の主人であるお父さんも、ラーメンめっちゃ下手。食えたもんじゃない。

良くラーメン屋やろうと思ったな。あの糞ジジイ。

でも、麵太郎はめっちゃ上手！

麵太郎が作ってる時だけ、繁盛してる。

ハルキと飛鳥の行き着けでもある。

まあ、番のパン屋もだけど

ってか、もう紹介ダルイわ．．．．止めていい？

「ちょっと待って一言言わせて!!」

じゃッ！早く

「麺田ラーメン、俺の時だけ美味しいよ 是非俺の時だけご来店を  
!!」

なんて自己中な．．．

「だって、親父のラーメンキモい」  
どんなだよ

「一回食べてみたら分かる」  
ふざけんな。  
誰が食うか。

安心しろ、後で奴らに食わすから．．．くつくつく

「そーか！じゃあ、しっかり殺してくれよ!!」

殺すまでいかん。

特にクズ糞ボケ間抜けピーマンひろしはな。  
杏里の料理と比べたら可愛いもんやからな!!  
平気で食うと思うぞ？

「あいつどんな目に合ってたよ．．．」

想像に任せる。

「怖いな」

大丈夫だ。想像よりヒドイから

「そっち!？」

じゃあ、どっちだよ？

それ以外にあんのか!？

お前・・・さては・・・Mだな・・・

「・・・」

否定しねえのかよ。分かりやすい奴だ

「とにかく、その内本編でも出るんでよろしく!-!」

誰が出すって言った？

「え!？」

なんでうちがお前ごとき出すねん。  
出すなんて一言も言つてへんし。

「ちよつと・・・」

まあ、もう終わるから

「ちょッ・・・」

くだらんことに付き合つて頂きありがとうございます。

くだらん奴しかでてへんわ、くだらん歌やわで、最悪ですよね？

ほんまに

「ちょ・・・」

やかましいな。

これからもヨロシクお願いします  
でわ!!

ほんまくだらんかったなあ・・・

### 第31話どでかいカミングアウト

「ひーろーしー！！普通だー」

いきなり何！？

第一声がそれってどんなんだよ！？

いきなり、いきなりですみません。ひろしです

なんか、皋月ちゃんがぼくの顔を見た瞬間・・・そんなことを言  
って飛びついて来ました。

ってか、普通だーって・・・どうせ、普通ですよ・・・どうせ

「まあ、キモい奴より若干マシだからあ　普通すぎて面白味ないと  
か思っていないからね」

どーせ、面白味ないよ！！

悪かったねーだ！！

「どーせ、普通だよ！！でもね、普通って言うのはシンプル・イズ・  
ザ・ベストなんだよ！？分かる？ベストなんだよ！！普通って言う  
のは、ベストなんだよ！！普通万歳って感じてしょ！？普通を馬鹿  
にする奴は普通に泣くんだよ！！名言だよ！？」

勢い余って、普通理論の一部語っちまったぜ・・・  
ベストなんだ！！

「落ち着け。」

「兄ちゃん、ありがと！」

兄ちゃんは一言だけ言って、水を差し出してくれた。



ああ、水が美味しい。

「ひろし、ウケる」

「皐月ちゃん！ヒドイよ！！」

「あははー 大丈夫だって、普通は変わらないから」

「何が！？」

普通で何が大丈夫なの？

まあ、普通にしたら大抵のことは大丈夫だと思うけど……  
やっぱ、普通が1番じゃん

「ってか、ひろしの多少変な理論は置いといて」

何！？

姉ちゃん、どこが変なの！？ぼくの素晴らしい理論のどこが！？  
まッ、置いとこう。（いいんかい）

自分の価値観を人に押し付けたらダメなんだよ。

「お母さんってさー、伯母さ……じゃないや！卯月さんと姉妹なのに月の陰暦名じゃないよね！？なんで？」

卯月さんも、皐月ちゃん達もみんなそうなのに……」

言われてみれば……そうだなあ……

お母さんって名前、亜沙羽だしなあ。

姉妹なら同じような名前にしそうなもんだけどな……暦名なら弥生とか？

思えば名字も暦名だよね？だから名前も暦名なのか？  
ってか、姉ちゃんってほんとに変なとこに気づくよね！？

「そりゃあ、そうでしょ？」

「なんで!？」

「だって……」

血繋がってないし

私だけ」

は？

「……え？えええええ!？」

なんで？

何がどうなってるの!？どうどうこうこうなってるの!？

意味が分からん!!

まさかのカミングアウトだよ……ってか、マジですか？

「嘘でしょ？」

姉ちゃんもハルキもさくらもミリアも皐月ちゃん達も驚きを隠せない様子……

まあ、これが普通の反応なんだけど……

兄ちゃんは……おかし食べてた。

「苓兄!!それ俺のお菓子じゃん!!勝手に食うな」

「あッ?悪い。」

「苓兄見ると怒る気しねえ……」

「じゃあ、一緒に食うか？」

「そうするか！」

ハルキも混じって、なんかほのぼのしてるんですけど……この異常事態に――！

「お兄ちゃん！何考えてるの！？この異常事態に――！」

姉ちゃんの言うとおりだ――！

姉ちゃんもまともなところあったんだね。

「私も一緒に食べるよ――」

……まともな訳ありませんね。

一瞬でも期待した、ぼくが大馬鹿でした……。

でも、さくらはちょっとはまともなはず――！

「私も食べよう――！この新作お菓子結構騒がれてるよねえ――」

うん……。分かってたけどね？

ってか、そんな情報いらないから……

「くう――」

「こわす――」

何でもかんでも壊すんじゃないの――！

ってか、食つをどうやって壊すんだよ？

「くち――」

「こわす――」

そうか！！口を壊して食うを壊すのかー

って！！心の声に応答しなくていいの！！

思ったけどどうやったんだ！？

エスパー！？

「じゃッ！私らも食べよ」

「そだねー、ひろしも食べないとなくなるよ？」

皋月ちゃん達まで・・・なんで常識ない人が身内にこんな多いんだ？  
どうして？

ぼくはまともでしょ？

まあ、お菓子食べるけどさ・・・

このスナック菓子美味しい！！

新作のやつも噂どおりになかなか・・・

「で、母さん。どういうことか説明。」

兄ちゃん・・・冷静だなあ

ってか、この状況で聞くの！？

「ちょっと、待って！私もお菓子食べるから」

やっぱりお母さんは兄ちゃん達のお母さんのようだ。

### 第31話どこかいカミングアウト（後書き）

次回から、お母さんの過去編に入ります。

### 第32話 母の過去 26年前の真実

「そうね・・・話して置いた方が良くかもしれないわね。いつかは話そうと思っていたし・・・」

そう言ったお母さんの顔は目に見えて辛そうだった・・・。  
こんな顔のお母さんをぼくは、初めて見た気がする。  
みんなもそのことを感じ取ったのか、少し顔が強張っていた。

「私は、本当の両親を2歳の時に亡くしているの。10歳まで孤児院に居ただけど・・・いろいろあって、それで今のあなた達から見たらお婆ちゃんとお爺ちゃんの家に取り上げられたのよ。」

少しの沈黙の後、お母さんはそこまでを一気に話した。  
まったく知らなかったことばかりで、ぼく達は驚きを隠せない。

「そうね・・・今から、26年ぐらい前かな？私が10歳の時から話すのがいいかな・・・家事で家が全焼して、家族がみんな亡くなったの。それで、孤児院に預けられて8年が経った頃だったわ・・・」

ぼく達は黙って、お母さんの声に耳を傾けることを心に決めた。

回想はいりまーす。

「亜沙羽ちゃん！院長先生がお話あるんだって、院長室まで行って来てね！！」

「はい！先生、院長先生なんの用事かなあ？」

「さあ？亜沙羽ちゃんに大事なお話って言ってたよ！」

「そつかあ・・・じゃッ！行ってくるー」

院長先生、なんのお話かなあ？

優奈ゆなと七恵ななえと晃平こうへいと純じゅんと愁斗しゅうとのいつものメンバーで遊ぼうと思ってたのに・・・

ほんと、なんの用だろオ？

「失礼しまーす！院長先生？亜沙羽だよ」

ノックをして、院長室に入った。

「亜沙羽、大事な話があるからこっちにいらっしやい。」  
「うん！」

いつも優しい先生の重々しい口調に不信感を覚えたが、さほど気にすることもなく、言われたとおりに院長室のソファに座った。  
ふかふかだあ！

「亜沙羽・・・」

「なあに？」

言いくそうにしている、院長先生に言葉の先を催促した。  
なんだろオ？

「落ち着いて聞いてね？」

「うん？」

「亜沙羽のこと引き取りたいって言う、人が居るの……」

「え？」

引き取る？私を？

それって………

「もう、ここには居られないってこと？」

そんなのヤダよ……

「……そうよ。」

ヤダ……絶対にヤダ……どうしてここに居られないの？

なんで？そんなのヤダよ……

ここには、いっぱいいい友達居るのに……小学校にだつて……

「絶対に嫌。」

「亜沙羽、引き取りたいって言うてくれる人はね？良い人なのよ？お金持ちのお家らしいわ……」

「お金なんか知らない！！私絶対に嫌！ここから離れたくない！！」

どうして知らない人の所に行かなきゃなんないの！？

そんなのおかしい！

絶対に嫌

「亜沙羽……ここに居るより、幸せになれるわ……だから……嫌！！！」



私は院長先生の言葉を遮って、振り返ることなく院長室を後にした。  
ドアの閉まる音が大きく響いていた。

引き取られるなんて・・・絶対に嫌！！  
だって・・・ここには・・・

「亜沙羽？どうしたんだよ？すっげえ顔して」  
「愁斗・・・・・・・・」

俯いていた顔を上げて、声の主を見ると・・・サッカーボールを持つて、  
立っている、大好きな人だった。

「おわ！？なんで泣くんだよ！？俺なんかしたか？」

いつの間にか流れ落ちていた、涙を拭いながら  
私はぶんぶんと首を横に振る。

「腹でも痛えるのか？」

またも首を横に振る。

「あー！もう！！とにかくこっち来い」

私は微かに頷いた。

それを見てか、愁斗は私の腕を引いて歩き出した。

「で、どうしたんだよ？」

裏庭まで連れて行かれて、そう優しく尋ねられた。

「どうもしてない。」

「はぁ！？」

「どうもしてないもん。」

何故だか分からないけど、愁斗に言いたくなく私は口を閉ざした。  
もう、涙は乾いていた。

「あのなあ！！なんもねーのにあんな泣くのか！？お前は」

頭をがしがし掻きながら、少し大きめの声を上げた愁斗・・・  
そんな大きい声で言わなくても！

「目にゴミが入っただけだもん！！」

「ふざけんな！ゴミを避けれるような奴が！！」

「なッ！うつさい、とにかく何でもないの！！」

「ほお！？いつも意地でも泣かないような気の強い奴がなんでも  
ないのに泣いてたのか！？」

うッ・・・

ム力つくなぁ・・・

「関係ないじゃん！」

「ある！悪戯が失敗したらどうすんだ！？」

そっちかよ！！

ちよっとは心配しろよ！！

「それに・・・元気が取り得の奴が泣いてると調子狂うんだよ！  
！とつとと元気になれ！！馬鹿野郎」

「誰が馬鹿だ！」

でもまあ・・・一応心配してくれてるみたいだね・・・一応だけ  
ど・・・

別に嬉しいとかじゃないけど！！

心配するのが当然でしょ！？幼馴染として！

「愁斗・・・」

「なんだよ？」

「話したくなったら言うから・・・」

「分かった。じゃッ、行くぞ！！あいつら待ってんだからな！！」

「うん！！」

短い言葉を交わして、みんなの待つグラウンドに向かった。  
さつきよりも心が軽くなったような気がした。

第32話 母の過去 26年前の真実（後書き）

お母さんの過去編入りました。

長く続きそうですけど、お付き合い下さい。

### 第33話母の過去　つかの間の幸せと決意

「亜沙羽と愁斗おつそーい!!」

「優奈ゴマーン!!」

「ゴマーンって何!? 私の値段5万!？」

「優奈やつすー」

「純うつさい!!」

「まあ、まあ、落ち着けよ!」

「晃平は落ち着きすぎて、子供とは思えんぞ? おじんかお前は?」

「どつという意味だよ!？」

「もう! みんな落ち着こうよ・・・」

「七恵声ちつさい!」

「しょーがないじゃん! つか、みんながでかいんじゃない!!」

ぎゃーぎゃー五月蠅いなあ。

そんな子としか、ツルんでない私も私だけど・・・

「つかさー、もう遊ぶ時間ないよな?」

愁斗がもつともなことを言った。

もう、日が沈みかけていた。

あーあ

「亜沙羽と愁斗が遅いからじゃん!!」

「優奈ゴツマーン!!」

「そのネタもういいわ!!」

もうよかった?

やっぱ5万は安かったかな?

「ご飯だから、戻ろうぜ！」

「晃平って、ご飯の時間は正確だよなあ・・・」

「純！晃平はそおいう奴なんだよ！！おじんだからなあ」

「そうか、おじんかあ！！」

「おじん関係ないだろ！？」

3人とも何やってんだか・・・

完璧馬鹿じゃん・・・

「まッ！晃平の言うことももつともじゃん？戻ろうよー」

「お腹すいたしね・・・」

「だねー」

男どもとは違い、落ち着いてるだろお！？

さすがだ！！

「あッ！」

院長室に帽子忘れた・・・

「亜沙羽？どしたの、急に大きい声出して・・・」

「忘れ物しちゃった！みんなに先行っててって言っというて？」

「うん。分かった！！早くね？」

「うん！！！」

七恵にそう告げて、急いで院長室に向かった。

院長先生が居ませんように！！

院長室の裏の窓のところから、そーっと部屋の中を覗く・・・期待

とは裏腹に中には院長先生が居た。

何か話し声が聞こえる・・・お客さんかな？

そう思いながら、部屋に入るチャンスを探がう。

窓が開いていたから、話し声はつきりと聞こえてきた。

「確か・・・相原<sup>あいはら</sup> 亜沙羽ちゃんだったですわよね？お答えは頂けたのかしら？」

えっ？

私の話？もしかして・・・この人が！？

こっそり、窓から中を見してみる。

おそらく夫婦であろう人達が居た。

女の人は、高級そうな服を着ていて、宝石をこれ以上付けられないくらい付けている。

確かに・・・かなりお金持ちそう・・・

でも、意地の悪そうっていうか・・・ツンツンしてる感じの顔だった。

男の人は、スーツを着ていて、バリバリに働いているような感じだった。

でも・・・なんか冷酷そうっていうか・・・冷たい目をしていた。  
好きになれそうにないな・・・  
直感でそう悟った。

「・・・亜沙羽は・・・嫌だと言っておりましたわ・・・」

院長先生は言いにくそうにしていた。

「まあ、聞き分けのない子には見えませんでしたけど？あの事を言

ったのならば」

あの事？

それ、なんの事？私は今まで以上に聞き耳を立てた。

「あの事は言っておりません。そのような事で子供を惑わしたくありませんので」

「そうです。私も惑わすつもりはございませんけど」

「では、院長先生……孤児院への寄付はなかったことでしょうか？」

「ええ。子供を売るような真似までして、寄付など欲しいとは思いません」

寄付？何のこと？

この話からすると……私を引き取ることが出来たら……寄付してもらえたってこと？

「孤児院を潰すことになりますよ？子供たった1人の為に」

「子供1人守れない大人になどなりたくないもので」

院長先生……

孤児院が潰れる？

じゃあ……ここに居るみんなは！？みんなは……どうなるの？ここには50人も居るのに……

私が、私が……あの人達の所に行けば……

済むことなんだよね？



「では、また伺いますが．．．次を最後にしましょう。我々もあまり暇ではないので」

「失礼いたします。」

「何の持て成しもしませんで」

ボタン

あの人は帰ったようだ．．．

次で最後．．．これで私がいかなかったら．．．みんなが．．．

愁斗だって．．．

私が行けば．．．みんなはこのまま暮らしていける．．．

みんなは今のままでいられる．．．

だったら．．．私は

行かなくちゃいけないと思う。

### 第34話 母の過去 辛い日々

「亜沙羽？本当に何も言わなくていいのね？」

「うん・・・いいの！」

私が引き取られることを決意してから、1週間が経った。あの後、私があの人達の所に行くと言ったら、話しがスムーズに進み、決意の揺らぐ時間さえなかった。

私は、それでよかったと思う。

あれ以上みんなと居れば・・・行きたくない思いが強まるに決まっているから。  
これでいい。

「亜沙羽さん、お迎えにまいりましたわ。さあ、行きましょう」

「はい・・・」

これから私の母親となる人が向かえに来た。  
すっごい高級車に乗って・・・運転手居るし・・・

「じゃッ！院長先生・・・今までありがとう！！ばいばい」

精一杯の笑顔で院長先生に最後の言葉をかけた。

少しでも気が緩んだら、泣いてしまいそうだった・・・

「亜沙羽・・・ごめんね？」

そんな言葉が聞こえてきたと思ったら、私は院長先生の暖かい腕の中に居た。

本当の母親の温もりは覚えていないけど、院長先生の温もりは母親

以上のものだといふ時思った。

「私がつとつかりしていれば……こんな事には……」

涙声で続けられる院長先生の言葉……その言葉に私はただ首を横に振ることしかできなかった。

「院長先生……ありがとう。楽しかったよ……」

私も半ば涙声で、そう告げた。

「私も、楽しかったわ……ありがとう」

そう言われて一気に涙腺が緩んだ……ぼろぼろぼろ流れ落ちる涙に私はもう、何も言えなかった。

「亜沙羽さん、時間ですわ。参りましょう」

「はい……」

私は院長先生から離れ、母親となるであろう人の所に向かった。車に乗り込んで、孤児院が見えなくなるまでの間、私はずっと手を振り続けた。

さよなら……

さよなら……

愁斗……

「亜沙羽さん？着きましたわよ」

孤児院を出て、3時間ぐらい経った頃だった。大きいお城のような家の前に着いた。

今日からここで暮らすのか・・・憂鬱だけが心を支配した。

車のドアが開けられて、車から降りた。

母親になった人は1人先を進んでいた。まるで、私の存在など知らぬように

表札には、ローマ字で、てんじょういん天城院と書かれていた。

ニュースで聞いたことのある名前だな・・・と思った。

「あなた！あなた！亜沙羽さんがいらしたわよ！！」

少し大きめの声を上げられて、顔を顰めた。

どでかい階段から、あの時来ていた男の人が現れた。

相変わらず、スーツを着ている。

「そうか・・・来たのか・・・じゃあ、亜沙羽だったかな？こっちへ来なさい」

「はい。」

言われたとおり、その男の人に着いて行った。

すると、映画にでも出てきそうなリビングにたどり着いた。

「亜沙羽さん、まず2、3説明したいことがありますから、お父様のお話をよく聞いて下さいね。」

「はい」

お父様と言つ単語に嫌悪感を覚えた。

こんな人がお父さんなわけじゃない……

「君は今日から天城院 亜沙羽だ。我々のことは好きに呼んでくれ。知つていると思うが、私は天城院財閥の社長だ。君には跡取りになつて貰おうと思つてゐる。我々に子供はいないからね。そのために1番才能に溢れていた君を貰つたわけだが、才能があると言つてもまだまだ跡取りとしては、力不足だ。だから、我々の言つとおりに動いて貰う。君は感情など持たなくていい。我々の言つとおりに動くロボットでいいんだ。」

どうということ？

そんなの……人間じゃない……ロボットつて……

「ふざけないで……私を何だと思つてんのよ!!」

「高性能ロボットの軸になる物だ。」

「人を何だと思つてゐるの!?!いい加減にして!!」

私は荒々しい声でそう言つた。

この人達が許せなかった……

「君は、その人にお金で売買されたんじゃないのかね?君にこの家で口答える権利はない。孤児院への寄付がなくなるだけだからね。」

きたない人達……醜い……

私は売買なんてされてない。自分でこの道を選んだんだから……  
そう自分に強く言い聞かせた。

「ふう、この子は牢屋に閉じ込めておけ。拷問器具がある方にな。」  
「畏まりました。ご主人様」

牢屋？拷問？どういうこと？

私は考える間もなく、2人の使用人であろう人に地下室に連れて行かれた。

薄暗い所だった。靴の音が大きく響いていた。

刑務者の牢獄のような所に入れられた。拷問器具の意味がやっと理解出来た。

そして、自分がこれからどういう目に合うのかも……

それからは……口が裂けても人に言いたくない生活だった。

勉強で1問でも間違えれば爪を剥れた。

小5、6で東大の入試問題なんか出来るわけじゃない……運動は、ありとあらゆるスポーツの大会に出された。

優勝でなければ、叩かれ、蹴られ、刃物で刺されたりした。それがたとえ……世界大会でも

フオークやナイフの位置が1ミリでも違えば……ご飯抜きで、手を鞭で打たれた。

大きな失敗をすると、首を吊られた。拳銃で撃たれた。

辛い、辛い毎日だった。

それでも、従ったのは……孤児院のためだった……みんなのためだと思つと頑張れた。

だけど・・・体には無数の傷、血を流しながら暮らす毎日、食べることすら出来なくなっていた。

笑うことすら・・・出来なくなつた。

本当にロボットみたいになつていった。

当然のことながら、体は皮と骨しかないぐらいに痩せ細っていた。中1の体ではなかった。

昔の面影などなかったかもしれない・・・鏡すらなかったから、自分で姿を確かめることは出来なかった。

が、何度もお見合いをさせられ、見合い相手は気持ち悪いほどニヤニヤしながらこちらを見ていたところを見ると・・・そんなヒドイ顔ということはなさそうだった。

そんな日々が3年続いた、中1のある日・・・

いつもどおり私は、午前中のお稽古を全て終えて、牢屋に入れられている時だった。

靴の音が聞こえてきた。

まだ、休憩なはずだけど・・・？

「亜沙羽！久しぶり・・・」

えっ？

この人は・・・まさか・・・

「愁斗？」

### 第35話 母の過去 取り戻した幸せ

「よく俺だつて分かったな!!」

「愁斗もね・・・よく私だつて分かったね・・・」

愁斗は昔と全然変わつていなかった。

背はすごい伸びてるけど・・・私伸びてないのに・・・  
当然だけど

「愁斗、どうやってここまで来たの？」

疑問に思つたことを愁斗に訊ねた。孤児院からだど3時間かかるの  
に・・・

車を出すにも、先生達が許すわけないし・・・

「歩いて来た。」

そんな普通じゃないこと、普通に言われても・・・  
てか、何やってんの？

「ダメじゃん・・・」

「先生の許可は貰つた。ってか、お前なあゝ！何急にいなくなつて  
んだよ！！みんな、すっげえ寂しがってんだぞ!？」

しょうがないじゃない・・・みんなのためなんだから・・・  
孤児院が潰れたら、みんな行く所がないんだから

「しょうがないこと。ってか、よくここに入れたね？」



見張りがそこら中に居るはずだけど・・・  
私が逃げないための・・・

「んー・・・なんか、秘密の出入り口っぽいところあったから」

見つけて入ったわけ？  
すごいな、おい

「それにしても・・・」

愁斗は私をじつと見ていた。  
私は慌てて目を逸らす。

「お前、何されてんだ・・・？こんなに痩せて・・・傷だらけだし」

私は慌てて傷を隠した。

1番・・・見られなくなかったのに・・・

「関係ないでしょ？」

とにかく早く帰ってほしかった。

「関係あるから。」

「何で？」

「俺・・・寄付の話聞いちゃったんだ。」  
「・・・」

だから、こんなとこまで来たって言うの？  
馬鹿じゃない・・・

「亜沙羽・・・お前だけがこんな辛い思いしなくてもいいんだぞ？俺も新聞配達とか他にも働いてるし、純と晃平だって」

「中学生が働いて良いの？」

「許可貰ってる。」

ほんと馬鹿だね・・・そんなお金で孤児院を救えるわけないですよ？

こついう汚い、お金関連のことなら3年間でよく勉強したから分かる・・・

汚い世界に慣れてしまったから分かる。

「優奈と七恵もお前のこと心配してるから！」

「だから？」

「はッ!？」

「だから何なの？私はここで暮らして行かなきゃならないの。もう・・・みんなとは・・・住む世界が違うの・・・」

こんなこと言いたくなかったけど、このままじゃ愁斗まで危険になる・・・

「嘘つきは泥棒の始まりなんだぞ？」

「え？」

「2歳の時からお前と居るんだ、嘘か本当かぐらい分かるだろ？普通」

・・・何言っても無駄なような気がしてきた。

何故か笑いがこみ上げてきた。

すごく・・・久しぶりに

笑った。

「昔と一緒に顔だな・・・」

「こんなに酷い姿でも、昔の面影あるんだ？」

「ってか、あんま変わってない。」

「そう？」

愁斗の言葉1つ1つで、汚れていた心が洗われるような気がした。  
この時、気づいた。

愁斗への思いも・・・変わってないことに

「もうすぐ・・・午後のお稽古始まるから・・・ここに居ると見つかるよ？」

「マジ！？じゃッ、また来るから・・・」

そう言つて、愁斗は出入り口があるのであろう方に走つて、向かつて行つた。

それからは、ずっと愁斗が来てくれた。

3年ぶりに人並に幸せの時間があつた。愁斗と居る時間は・・・幸せだった。

こんな汚い世界の中でも・・・

こそこそと愁斗と会う日が1年続いた。中2になっていた。  
この頃から、お互いに恋愛感情の好きを持ち始めていた。

「亜沙羽ー・・・」

「何？」

「俺と付き合わない？」

「いいよー……ってええ！？」

今、さらつとすごいこと言わなかった？愁斗……  
聞き間違いかなあ？

「だから、俺と付き合わない？」

「どしたの？急に……」

こんなこと言うなんて珍しいっていうか……ありえない。

私は5年片思いしてるから……嬉しいけど……この世界で付き合って行くななんて……

「んー……だつてさ、亜沙羽って俺以外と恋愛出来ねえじゃん？」

「まあ……ね」

ここから出して貰えないから……当然だけど……

お見合いは何回もしてるけどね

「優しい優しい俺が、そんな亜沙羽の為に！付き合ってあげようって言ってるの」

「ムカつく……上から目線……」

ほんとにムカつくなあ……  
ってか、同情かよ……

「まッ！それは冗談、俺……亜沙羽のこと好きだから……」

マジで？

いやいやいやちよつと待とうー！

真剣な顔して言うの止めよう!!  
おーっと! 顔赤らめるのも止めよう!!

「ってか、俺も亜沙羽以外と恋愛出来ねえし!」  
「そっちかよ!」

って感じで、まあ付き合うことになった・・・って言っても今までと何も変わらない毎日だったけど・・・  
けど、関係がはつきりしたことで少しすっきりした。  
相変わらず・・・傷の絶えない毎日だったけど・・・それでも、愁斗の存在1つで頑張れた。

だけど・・・また、1年が経ったある雨の日・・・それは起こった。

午後のマナー講座の時・・・飲み物を口に含んだ瞬間・・・

「うつ・・・」

急いで席を立ち、洗面所へと走った。  
吐いた。

まさか・・・これって・・・

「亜沙羽さん・・・あなた・・・妊娠してるの? それって、つわりじゃなくて?」

「ち、違います!!」

すごい剣幕のあの人に、必死で否定した。

「どなたの子？あなた、いったい何を考えてるの！？まだ、あなたは15歳よ？世間に知れたらどうなるか……」

天城院家の跡取りとしての自覚を持ちなさい！！」

「申し訳ありません。」

謝る気など本当はなかった。

私は嬉しさでいっぱいだったから……愁斗との子供が出来た……それだけで嬉しかった。

「仕方ありませんね……下ろしなさい。」

「え！？」

静かにそう言われ、私の頭は真っ白になった。

「まだ、知られてない内に……」

「嫌です。」

「何を言っているの？」

「絶対に嫌。」

そっぴい残し、私は始めて無断で部屋を出た。走って、地下室に向かった。

そっと……お腹を擦りながら……

### 第36話 母の過去 消え去ったモノ

「愁斗・・・私、妊娠しちゃった」

地下室に戻って、愁斗に話した。

深刻にする話でもないから、ちよつと若干明るめるに・・・

「おお！？マジで！？」

「マジで、マジで」

「おおお！すっげえ！？」

言葉の意味がよく分からんけど、あえて突っ込まないでやってやる。  
う。

なんて優しい。

「でもさ・・・」

急に深刻そうな顔になった愁斗・・・

「子供を育てていくとなると・・・ここじゃ無理だろ？ってか、それ以前に産むのも無理じゃん？」

「・・・そーだね、あの人にも反対されたし・・・ここじゃ完璧無理！！」

「だろ？じゃさー・・・脱走しねえ？」

脱走！？

重要なこと味噌汁おかわり！みたいな感じで言っつなよ！！

「でも、見つかる可能性の方が高いよ？それに、ここから逃げ出せ

たとしても暮らしていけるかどうか分からないよ?」

んー・・・私って現実的だなあ・・・  
まッ!あの人達と居ればね・・・

「そんなの知らん。」

知らんって・・・おいおい

「後のことは後から考える主義だ!」

それで何回失敗してんだ?おい

「それに、ここに居れば赤ちゃん・・・殺されるぞ?」

そうだけど・・・でも、ここから逃げ出して幸せに暮らしていける可能性も低いでしょうが!!

でも、赤ちゃんを殺されたくない・・・

今思えば、この時の気持ちは完璧な母性本能だったなあって思う。

「だから!!逃げよーぜ」

逃げよーぜのところだけ真剣に言われ、私の心は決まった。

ていうか、赤ちゃんが殺されるって思った時からホントは決まっていたと思う。

「ここから、愁斗と赤ちゃんと一緒に

抜け出す。」



はつきりとした声でそう言った私に、愁斗は優しく微笑みかけてくれた。

「じゃッ、膳は急げだ！今日の日付が変わる頃……行くぞ！」  
「うん」

不思議と迷いや不安はなかった。  
母親になると、女の人は強くなるって聞いたことがあったけどこの時初めてその意味が分かったような気がした。

「亜沙羽ー……行くぞ！」  
「うん……」

私と愁斗は2人で手を繋いで、地下から抜け出そうとしていた。  
私は正直、不安でいっぱいだったけど……  
手から伝わって来る愁斗の温もりで何とか落ち着いていられた。

「亜沙羽、大丈夫か？」  
「だいじょーぶだって！私を誰だと思ってるの？」  
「へいへい」

それだけかい！  
もっところ……ねえ？

私は愁斗に連れられて、地下室から出た。

ものすごい久しぶりに外の空気を吸った。すごく気持ち良かった。そんな感動に浸る間もなく、急いでこの家から逃げ出そうとした。愁斗も喋る余裕もないようだ。

「亜沙羽さん、どこへ行くお積もり？」

「え・・・」

私達の前に・・・あの人が立っていた・・・勘弁してよ・・・

「チッ」

愁斗も予想外の事態に戸惑ってるようだ。

「そうだぞ。亜沙羽、お前はうちの跡取りなんだ。」

マジで勘弁だつて！！

「おい。亜沙羽」

「何愁斗？」

小声の愁斗に合わせて、私も小声で話す。

「お前だけでも逃げろ」

「はあ！？」

「いいから」

「そんなこと出来るわけないじゃん！！」

「やろうと思えば大抵のことは出来る」

「おい!!」

「何コソコソ話してらっしゃるのかしら？」

げっ・・・おばはんが・・・怒ってるYO!!  
ってこんなことしてる場合じゃない!!

「亜沙羽・・・妊娠したんだって？お前は跡取りなんだぞ？何を考  
えているんだ？」

その冷静な声が怖い・・・どうせなら怒ってくれたほうがいいん  
ですけど・・・

おじはん!!おじはんは、変かな？やっぱ

「しょうがないから・・・その赤ん坊には死んで貰わないといけな  
いんだ。」

そう言つて、おじはん？はとんでもなしからむる物を取り出した。  
思っただけ、この状態で私余裕ありすぎじゃない？

「亜沙羽・・・少し痛いかもしれないが、こんなのはいつものこと  
だから平気だろう？急所は外しておくから安心しなさい。」

安心出来るかあ!!

おじはん？とおばはんが持っていたのは・・・拳銃だった。  
ありえないでしょ!!？何考えて生きてはるんですか!？

「亜沙羽!!逃げろって!!」

「う、うん」

愁斗の気持ちは痛いほど分かっていたつもりだったから、私は全力疾走で駆け出そうとした。

だけど・・・激しい銃の音がして、数秒経った頃に私はやっと、自分の足が撃たれたことに気付いた。

足の痛みと血で染まった、地面を見て気を失いそうになったが、赤ちゃんのこと愁斗のことを思い、なんとか意識を繋ぎとめることが出来た。

こんなに傷が深く出来るほど撃たれたのは初めてだった。赤飯炊かなくちゃ！！ってなんでやねん

「次はちゃんとお腹を狙うからな」

うわゝ、悪人っぽい

「めちやくちゃ悪人じゃん。あーいうのを悪人面って言うんだろーな！」

「だね！」

愁斗も私ものん気だなあ・・・

・ 愁斗は私の足をハンカチで縛ってくれた。私のハンカチだけどね・・・

Bannon!!

さっきよりも大きな銃声がして、痛みはなかったが撃たれたんだろ  
うなと思った。

ってか、今撃つ空気じゃなかったでしょ？空気読もうよ

不思議なことに何秒経っても痛みはなかった。  
だが、上から血が落ちてきた。

どうして上？

撃たれたのは・・・私ではなく・・・

愁斗だった・・・。。

### 第37話緊急番外！誕生日大作戦！？

どーも^^作者でございます。

突然ですが、今日10月18日は海月綾先生の誕生日なのです！！

つてわけで・・・緊急番外編をやっちゃいます ノリで  
つてか、ぶっちゃけ誕プレを用意する金がなかったんで、もっとぶ  
っちゃけると買うのめんどいで、この番外が誕プレ的な感じになっ  
てます。

綾ちゃんゴメンね

前置き？はこんなもんで！

キャラ達と祝っていきますんで夜露死苦。

誕プレよこせ

全員「いきなりそれかよ！？」

健太「つてか、今日作者の誕生日じゃねえだろ？」

ひろし「海月作者の方だよね？」

淳「作者に誕プレあげる必要ないじゃん！」

うん。だから誕プレよこせ

全員「だから何でだよ！？」

その誕プレで、綾ちゃんが喜ぶかテストしたるから！

もしくは、東京湾に沈められる様な誕プレやったら渡しとったるか

ら!!

ひろし「酷いでしょ!?それ」

健太「沈められることを望んでんのかよ!?」

イエスオフコース

全員「……………」

文句ないようやから始めよか

じゃ…………とりあえず無難に健太から!!

健太「俺かよ!?つてか、無難つてなんだよ!?」

1番無難やる?

そないおもしろいわけでもないし

健太「面白さを求めんな!俺は純粋な少年だ!!」

ひろし「純粋じゃないでしょ?」

淳「健太は、俺と愛を語るために居るからいいんだよ」

ひろし「それもそうだね!淳と健太はお似合いだからなあ。つて言うかね、淳は健太が好きなんだから、性別とか関係ないよね!つてか、性別をも超える愛つて素晴らしいと思うよ?」

健太「ふざけんじゃねえ!!俺は純粋な普通の少年だ!!」

ひろし「え?愛人が居るのに?」

淳「愛人?嘘だあああ!!嘘だよな?健太には俺しか居ないよね!?!」

健太「いい加減にしやがれ!!」

好き勝手に喋るな!進めんやろ!!

だりイから健太1言にして。

健太「1言でプレゼント渡せねえだろ!？」

はい、健太終わり

健太「ちょッ!」

黙れ

健太は強制的に外に連れ出しました  
ちなみにココ作者の領域テリトリーだから

次、珍しくひろし行ってみよお!!

ひろし「ぼく!?!3番じゃないの!？」

すっかり3番が執着してるな。おい

ひろし「えっと・・・じゃあ、これ・・・メリー・クリスマス」

メリー・クリスマスじゃねえし。誕生日だし

ひろし「・・・・・・・・・・」

どうやら、マジ間違いだったらしい。顔が真っ赤じゃねえか

ひろしの誕プレはアレね。ケーキ!うまそう　うちが食っていい?  
全部

ってか、プレゼントも普通だな。おい

淳行ってみよお!!



「俺は、この占い大好き 入門セットを!!」

いらねー。しかも、表紙絵がキモい。ピカソ?っぽい絵と変な露出魔ジジイとオタクっぽい絵が混同してる。吐きそうな絵だ。

しかも、入門セットってなんだよ?

そんなもんいるわけねえだろ?

ふざけてんの?

「ひどイイイ!!」

ボタン (誕生日なのにやっちゃいました)

ここは・・・港に任せよう!! 港はこの小説には出てないけど、向こうでは出てるんで!! 特別出演? 的な感じ

「あー・・・ひろしとナルを苛めといてやるから!」

それいい!!

絶対1番喜ぶって!! うちも幸せやし

「だろ?」

さすが!!

なんか息統合? してしまった。今まで1番良いプレゼントだったな。  
うんうん

バナナ&パイナップルどーぞ

パイナ「なんで、バナナといっしょなわけ?」

めんどかったから。

バナナ「ってか、俺と一緒に嫌なのか!？」

パイナ「そんなことお・・・ないよお? (黒笑)」

オーラ超ダークです バナナたじたじ ホントに不良か? お前

パイナ「じゃ プレゼントこれえ」

バナナ「・・・・・・」

おお!! 喜びそうなもんが出てきたぞ!

2人の誕ブレはアレ! バイク!! しかもやたらカッコイイ。オート  
バイ的な?

がんがんにっちゃうぜ!! 100ホー!! みたいなの?

パイナ「2人じゃないよ? 俺1人だよ?」

バナナ「存在なし!？」

パイナ「何も聞こえない」

ってか、コレどうやって買ったん?

パイナ「え? たまたま落ちてたんだよ? それはもう綺麗に。鍵の所  
とか、チェーンとか、曲がってたけど、落ちてたんだよ」

落ちてたのかあ

じゃあ、拾った奴の物だよな

番出番だよ!!

番「コレ、俺の愛用の歯ブラシ。大事にしてくれ!」

何で歯ブラシ？しかも愛用？

番「みんながさわやか君って言うから、歯ブラシかなあって」

なんて素直な！！可愛いからおっけー

使わんでええから、貰ったれ！！

ナル・・・速くしろよ・・・

ナル「ふう。やっと僕の出番かね？待ちかねたよ！！」

黙れ。

お前なんかドブに落ちてろ。

ナル「なんてこと言うんだね！？こんな男前に！！」

精神科行つて来い。でも、精神科に失礼だな・・・やっぱどっか別世界に行け。

ナル「ヒドいじゃないか！？そうそう、僕からのプレゼントは・・・

」

ドブ行き決定だな。

ナル「なんでだね！？」

東京湾に沈むね。もう少しで

ナル「えっと、薔薇の花束を・・・年の数だけ・・・」

薔薇の針が刺さって、ドブに落ちて、東京湾に沈んで、船に引かれて、骨になれ。

灰になれ。存在消えろ。

「いくらなんでもヒド・・・黙れやクズ

あー、ひろし、番、飛鳥！！出ておいでー

ひ番飛「なに？」

パーティの用意して。今すぐ

ひろし「いきなり!？」

番「何で俺ら3人？」

飛鳥「だりい」

3人が1番料理出来るから。ひろしは料理全般!番はパンのみ!飛鳥は飲み物!

大至急で!!

ひろし「飾りつけは？」

そんなんいらん。ご飯があればええねん!

速くしろ!!

有無を言わず、3人は強制的に連れて行きました  
ご飯は1番大事だからな!

さてと・・・暇だから昼寝でも・・・

健太「作者!!」

ああ?安眠妨害するとは良い度胸だな。おい  
おもて出ろや。

健太「いきなり喧嘩腰かよ!？」

うるせえんだよ。なんだ?しばかれないのか?

健太「俺の扱い酷すぎるだろ!？」

知るか。やたら、変な奴にモテやがって！

健太「望んでねえよ!？」

ひろし「出来たよ？」

おお！早かったな！！

じゃあ、行くかあ！！

健太「俺は無視かよ!？」

健太、お前みんな呼んでこい。10秒でな。

健太「パシリかよ!？10秒って無理だろ!？」

無理って思うから無理やねん。

さっさと行け。出番0にするぞ？作者の権限なめんなよ？この世界はうちのためにあるんや。うち中心に回ってるんや。分かったな？

健太「……………」

黙らしたとこで、パーティ会場行くか！！

くパーティ会場く

みんな集まったとこで始めるぞー！！

って言いたいとこやけど……………なんや？これ

ひろし「ケーキだけど？」

それは分かる。うちが言いたいののは、何でこんなに蠟燭が立ってるんやってことや。

マジ何本立ってるんや？

コナン「計算してみたけど・・・333本立ってるよ？」

てめえら・・・どういうつもりだ？

綾ちゃんとうちは山姥やまんばか？おい333歳ってなんだ？すつげえ馬鹿になれそんな数字じゃねえか。

淳「すごい！ギネスブック更新だね！！」

ふざけんじゃねえ。こちらは、10代だ。てめえらとそんなに年変わらねえよ。あるキャラと同じ年だ。こら

全員「ええ~~~~！！」

健太「年そんなに変わらないのにあんなに偉そうだったのか？」

ひろし「その前に扱い酷すぎでしょ？」

淳「俺と健太をもっと！」

ぎゃーぎゃー

ぶち（なんかの緒が切れました）

てめえら全員制裁を受ける。

くい（怪しいひもを引きました）

全員「うわああわあああああ！？」

何で俺達まで？（ほぼ関係ない奴の心の声）

さてと・・・食うか

ひゃっほー！1人でご飯にありつけるぞー！イエーイ！！

こついうのを、鳥が幸せを運ぶって言うんだろーな うんうん（突っ込みがない状態です）

幸運の鳥っているんだな （突っ込みがありません）  
鳥ってチヨー！！アチヨー！！（いません）

「わいも食うで」

招き猫さん！？

「ええやろ？わいがあいつらにトドメ刺したから」

ならおっけー 食べよか！

鳥じゃなくて招き猫さんが幸せを運んだのか。幸運を呼ぶ招き猫？  
そのまんまだな。おい

招き猫さんってにゃーにゃー？でも喋ってるし・・・うーん・・・  
喋喋でいつか

さー食べよ！

あッ

誕生日おめでとー！！もぐもぐ

「おへれほー！もぎゅもぎゅ」

おめれとーおめてれーおもしろーおめれとーおもしろー？

「うまいなコレ」

ほうはねー

「七面鳥を一口で食うんやない！！」

ごっくん。

一口は美学だよ？

### 第38話母の過去　そして掴んだ幸せは・・・

「ん・・・」

目が覚めると、見覚えのない天井がぼんやりと見えた。  
ここどこ？

つてか、私なんでこんなとこいの！？

私何してたっけ？確か・・・おばはんとおじはんが・・・ばーん  
！ってなつて・・・

ばーんばーん！！

で？

えつと・・・愁斗が・・・血・・・ドバー

そうだ！！

愁斗が・・・撃たれたんだった・・・。

愁斗はどこ？

それ以前にここはどこ？

私は誰？亜沙羽だけど・・・

ガラッ

「目が覚めたかね？」

「誰？」

初対面の人にいきなりなんてことをお！！

つてか、この人マジ誰？お医者さん？白衣着てるし・・・優しい  
おじさんの感じだし



「私は、この病院の・・・病院と言っても田舎の小さい小さい病院には見えない病院だがね。一応、経営者だよ・・・大丈夫かね？」

「はい・・・大丈夫です。ありがとうございます」

つてか、自分の病院ボロクソに言いすぎでしょ！？  
笑ってるけど・・・

この人が助けてくれたのかな？

「あの、おじさ・・・先生が助けてくれたんですか？一緒に居た愁斗は！？愁斗はどこですか！？」

「あの一緒に倒れていた男の子のことかね？」

「はい！！」

やっぱ倒れてたんだ・・・ボタン！！

「気の毒だが・・・」

え？気の毒って何？

キノドクッテナニ？

「どういうことですか？」

「彼は・・・私が見つけた時には、もう・・・息を引き取っていた・・・」

先生の言いにくそうな口調と・・・真剣な顔で・・・  
本当のことだと分かるのに・・・頭が・・・体が・・・受け入れないと拒絶している。

「私が見つけた時、彼は君を守るように倒れていた。そして、君も・

・彼を守るために彼の携帯で警察に連絡した。警察が着いた時にはさっき言ったような状態だった。そして、私が君達を引き取ったんだ。君の足も治療する必要があったからね。そして・・・お腹の子のことも・・・」

先生に言われて、足のこと赤ちゃんのことを思い出した。多分・・・赤ちゃん死んでる・・・そのぐらい分かる。

「先生？赤ちゃん死んでるんでしょう？」

「うん・・・」

もう何もなかった。

何も残っていなかった。

先生の優しさが21年後よく分かることになる。

先生の優しさは、私につつま隠さずすべてをすぐに教えてくれたことと。

速く教えて貰ったほうが回復も早いのだよ！！  
考える時間も多くなるしね

「先生・・・愁斗と会いたいです。」

「分かった」

先生がすぐに霊安室に連れて行ってくれた。  
つくづくいい先生だな！

「こっからは、恥ずかしいから企業秘密ね」

『ええ~~~~~!!』

ここ現在です。ぼくひろしです。  
ってか、企業じゃないのでは？

「お母さん企業じゃないんじゃないの？」

「杏里 細かいことはナッシングなの」

「はいはい」

そんなことがあったのに元気で明るいなあ・・・  
ってか、どうやってお父さんと？

「亜沙羽ー!!」

「駿二さん」

お父さんがいつものごとく、テーブルの下から出てきました。

「亜沙羽!! 何度聞いてもその話は辛いぞー!! 悲しいぞー!! 愁  
斗の野郎ム力つくぞー!!」

おいおい!! お母さんを命がけで守ってくれた人になんてことを・・・

「あらあら 駿二さんったら」

それで済ますの!?

なんか・・・たくましい・・・

「でもな!?! 今はこの俺が居るからなあ!?!?! 俺は亜沙羽より長生きするぞー!?! うおおお!?!」

なんか、雄叫び？を上げてます。

「駿二さん・・・嬉しい」

「亜沙羽」

「駿二さん」

ああ！

またイチヤイチヤイチヤし出したし・・・まあ、今日は許してあげよう・・・

「っていうかね」

お母さんがこつちを振り向いて（抱き合つたまま）何か言おうとしている

「愁斗が居た頃より、今の方が幸せよ　可愛い可愛い子供達が居るしね」

「亜沙羽！？俺は？」

「駿二さんは当たり前でしょ？」

「亜沙羽ー！！」

がしー！！

それ以上強く抱き合う必要はないと思うんだけど・・・  
まッ、いつか・・・

「私は、あなた達を守るためなら核兵器も持ち出すわよ　今の会社をぶっ潰してもいいわ　ねっ？駿二さん」

「当たり前じゃないかあ　愛するファミリーのためなら、俺はお笑

い芸人並に体を張るぞー!!」

「あッ それ微妙」

「ええ!?!」

うん。素直に嬉しい。

みんなは笑ってるけど・・・多分嬉しいんだと思う。

「あッ!そうそう 隣の風平かぜひらさん家あるでしょ?あんた達の婚約者の」  
「うん」

隣の家には幼馴染の子達が居る。  
親同士が決めた婚約者でもある。

「あそこのお父さんが晃平で、お母さんが優奈だから」  
『ええ~~~~~~~~!?!』

驚くこと多すぎなんですけど・・・  
まさかのカミングアウト多すぎでしょ?

「あッ、俺と亜沙羽の愛の物語が聞きたいか!?!そうか聞きたいか!?!」

「別に聞きてえとか言ってるねえよな?」

「言ってるなーい」

「どっか」

「きえろー」

「うわーん!?!」

お父さん苛めるの好きだなあ・・・可哀想に・・・

でも、うちはこれで良いんだろうな。うんうん

兄ちゃんも姉ちゃんもハルキもさくらもミリアも凜南？も凜十？も考えるんだろうなあ・・・

今日、話して貰ったことを・・・

でも、考える時までこのまま笑っていようと思った。  
みんなで

第38話母の過去　そして掴んだ幸せは・・・（後書き）

母の過去編完結です。

長いことお付き合い頂きありがとうございます

いやあ、明るいなあ

まあ、過去がどうあれ、今笑っていられるなら幸せなんだと思います。

しみり終わりましたが、次から学校編が多くなって、賑やかになる？と思いますので

これからもよろしく願います^^

ってか、ひろしにまで婚約者！？

### 第39話風紀検査にご用心？

「みなさん、席に着いて下さい。」

突然、突然始まってすみません。  
ひろしです。

ただいま風紀検査の真つ最中でして……このクラスの風紀委員である糞真面目な夏木<sup>なつき</sup>麗子<sup>れいこ</sup>って言う人が、前に立ってみんなに呼びかけてる。

「では、1人1人出席番号順に検査していきますから、席を立たないで下さい。」

「ってかさあゝ、別に検査とかしなくて良くない？見るからに風紀乱してる奴居んじゃん」

「橘君。だから風紀検査をするんでしょう？ふざけないで下さい。」  
「へいへい」

ちなみに、旭が男子風紀委員。

ってか、旭がやってていいの？

旭も風紀を乱してる内の1人だよ！？

ワックス付けてるしさあゝ

風紀検査やる資格絶対ないだろ？別に良いけどさあ。実質、旭検査してないしなあ

「風紀検査とかダリイ……」

「ちゃけばあゝ、いらないうねえ？」

ぶーぶー（ブーイングの嵐。バナップルだけ）



うつわぁー……2人だけですっごい文句言ってる……  
ストライキ起こしそう!! (起こすわけないやろ)

「及川君、河東君、騒がないで下さい。」

眼鏡をくいつと押し上げて、2人を睨みつけるように言う夏木。  
そこまで怒らんでも……

そんなに風紀が大事なの?

風紀LOVE!?

風紀の論理なんかあったっけ?

「うるさい　　っつかぁ、やるんなら速くやれヨ」

「そ、そうだそうだ!」

何でキョどつてる? んだ? バナナ

「何キョツどつてんだよ? バナナ」

「ホントだよ! 何やってんの? バナナ」

健太と淳に突っ込まれてるよ……

っつか、微妙に夏木にビビッてる? 一応不良なのに……まあ、夏木……若干怖いけどさ。まるで、雨上がりの虹のよう……って意味分かんないなあ。

さっきからばく何言ってるの!? 変なことさせないでよ!? (ええやん)

「では、始めます。」

無視して進行!?

「風紀検査とかダリイよな？」

「健太まで文句言うなよ！！」

「ひろしの分際で俺に意見すんじゃないやねえ！！！！」

「それどういう意味だよ！？」

健太いつも酷いだろ！？

ぼくのガラスのハートが！！

「ってか、お前ら風紀乱しすぎだろ？ここだけいやに目立ってるぞ！？無断で席立ってるし・・・」

「そうだよ。いつもここに居るみんな注意されてるしね！」

真面目コンビ？コナン君と悠馬がまともなこと言ってくれました！！  
確かにここに居るみんなは、検査のたび注意の嵐だからなあ  
ぼくはもちろん注意されないけどね？

「ひろしは注意されてないだろ？」

「注意するような目立つとこないからでしょ？」

淳・・・天然に酷いこと言わないでくれよ・・・

結構・・・かなり・・・傷つくんで・・・淳の言葉傷つくんで・・・

「それは言えるな」

「言えるとか言わないで！？」

健太トドメ刺すのどんだけ好きなんだ！？

「はっろー^^風紀検査するよん」

「旭、何でそんなテンションなんだ？」

「んー・・・なんとなく？」

旭はなんとなくでテンション変わりすぎだろ？

「風紀検査しなくてもいいよね」

「ってか、もともとする気ないでしょ？」

「もち」

旭いつつも検査してないもんなあ・・・ちゃんとしろよ・・・  
応委員でしょ！？

「橘君。ちゃんとして下さい。風紀委員がそれでどうするんですか？」

「だって、めんどいし」

「いい加減にして下さい。男子も私がやるので、橘君はトイレにでも引きこもってって下さい。」

それは、淳でしょ？

「それは、淳だろ？」

「そうだそうだ！俺を淳みたいな変態と一緒にすんな」

「旭酷い！！うわーん！！」

ばたん （トイレの閉まる音）

「あーあ、旭ダメだろ？飯にも授業中だぞ？飯にも」

健太にそんな真面目な感覚あったの！？

「いいだろ？別に減るもんじゃないし！」

「いや減るだろ？」

「どーでもいいじゃん」

なんて軽い。

「ふう、めんどい人が1人減ったわね……」

夏木が怖いこと言ってるんですけど!？  
ってか、計算ずく!？

「では、及川君から……」

「なんで俺!？」

出席番号順だもん

「出席番号順だからだろ？」

「健太、出席なんて俺はいらないぞ？」

「関係ねえよ。」

出席がいらないってなんだよ!？

「めんどくさいんで、全部×にします。」

「ちよつと待てよ!？」

「何か？」

「全部×ってなんだよ」「どう見てもすべて×でしょう?いちやもん吐けるんでしたら、朝礼で風紀の発表して貰ってかまいませんが?」  
「勘弁してください。」

めちゃくちや夏木に圧倒されてるじゃん  
バナナの弱点突いてくるなあ

「次は、河東君」

「ヤダ つかあ、俺よりナルのがヤバイでしょ？俺わ服装別にふつーでしょ？」

「そだそだ ナルからやってよ！本来、俺が男子担当なんだから文句はないでしょ」

「分かりました．．．では、鳴海君」

パイナップルと旭うまいことやったなあ．．．  
コンビネーション抜群じゃないか？バナナより．．．

「なんだい？夏木麗子。僕に愛の告白かい？照れるじゃな」黙れ。  
刺すぞ。」

「はい．．．」

夏木の迫力にビビッてる糞ナル。ざまーみる

「鳴海？何だ？その服装は？えッ？ふざけてんのか？」

「いや．．．王子意識的な感じに．．．」目が腐るから止めろや」

「はい．．．」

「次から体操服で学校に来い。」

「え！？それは．．．」なんだ？文句あるのか？鳴海貴坐紀の分際で。全世界の鳴海さんに謝れ」

「すいません．．．」そんな謝り方でめえの罪がなくなるとでも思ってるのか？土下座しろや」

しばらくお待ち下さい。

糞ナルの描写するのも恐ろしい土下座が終わりました。  
なんて楽しい

「それとその髪の毛なんだ？ギャグか？笑えねえぞ？こら」

「いや。これも王子的な・・・」「外まきキモロン毛のどこがだ？鏡見たことあるか？」

「鏡は毎日飽きるほど見てるよ！この僕の美しい顔を「潰れた顔見て楽しいか？」

「え？・・・いや・・・その「坊主にしてこいや。それから黒にしろ」

「ぼ、坊主！？それは・・・」「醜い顔と中身も少しはマシになるんじゃないか？」

「な、夏木麗子！？「きやすく呼ぶんじゃねえ。名前が腐るだろ？」

「キアラが変わっているんじゃないかい？」

「てめえがム力つくこと言うからだろ？沈めるぞ？」

「お、落ち着きたまえ！！」

「てめえの言うこと聞くと思ってたのか？耳が腐る」

「酷いじゃないか！！」

「てめえに人権はねえよ。存在価値もねえよ。何もねえよ。消えたほうがまだマシだろ？」

キンコーンカーンコーン

あッ！

風紀検査終わりじゃん。ほとんど糞ナルに時間かけてるじゃん。

糞ナルが余計なこと言うから。自業自得だな

今回もみんなは、見物だけで検査逃れたしね。

まさか風紀検査ずっとこれで行く気？

おまけ

健太「ひろし何か変じゃなかったか？」

バナナ「いつも普通で変だろ？」

健太「そういう意味じゃねえよ！！」

悠馬「確かに・・・あんま喋らなかったなあ」

健太「喋らない方が良いけどな」

パイナ「分かった！ベンピだったんだよ」

一同「ああー！！」

淳「みんな俺のこと忘れてる？」

ドンマイ

### 第39話風紀検査にご用心？（後書き）

風紀検査やっちゃいました！

ひろしの元気がないのは・・・おそらくお母さんの過去を聞いた後だからだと思います！！

意外とそういう気にする子ですからね（笑）

ナルイジルのもなかなか

次回番外です！



#### 第40話自然学校！班決めの行方？

「みんな席に着け！」

のぶつちの声で、クラスのみんなは一斉に席に着いた。  
なんて団結力！！ではないか……

「えー……じゃあ、今から5月22～28日にある5泊6日の宿  
泊体験自然学校の班を作って貰う」

イエーイ

と言うみんなの声……29人の声が揃うとうるさいなあ  
でも、自然学校楽しみだなあ

「ひろし、何キモい顔してんだよ？」

「いきなりキモイ顔って何！？」

健太にいきなり打撃をくらわせれました。  
なんて、酷い！！

「ってか、自然学校の班どうすんだよ！？」

「てきとーに作ればいいじゃん」

てきとーかよ！？

まあ、適当でもいいけどさ……

「はいはい！！健太と一緒に班希望するー！！」

「嫌だ！！絶対に嫌だ。何されるか分かったもんじゃねえ！！」  
「酷い……そんなに嫌なのか！？」

「嫌だ」

「うわーん!!」

淳・・・またトイレに・・・出番が減るぞ？

ってか、健太も一緒の班になんの許してやったらいいのに  
そろそろ受け入れ時だろ？

「一緒の班になってやればいいじゃん」

「ふざけんな。このひろしが。」

「どついう意味だよ!？」

健太さつきから酷すぎでしょ!？

「まッ、ひろしだからそれは良いとして・・・」

「良くないよ!？」

バナナなんてこと言うんだ!？

「なあなあ、班決めゲームしねえ!？」

「なんだよ!？それ」

今話しかけてきたのは、井高<sup>いたか</sup> 英助<sup>えいすけ</sup>って言う、クラスメート。

ソースLOVE&ゲームLOVE!

ゲームって言っても、テレビゲームじゃなくて、体を張るゲームだ  
ったりとか、今みたいに班決めゲームみたいなことが好き。

変なゲームの発端は大抵ソース!!

ソースは渾名です!!

「誰と誰が同じ班になればおもしろいか考えて、そいつとそいつを一  
緒の班にすんの!!」

「それおもしろいかも」

「だろ？パイナは話分かるなあ！！健と違って」

「悪かったな！！」

ソースは名前を呼ぶのがめんどいって言って、省略して呼ぶ。

「ひろもおもろそうだと思うよなー？」

「んー・・・まあ、良いんじゃない？」

「じゃッ、決まり！おい、マヨ話聞いてたか？」

「ん？おお・・・アレだろ？班決めをする時は・・・」

ここまでは、当てる・・・

「ハンペンを食べながら良いんんなあだろ？」

「違うわー！！」

「あ？んー、じゃあ・・・おでんその物か？ソースとマヨネーズを付けて食うんだろ？それともあれか？班長は真面目な奴が・・・」  
もういいもついい」

こいつは、うちだ内田 ともはる友春。マヨネーズLOVEな奴で、ソースと合わせて、ソースと言うコンビ名？だ。

人の話をまったく聞かない！！こんな風に話を勝手に作る。  
黙っていれば、男らしい奴である。

「んじゃ、まずは・・・話の分からない健が誰と一緒にだとおもっている？手上げて答えるよー！！」

「何で俺からなんだよ！？」

「細かいこといちいち五月蠅いんだよ。」

ソースはゲームの邪魔をされると不機嫌になる。

健太、健太は1番って言う運命なんだよ？

「はい！バナ」

「淳と一緒にいいんじゃない？」

「ふざけんじゃないやねえ。バナナ、お前沈められたいのか？おい」

「えっ・・・いや・・・」

めちゃくちゃビッツてんじゃない！

でも、健太と淳を一緒にの班かぁ・・・それは・・・

「はい、ひろ！」

「健太と淳は離れた方が良さそう！！」

「おお！ひろしでも、たまには良いこと言うんだな！」

「だって、離れた方が健太も淳の有難みが分かって、淳の素晴らしい恋も実るかもだし！それに「おい、ごろ。ちよつとでもまともだと思つた俺が馬鹿だったよ。」

「それ良い！！」

「よくねえよ！？ソースてめえ！」

「え？やっぱり淳と一緒にの方が良いの？」

「ひろし・・・いい加減にしとけよ？」

じゃあ、どっちだよ？

よく分からんなぁ・・・

「健、だりいな・・・めんどくせえ・・・後は、真面目組に任せ  
る！コナン、悠、よろしく」

「「結局そうなるんだ・・・」」

うんざりしてる様子のコナン君と悠馬・・・  
そつだらうなあ・・・ソースすぐに飽きて、いつも2人に後任せる

もんなあ・・・

責任感0

「じゃあ、とりあえず女子は、好きなもん同士で組んで良いよ！男子はこのままで決めなきゃ、ソースが怒るから・・・」

かなりうんざりしている、悠馬・・・

「男子はこのままで、手早く決めようか？」

「そうだな。男子は15人だから・・・3人1組で、基本希望も入れて・・・」

さすが真面目コンビ！！

スイスイ話が進むなあゝ

10分後

「じゃあ、みんなこれで良いですか？」

はーいと言うみんなの声。

結局、コナン君と悠馬がどんどん進めて行つて、予想以上に速く終わった。さすがー！

ソースはと言うと・・・マヨネーズ味とソース味のポテチにM.Y.ソース&マヨネーズを付けて食べていた。おいおい

校則違反だぞ？のぶっち、まったく注意しないし・・・

ちなみに班は・・・ぼくは、淳と番と一緒に！女子はまたの機会に紹介するらしい。作者の都合で・・・

健太は、パイナップルと糞ナルと一緒に！

バナナは、飛鳥と旭と一緒に！バナナップルは離れた！

コナン君は、悠馬と大地だいちと一緒に！大地だいちって言うのは、湯舟ゆふね、大地、

コナン君と悠馬に続いて成績が良い。学校中の人のデータを取っている。眼鏡は当然かけている。おだてに弱く、おだてるとデータを教えてくれる。基本的にクールな奴。

ソーズは一緒に！後1人は・・・学校をサボってる奴・・・要は、不登校！

まッ！こんな感じです！！

ぼくの班の女子は・・・淳が嫌いそうなタイプが多い・・・

おまけ

ひろし「淳？班決まったよ？」

淳「ええ！？誰と一緒に？健太は？」

ひろし「淳は、ぼくと番と一緒に。健太はパイナップルと糞ナルと一緒に！」

淳「なんで・・・？健太と一緒にじゃないの・・・？糞ナルなんて死にまえ！！」

ひろし「もう死んでるから。淳、よく聞いてよ？健太と離れたら、健太も淳の有難みが分かるって！！それに、部屋も別々だから、夜這いかけれるんだよ！？素晴らしいでしょ？」

淳「おお～～！！めちゃくちゃ良いじゃん！最高！！さすがひろし！こういうことは頼りなる！！」

ひろし「いやあ～～！！もつと褒めて！！」

健太「なんか寒気が……」

#### 第40話自然学校！班決めの行方？（後書き）

記念すべき40話なんですけど・・・

自然学校とかあるんで、あ・え・て番外はなしにしました！！あ・え・て！ですからね

まあ、またの機会に番外しようと思ってるんで！  
少々お待ちを^^



## 第41話ピーピー・・・データハイリマス。

「ひろし・・・」

「え！？健太？おはよー、今日は早いね？」

ひろしです。いつものように待ち合わせ場所に行ったら珍しく、健太が速く来ていた。  
マジで珍しい。

「あのさ・・・何があつたんだ？」

「は？えつと・・・何が？」

何のこと？訳が分かんないんだけど・・・

「一昨日、風紀検査のとき、何か変だったから」

「ああゝ！」

お母さんのこと考えてたんだ！あの時は・・・

「んー・・・なんでもないよ？平気平気」

「そうか？じゃあ、いいけど・・・」

健太ってごくごくたまに良い奴だよね！！うんうん  
っていうか、よく気付いたなあゝ

ん？でも何で今頃？昨日でもよかったんじゃ・・・

「ってか、何で今言ってきたの？昨日でもよかったんじゃ・・・」

「あー、ひろしごときのために言うかどうか迷ってたんだよ」

「何だよ！？それ」

「え？ 正当な理由だろ？」  
「どこがだよ！！」

その後、淳も合流していつものように学校に向かった。

（ 5 - 2 ）

「どうしてだね！？」

あー・・・朝から胸糞悪い声がするなあ。  
つてか、菌が移るから大声出すんじゃないやねえよ。それ以前に喋るんじゃないやねえよ。

「ひろし、顔が曲がつてるぞ」

「ほっといてよ！！？」

「そうだよ。ひろしは、元々そんな顔でしょ？」

「淳・・・」

「それもそうだな」

「そうじゃない！！」

まったく！この2人は！！

息が合ってるなあ、やっぱり結ばれる運命にあるんだよ！！うん

「ひろし君、健太君、淳君！良いところに来てくれた！！」

しるか糞野郎。

近寄るんじゃないやねえ！糞ナルが

「ぎろし、顔がピカソだぞ」

「ぎろしって何だよ！？しかもピカソ！？」

「健太って、ピカソ知ってたんだあ！」

「知らん。」

おいおい。

有名な絵だよ？

「聞いてくれたまえ！実はだね・・・この学校で僕が1番モテてるし、美形だと言ったら・・・みんなが批判してくるんだ！！おかしいとは思わないかね！？思うだろう！そうだろう！」

キモ。

「キモナル。」（ボソッ）

淳がボソッと良いこと言ってくれました

「つつか、お前モテてねえだろ？批判が普通だろ？」

ナイス健太！！

「なんてことをお！！ひろし君はおかしいと思うだろう？」

「うん。お前の存在が」

「ひどいじゃないかあ！！」

近づくなクズが。

刺すぞ？

「ってかさ、大地に聞けば良いんじゃない？大地なら、データ取ってるし。1番確かな情報じゃないか？」

さすが悠馬！もつともなこと言ってくれます！！  
大地なら、間違いはないからね！

「それもそうじゃないか！！ありがとう、浜中君！僕の美貌証明に協力してくれて！！」

「うん」（黒笑）

悠馬GOOD！！

良いよ良いよ！黒笑い若干怖いけど・・・めちゃくちゃにこやかなだけに・・・

「湯舟君！」「五月蠅い。」

いきなりキマシター！！！行け行け、大地！！

「えつと・・・その、「速く用件を言え。」

「その・・・データ教えて貰えたらなんて・・・」

「お前ごときにか？」

「え？その・・・はい」

「俺の素晴らしいデータをお前ごときにか？」

「・・・」

「ゴミより価値のないお前ごときにか？蚊より存在意義のないお前ごときにか？」

「いやっほー！！」

大地最高！もつと言っていいよ。どんどんやつちゃってえ

「大地、大地の素晴らしいデータをこいつごときに言う必要は毛頭ないけど、大地の凄すぎるデータはみんな聞きたいと思う。天才的を

超えてしまったほどのデータを」

コナン君が褒めちぎっております。

データを言わせる気みたいだなあ・・・大地はおだてに弱いから

「そうか？俺のデータがそんなに聞きたいのか。天才を超えた？そんな本当のこと言われても困るな・・・そんなに言うんなら、聞かせてやろう。」

さすがコナン君？

大地もクールな割りに、乗りやすいなあ・・・そこが良いところ？  
なのかなあ

「ほら、ナル。聞かせてくれるって。有難く聞きなよ？」（黒笑2）

コナン君も計算ずみの様です

なんて楽しい！黒笑いから、悠馬と同じ臭いがします。嗅いでるわけじゃないよ？

「真面目コンビ怖えな。」

「だね・・・」

健太と淳でも、怖い様です。そりゃそうだ！！

「ありがとう！！でわ、さっそく聞かせて貰おう！」

「何をか言え。」

「あ・・・はい。この学校で・・・男子は誰が1番モテるかとか・・・美形は誰かとか？」

「ちっ・・・分かった。」

今、舌打ちしたよね？こういうの嫌いだもんなあ。大地

「1番モテてるのは・・・ひろしの弟だな。鈴木ハルキ、3-2  
顔ランク、上の中。この学校ではダントツだな。特に上級生に人  
気。同級生でハルキが嫌いという女子は聞いたことがない。去年の  
バレンタインチョコの数・・・約80。」

2位は、森谷和志、5-3 顔ランク、上の下ちよい下。落ち着い  
た雰囲気の人気。本を読んでいる姿に定評がある。さりげないフオ  
ローから下級生にも人気。同級生の女子には、遠巻きに見ていた  
男子とされている。去年のバレンタインチョコ・・・約53。

3位、橘旭、番歩夢、5-2 顔ランク、中の上。まったく正反対の  
2人が3位。旭は、親しみやすい性格と可愛い顔が人気。番は、さ  
わやかな風貌と正義感の強さからか、頼りがいのある男子とされて  
いる。バレンタインチョコ、旭・・・24。番・・・18。」

おお！

やっぱ、ハルキが1位か！！兄として嬉しいかぎりだよ！うん  
和志は、まあ順当だなあ。旭と番かあ。ってか、番凄いな！？確  
かにさわやか君だけどさ！

（次回糞ナルの反応はいかに！？）

急に終わり！？しめるの作者！？

#### 第41話ピーピー・・・データハイリマス。（後書き）

大地のデータ登場でございます。

これから、なんかめんどいことに発展していきます^^

ナルは、かなあ~~~~り！苛めるんで

ってか、この頃出すぎ・・・だんだん出番減るから良いけど

## 第42話お遊び決定？

「なんてことだ……」

ども。ひろしです。

糞ナルがワナワナと震えてそんなことを言っております。  
ってか、当然の結果だろ？

「そんなデータあてになるわけないのだよ!!」

あッ！馬鹿!!

そんなこと言ったら……

「あ？てめえ……今なんつった？」

「え？その……」なんつったって聞いてんだよ。」

大地……キレてる。

糞ナルなんてこと言うんだよ!!大地にそういうことは禁句だろー  
が!!ほんとクズだな。

みんな、すでに避難してるし……

キレた大地は、番よりヤバイからなあ……誰も手が付けられない  
よ……

「俺のデータがあてにならないだと？上等だよ。おもてでろ。」

「え？その、ちよつと……」

「俺の天才を超えて、またさらに天才を超えたデータを否定したか  
らには覚悟出来てんだろうな？クズが」

「ちよ!!痛いです!!」



大地が糞ナルの髪をわしづかんで廊下に引きずって行きました。

「あー、こんな奴がクズなんて、クズに失礼だな。」

「そ、そこまで・・・イタ！」

大地が糞ナルを蹴ってます。

「このゴミクズが！ゴミクズに失礼だな。」

「・・・」

「糞野郎が！！糞野郎に失礼だな。つてか、お前なんかのせいで、名を出されるつてのがそもそも失礼すぎるよな。死んで詫びろよ。」

「ちょー！」

「あ？なんだ？お前ごときに存在が許されなくても思ってるのか？この鳴海貴坐紀が。鳴海貴坐紀つてのがこの世で1番最低最悪な言葉だな。」

全宇宙の鳴海さんと貴坐紀さんに詫びる。」

「すい・・・ませ・・・で・・・た。」

「そんなもんでお前の罪がなくなるわけじゃねえな。やっぱ、息を引き取って詫びろ。」

大地は、蹴りながらこんな言葉を浴びせてます。

やっぱ、1番キツイんじゃない・・・

「ほら。とつとと落ちろよ。」

うわわ！！

マジで、3階の窓から落とそうとしてる！危ない危ない！！もう半分体窓の外に出てるし！！

犯罪だよ！？大地！大地がこんな奴のために逮捕される必要なんてないんだよ！？

「大地！それは、犯罪だぞ？こんな奴のために捕まるのか？」

「そうだ！こんなののために！！」

真面目コンビが止めてくれました！！大地の手を2人掛りで押さえつけてます！

「だから何だ？こいつがこの世から消え去ると思えば、捕まるのなんて本望だな。」

ダメえ！！！！

マジで落ちるって！大地は将来有望なんだから！！

「落ち着け大地！！」

「とにかく手を離せて！」

健太と淳も加わって止めようとしてるけど・・・4人でも大地の手は止まらない！！  
どんだけえゝ

「健太と淳まで、なんでだ？こいつは俺のデータを馬鹿にしたんだぞ？そんな奴に息をする権利があると思うのか？俺のデータを馬鹿にして、

呼吸しようなんて・・・都合が良すぎるだろ？」

ますます手に力がこもってます・・・

バナナは、腰を抜かしてます。おいおい。パイナップルは楽しそうだし・・・

番は・・・止める気なし？ってか、止められると思ってない？諦めてる？

飛鳥は・・・野菜眺めてる？

旭は・・・サボってる？

ソースは・・・新作ソースとマヨネーズを食べてる？なんかに付けるよ！！

女子は、怖くて近寄れないが大多数、楽しいからほっといてるが少人数、興味なしが少人数。

ぼくが止めるしかない？

「大地！！大地の素晴らしいデータが分かんないのは、こいつが鳴海貴坐紀だからだよ！ぼくらはみんな大地のデータの素晴らしいさは分かっているから！！分かんないのは、鳴海貴坐紀だけだから！！ねえ！みんな！！」

『うん！！』

ピタツと止まった大地の手・・・これでどう？

自分でも結構よくやったと思うんだけど・・・？

みんなもハモって言ってたし、ちなみにクラス全員ね。

「そうか。それもそうだな。思えばこんな奴に俺のデータの素晴らしいさが分かるわけねえんだよな。こんな鳴海貴坐紀に。けど、全員に認められてこそ最高のデータだと思うんだよ。だからやっぱこいつを・・・」

わぁーわぁー！！！！

ダメだって！！

「じゃさ！大地のデータが正しいってことをこの鳴海貴坐紀に思い

知らせば良いんじゃない?」

「そうか。それもそうだな。」

パツと手を離れた大地。ナイス健太!!  
でも・・・思い知らせるって・・・どうやって?

「じゃあさ 今から、ハルキ君と和志と旭と番お集めて4人のがモテてるってしょーめーすればいいんだヨ」

「それいい!! したら、こんなナルもいい加減遅い諦めつくでしよ?」

うつわ・・・淳きつつ!!

もうすでにトドメ刺されてるのに・・・さらに・・・

「ドッカーン」

「その話! 我が報道部が預かった!!」

何事ですか!?

いきなり教室の扉が開いて、3組から報道部の大塚おおつか 姪めいと柿本かきもと 美み袖ゆな奈が顔を出した・・・ってか、ドカッと入ってきた?

「預かるってなんだよ?」

「どおいうことか説明してくれないと」

健太とパイナップルがもつともなことを言ってくれましたッ!

ちなみに報道部って言うのは・・・学校の放送、新聞などなどを書いてくれたりしちゃう部なんです。

「だあかあらあ! どうせなら盛大にやった方が良いでしょう? だから

お昼からの5、6時間目を使って、全校生徒に投票して貰うのはどうかな？って思ってた！」

「バーン」

効果音を出している？のは柿本。

なるほど・・・でもそれじゃ、作者が納得しないんじゃない・・・

「それだけじゃ面白くないだろう？だから、4人には「5人だよ！僕を忘れないでくれた・・・まえ・・・」

「瀕死の状態で口挟むんじゃないやねえよ。うぜえ。」

ソース・・・ゲームの邪魔されたからって、弱ってるのを弱らせなくても

とどめ刺されまくり

「いろんなパフォーマンス的なことやって貰おうぜ！」

「それ良いわね！やるやる！」

完璧遊びになってます。

ってなわけで、ヘンテコ遊びが始まるようです・・・。

ってか、先生たちが許すの？許すだろうなあ・・・ってか、投票してそっだよ・・・

## 第42話お遊び決定？（後書き）

久々更新！！

テストとかいろいろあつたからなあ・・・

テストのせいっすよ！

テストの！！

また遊びが始まりまあゝす

まッ！

だれが1位かてきとーに予想して下さい^^

#### 第43話前哨戦？糞VS・・・

どーも。ひろしです。

なんかすつこいめんどいことになったような気がするんですが・・・？

気のせいでしょうか？

気のせいじゃねえよ！！（頭大丈夫？）

そんなこと言わなくても・・・泣くよ！？（泣けば？）

そこまで言わなくても・・・

っていうか！今、お昼の時間です。給食は・・・ぼくが作った方がおいしいです（自画自賛）

「ひろし、何ニヤついてんだよ。キモイ」

「健太のつけから酷くない！？」

「そーだよ。ひろしは元からその顔だと言っててるじゃん！」

「淳・・・フォローになってない・・・」

「フォローする気ないだろ」

ああ・・・そうですか？

そうなんですか？

そうなんですネ！？

「ってか、おかしいことになったなあ」

「でも、提案したの一応、健太なんだよね」

「そうだったっけ？」

健太記憶力がないのか？

ってか、何で嬉しそうなの！？淳は・・・

「ああ、健太と喋ってられる」

ああ。そうですか。素晴らしい理由だね

そもそも、好きな人と一緒に居られることを喜んでる所が良い！！  
恋する女の子って感じで！これには健太もノックアウトだぜ！

「キモイこと言ってんじゃねえ！！ああ、くつつくなああ！！ぴろし、助ける！！」

「何で？2人で愛を確かめあってるんでしょ？」

「てめえ……殺りたいか？」

そんな怖いこと言わなくても……こわぁいいい！

『ねえ、笹川と山田ってさ……ピーなの？』

『どーみてもピーでしょ？』

『ホモだよね』

ヒソヒソとそんな話が聞こえてきましたとき。  
ってか、見れば分かるよね 2人の関係が……

ガラッ

「ひろ兄ー」

ん！？この声は！？

我が弟のハルキでは！？ハルキだね。なんか、遊びのことかな？

「何？ご飯食べたの？」



「ん。弁当食った。ひろ兄の作ったキャラ弁プーさんの、飛鳥先輩と」

「美味しかった!?!」

「ん、美味かった 顔が」

「そっち!?!」

そっちでできたかあ……

まあ、うまかったならいいやあ (褒められることないもんな)

「よッ!ハルキ君」

「やほー、ハルキ君」

「よッ、健兄、あつ兄!」

ごあいさつ!

まともなあいさつは久しぶりに見たなあ!!新鮮な3人だ!

「どうかしたの?」

「パイナップル先輩!よく聞いてくれました。なんか変なことに巻き込まれてるんすけど、ここが発端だつて聞いたんで!」

「あー……それねえ、ケンタロスのせいだから」

「健兄のせいなのかよ!?!健兄、何やったんだ!?!非行か!?!非行少年か!?!電波少年!?!」

「違う違う!?!誤解だ!」

ギャーギャー

誤解でもないような……

3人が言い争いをしてる内に、怪しい影が近づいて……きたああああ!!

「ふっ・・・敵情視察かね？鈴木ハルキ・・・」  
「あ？」

糞ナルです。マジ消える。（ひろしに言われちゃお終いだよな）  
ああ・・・そうですよ・・・

「敵情視察って何だよ？訳わかんねえんだけど？」

「ふっ・・・そんなに僕が怖いか・・・バチエエエエ！！」

ハルキのアップercut決まったあ！！

糞ナルはその場に蹲るつずくま！！

ってか、バチエエエエって何だよ。

「な、何をするんだ！？「何も糞もねえよ。ブーメランフック食らわすぞ？」

「何を・・・「カイザーナックル持って来るぞ？コラ。丸焼きにされたいか？目覚まし時計の時間狂わすぞ？」

悪戯が可愛い！！

「何を言うんだね！？君なんか・・・君なんか・・・友達も何も居ないくせに！！」

「ピーン」・・・マジで、こんな効果音が鳴った感じで・・・  
ってか、柿本が言ったんだけど・・・これのために来たの！？周りの空気が凍りつきました。

「はあ？だから？」

ハルキはさほど気にしてない様子・・・感情を表に出さない子だ

からね……

どっちかって言うと、面白そうに言った。

「君なんか、3年には友達居ないのだろう？5年にだって、お情けで良くしてもらってるモノなのではないのかね？君みたいな人間が可哀相に思うよ！はっはっは……」ばきやあ！！

ハルキが何か言い返そうとしていたが、それをまたず、ぼくはそいつを殴った。

結構な音がして、そいつは教室の床に倒れた。

周りのクラスメートはひどく驚いた様子……そりゃそうだ！ぼくが殴ったんだから……

だけど、健太たちだけは当然だろうと言う顔をしていた。だがぼくは違う意味でそれどころじゃない！！

「うわああああ！！糞ナルに触っちまったああっああ！！＃\$%&%# \$」

ドドドドドドー……

水道に一直線！！腐る腐る腐敗すりゅー！！

痙攣が起こり始めたよ！！？

一方、教室は？

ドカ！バキヤグシャぎしゃみしバキみゆかぎゅらかつべっつー！！！！

恐ろしいことが起きていた……

飛「お前ふざけんなよ？ハルキにあんなこと言いやがって・・・ただで済むと思うなよ？」

もはや、ただで済んでへんけどな

ここからは、招き猫さんの提供でお送りします。

パ「お仕置きがひつよーだよね？^^」

健「当然 拷問するか！？拷問」

淳「水攻めがいいかもよ？」

旭「それよかさー、埋めようぜ 俺いい場所知ってるし」

大「やはり、生きる価値などなかったか。ドゲシ！」

番「ボコ！ドカバキヤ！」

悠「殺ろうか？^^」

コ「苦しめながらね？^^」

ソ「それよかさー、ロシアンルーレットにしようぜ^^」

マ「弾百発入れて、1人でな。グシャ！！」

めっちゃみんなキレてるやん

わいも、5、6発いったけど

パ「あれ？糞の顔がめっちゃ変形してるう」

バ「変だなあ、俺ら顔はやってねえよな？」

飛「腰抜けは何もしてねえだろ」

バ「こ、腰抜け！？・・・そんな・・・」

悠「先生にバレるからね^^」

健「殺つてもいいけどな」

それわいが殺りましたあ

変形するまで殴った覚えあらへんけどなあ 猫真剣奥義をちょいち  
よいつと使っただけやけど

つてか、ひろしはまだ手、洗つとんかいな！！  
気持ちに分かるけどな

「ふー．．．．．なんとか腐敗しなかったあ！！セーフセーフ！」

「ギリギリオツケーだった？」

「おわ！？つてハルキ？」

手が真つ赤になるぐらい洗ってる最中、ハルキがひよっこりと来ました！

「ひろ兄ー．．．．．なんで殴ったわけ？」

「なんとなく．．．．．」

なんか知らんが手が出た。あんな異物に．．．．．

「ひろ兄ー．．．．．」

「ええ？なんて？」

なんか言つたみたいだけど、よく聞こえなかった．．．．．なんて言つたんだろ？

「なんでもねー、つつか、石鹼が可哀相だし　ひろ兄に使われると

」

「何それ！？酷くない！？」

「誰でも思うだろ　」

「ええー！？」

#### 第43話前哨戦？糞VS・・・（後書き）

どもども^^

なんか、ひろしが良い奴だぞ！？

そんなことしてもお前の立場は上げん！！

ひろし「ええ！？ってか、そんなこと思ってないよ！？」

うつせーんだよ。生存権ない奴がでしゃばってんじゃねえ。  
出演権を剥奪すぞ？

健太「それいいな」

ひろし「ええ！？」

つつか、2人共でいつか

ひろ健「うええ！？」

健太「クズとはもっちゃまったあ！！！！」

ひろし「酷くない！？」

もういいって・・・

#### 第44話海並小イケメンコンテスト！？わん

『んつとさー、全校生徒に告ぐ！5、6時間目は海並小イケメンコンテストを開催しちゃうから、とつとと体育館に集まりやがれ！！野郎共！！』

『主催は、報道部&5・2の男子でえす』

『ババーン』

ピンポンパンポーン

ども。ひろしです。

なんか、変な放送が流れました。ソースと大塚、柿本が喋ってました。

つつか、なんて言う放送だよ！？

でも、全校生徒集まるんだろうなあ・・・ノリすぎでしょ！？

「ひろし、何情けない顔してんだよ」

「健太がぼくの悪口言わないと話進まないの！？」

「そーだよ？」

淳・・・そーですか・・・

ちよっぴり涙が出てきたよ・・・真珠の（寝言は寝て言え）

「おい！健太、淳、ひろし体育館行こうぜ！」

バナナのお誘いにぼくらは体育館に駆け足で向かった。

一応、役目があるので・・・はあ・・・（テンション上げるボケ）

in 体育館だつたりなかったり

「さあ！ 始めました！！ 海並小イケメンコンテスト！」

「まずは、エントリー者の発表だぁー！！！」

『イエーイ』

つと言う、全校生徒の声……ノリ良いー

司会は、大塚と柿本と宮寄<sup>みやざき</sup>

<sup>みやざきひづる</sup>

宮寄風香は同じクラスの女子。報道部。将来の夢は映画監督言つ子だ。

ちなみに実況は……いい！？ 作者ぁぁぁぁ！？

「作者でえー……す 今日楽しく行こうぜええ！！ 糞共！！ おらぁぁぁ！ ぶつつぶす！」

『イエーイ』

意味が分かんないよ！？

ま、まぁ……いいか……作者だし。誰にも止められないし……

「エントリー者の紹介行くぞ、ダボー！ エントリーなんばー1番

鈴木ハルキ！ 2番 森谷和志 3番 橘旭 4番 番歩夢 5番

木々（きぎ）西哉<sup>せいや</sup> 6番 三本浩太<sup>みつもとこうた</sup> そして、校長！！」

『ええー！？』

出るの！？ 校長が！？

「は、出ないけど と言った、海並小のイケメン、略してイケテ



ルメンズ みんなに集まってもらってぜえい！！作者の権限はすこいだろー！！」

出ないの！？作者悪乗りしすぎでしょ？

ってか、略し方逆でしょ！？（うつせーんだよ）

ええ！？あそこに居るのに、心の声に応答！？

「じゃッ！ここからは、司会の3人にバトンタッチしちゃう感じだぜ！バトンがなーい！！3人どーぞ！銅像どーぞ」

『イエーイ』

寒いよ……………（うつせー）

また！？……………全校生徒はノリノリだね……………

「バトンタッチしましたー！メイン司会を勤めさせて貰う5年3組大塚姪です よろお」

「どっかーん 柿本美柚奈」（ボソ）

おお！？柿本が効果音以外を喋った！？

小声だけど……………マイクだから、ほとんどの人には届いてるはず。

「司会3の5年2組宮寄風香です よろしく」

3！？3とかあるの！？

宮寄もノリノリだな……………

「じゃっ、エントリー者の6名に自己紹介をしてもらいましょう！」

「びつつぢーん」

「待ってましたあー！！」

自己紹介とかするんだあー、へえー

「ナンバー、１番　鈴木ハルキ君でえーす」

「どーん」

「男前！」

ハルキきたあああ！！ファイトだあ！（兄馬鹿）

「・・・３年２組鈴木ハルキです。」

『キヤー！キヤー！キヤーキヤーキヤー！！』

『ハルキくーん！！キヤー』

『ハルキ先輩ー！！』

すっごい怖いです。マジ怖いです。女子ってマジ怖いです。マジ怖い（分かったって、ウザイ）

「もう、いいすか？^^」

「うん、いいよ！」

営業スマイルで、大塚達に尋ねてるハルキ。めんどくさかったみたい・・・

顔顰めてたしなあ・・・五月蠅いの嫌いだもんな。っていうか、女嫌いだよな。（えっ！？）

「ナンバー２森谷君です」

「ばーん」

「よっ！」

和志か。５年の中じゃナンバー１！！校内でもナンバー２だもんな

あ。

「森谷和志。」

「……終わり……だよね？」

和志こうゆうの大嫌いだもんねえ……めちゃくちゃ不機嫌っぽい……顔には出さないけど、オーラで分かる。

超どす黒いもん。

「……えーつと……実況の作者さぁーん！バトンタッチです！」

「どーん」

「助けてください。」

作者にタッチ！？止めてくれ……

「オッケー　おまかせあれ」

任せたくねえ……

つてか、作者メガネかけてるし……

『作者、メガネかけてるー』

『あのメガネ居る？』

『いないかもー』

ピキ

ん？なんか音がしたんですが……？きのせいですか？  
きによせいであってくれ！！（きによせい？）

「おい。今言つた奴だれや？」

うわああかつかーーーーー!!マジギレ!?

「誰や貴意とるやろ！」

漢字間違つてる……

「お前らふざけんなよ!？お前らにジョニーの何が分かるんや!？おい、言つてみい！お前らにマイケルの何が分かるんやつて！」

ジョニーじゃなかったっけ？つか、あのメガネの名前ジョニー○  
「マイケル!？」

「あー……やる気なくした……もうどうでもいいじゃん。もう書かないから……なんで、ジョケル馬鹿にされてまでこんなんしなあかんの？あー、だりい。もうこの小説終わりなあー。マジだりい。」

ええ!？

## 第45話海並小イケメンコンテスト！？っー

この小説終わりなあ

終わりなあ

終わりなあなあなあ・・・

えええっえええ！？

嘘！？嘘だよな！？違うよね！？違うだよねお！？

混乱中、っていうか混乱しまくりのひろひろです エへ  
ってこんなことやってる場合じゃなああああいい！！

どうぢよ？どうしょ？どうがなんなあああああああ！！！！！！  
！？？？

「ひろしキモい 特に顔とか」

「健太！？今はそんなこと言ってる場合じゃない！」

「はあ！？ひろしの分際で俺に意見すんじゃないか！？」  
「酷くない！？ってそうじゃなくて」

それどころじゃないって！！

「健太、この小説が終わるかもなんだって！」

「はあ！？そんなことしたら俺の存在が半分になるじゃねえか！！！」

「今気付いたの！？」

「黙れや！ひろしが！！！」

「ええ！？」

淳の言葉は聞いても、ぼくの言葉は聞かないってことですね・・・  
そうですか・・・そうなんですか！？

「やべえじゃん！」

「ヤばいねえ……………」

バナップルもこの異常怪奇事態についていけないよう。

つてか、付いてける人なんていないよ！？つてか、作者自分勝手だな！？（黙れや。誰のせいや思ってたんねん。昔から自己中や言うてるやろ！ぶつとばすぞ）

酷い……………ものすごい酷い。

「ここは、俺に任せろ」

『旭！？』

みんな声がそろいました。つてか、旭なんとか出来るの！？

「じゃ、みんなは待ってて」

そう言つて、旭はダッシュで体育館を出て行った。任せたよお！！

「はあ……………マジだりい……………」

作者ヤバイ……………マジで止めそうな感じだ！！

10分後

「たっだいー」

『旭！！！！』

旭が帰ってきました！！なんとかなるのか！？なんとかなってくれ  
！！！！！！！！

「連れてきたよん」

連れてきた？誰を？作者を止めれるような人って……

「んだよ……ダリイな……」

『海月作者！？』

えー……マジでえ……？

誰かがぎぐるみ着てるとかそんなオチじゃない？ってか、そんなオチのがいいんですけど

「でけえ声出すな。沈めるぞ？」

うん。本物だね。

「ってか、なんだよ？こんなとこに連れて来やがって……こつちはこれからシャワー浴びるとこだったんだぞ！それを邪魔するとはいい度胸だなあ。おい」

うわあ……乗っけから喧嘩腰だあ……

こんなんでなんとか出来るわけないよ！！もう終わりかあ……  
思えばいろんなことがあったなあ……

招き猫さんにシバかれたり、シバかれたり、健太に暴言はかれたり、

みんなに遊ばれたり、人間として扱われなかったり、作者に生存権奪われたり……ああ……ロクなことねえ……

「とりゃあー」

「ごぼあ!!」

な、なんなんだ……い、い、いきな……り……

猫パンチが飛んできた……ぞ……ガクツ……

「諦めとう奴はぶつとばすでえ　ってか、ひろし存在なくすでえ」  
「酷い!まさかの集中攻撃!?!」

ぼくのみつて!酷すぎる!!

「ひろし?何1人で言ってるの?」  
「うわッ!マジ引く。」

淳……健太……なんていうかも……救いようないよね  
?ぼくって……

「今更やん」  
「そうですよね……ハハ……って心読んじやった!?!」

うわあ、マジでいろんな意味で今更だけど……すげえ

「心読む?頭逝ってるだろ。」

健太……酷いけど、だんだんどうでもよくなってきたよ……う  
は……



「元からだつて!」

淳・・・天然が結構心を貫くけど・・・大丈夫、まだ笑えるよ?

「とりあえず生まれ変わろうか」

旭・・・何気1番酷いのは・・・いつも旭だね?作者も認める1番の不思議キャラ・・・

「病院逝くか?」

大地・・・冷静に言わないでくれ・・・行くの字・・・完璧違う・・・

「頭わつたら、せいじょーになるんじゃない?」

パイナップル・・・真顔で?

「ネギはめ込まないとな!」

バナナ・・・ネギじゃなくて・・・ネジ。

「頑張れ」

飛鳥・・・応援・・・せんきゅー

「ひろし、本当に頭大丈夫か?」

コナン君・・・心配してくれてありがとう・・・

「精神科って今開いてるっけ？」

悠馬・・・調べようとしてくれて、ありがとう・・・

「ソース持つてこい！」

ソース・・・なんか、ありがとう・・・

「マヨネーズだろ？ってか、ひろしなんで廃人みたいなんだ？」

マヨネーズ・・・状況説明・・・グット！

「俺が殴ろうか？」

番・・・直そうとしてくれて、ありがとう・・・

みんな・・・支えてくれてありがとう。

友達、プライスレス

「用ねえんだったら呼んでじゃねえよ！マジで錘持おもいたせて沈めるぞ？」  
「ごらあ！！！」

「マジだりい。」

「ひろしの存在いらん」

第45話海並小イケメンコンテスト！？っー（後書き）

いやぁ・・・マジだりい。

つつか、ひろしとか誰だよ

えーと・・・受験勉強で更新が滞りますが、ご了承下さい。  
ってか、ご了承しなくて落ちたらめっちゃヤバイですから  
落ちないですけど 天才だし！

## 第46話海並小イケメンコンテスト！？すりー

「ひろし死んだし」

死んでないッ！！ギリギリ生きてるひろピーです

って、そうじゃなくて・・・健太酷いでしょ！？第一声がそれって！

「本当だ！」

本当じゃない！！淳は笑顔で嘘を振りまくんじゃない！

「さくらちゃん、ハルキくん、ひろし死んでるよー！！」

死んでない！！

ってか、旭もエントリー者だからね！？こんなところで・・・ねえ！？駄目だからね！？

っていうか、何ご遺族の方呼んでるのかな！？

「元から死んでる。顔とか性格とか」

「そーだよ？何をいまさら言ってるのかな？」

・・・ハルキ、さくら、そんな風に思ってたのか・・・

「ってか、生まれたことが死も当然だろ？」

「だよーね！まあ、線香花火ぐらいなら仏壇の前でやってあげてもいいけど！」

しくしくしく・・・

心の溝はそう簡単に埋まらないんだからな！みてるよお・・・

「やつぱ、存在が駄目だったんだな」

そんな清々しい顔で言ってんじゃねえ！健太が！

そんなことになったら、世界のほとんどの人の存在が無意味だからね！？ぼくの存在がどうこうでアレだったらもう結構な人数の人が死ねば良いってことだからね！？（うぬぼれんな。その口裂いたるか？）

素晴らしい論理が語れなくなるでしょ？

「わっはっはっは まあ、ひろし気を落とすな！生まれたことが不運やったって思うしかないでえ 根本の存在が牛乳拭いた雑巾の絞りカスより価値がないからなあ」

「どういう意味ですか！？ソレ、少なくとも牛乳の搾りカスよりはあるでしょ！？」

まったくあの臭いのどことが良くて結婚したんだ！！

「おい・・・起きたけど・・・頭ヤバイんじゃないか？」

「牛乳とか言ってる・・・」

「絞りカスって・・・自分のことか？」

「ひろしはやつぱ、頭蓋骨割って、手術させないほーこーで考えたほウがいいかも！」

健太、淳、旭、パイナップル・・・これもすべて招き猫さんの所為だああ！！

もう嫌だもう嫌だ！

ハルキとさくらは笑いながら見てるだけだし！うわーん！！

「人の所為にスナー」

ドゴン！！

「ぐおわ！ぐわたああつあああ！！」

「うわあ、変な声やなあ」

「誰の所為じゃ・・・ぐぼ！はう！ミッシシッピ川！黄河！メソポタミ！！」

「年上には敬語忘れたらいかんで 教育的指導つちゅうやつや！それにしても変態やわあ・・・ほんま引く」

招き猫さんの存在は変じゃないのか！？招き猫が動いて喋って、殴って自由な生き方してるんだよ！？  
フリーダムだよ！？これは変じゃないの！？

「ぐばあ！！」

「誰が変やねん？ゆうてみいや。ああ？てめえの存在ほど無意味でつまらんで！市場に出したら売れんもんもあらへんやろ？わいはな、市場で1万円で売れたわ！！招き猫に1万やぞ？これがどんっだけごっついことか分かるんか！？わからへんやろなー、お前みたいな人間には！そんな人間がどの面下げて言うてきよんねん。醜い面ぶらさげやがって・・・不愉快じゃほけえ！！！！」

ひ、酷い・・・酷すぎる・・・

「おいごら！お前らあ！！」

おお！？海月作者だ・・・まだ心の傷が癒えません・・・

「あんなー、こんな糞きたねえとこに呼んどいてなんだ？この扱いは。全員ぶつ殺すぞ？あー・・・殺す価値もねえか。つか、てめえら誰だよ！ほとんどの奴の顔知らんぞ！呼びに来た奴も全然知らん奴やしよ。くたばれ！愚民どもが！！」

うわぁ・・・超キレテル・・・  
しかも愚民！？酷い言い草だ・・・仮にもねえ？

「あぁつと・・・マイクテスト実施中生徒募集中。締め切りましたー」

締め切りはや！？じゃなくて・・・何をいつとるんだ！？  
こつちの作者は！

「えっと・・・優勝者決まりましたー・・・ええーとか騒いだ奴から存在消してくから。そこんとこよろしくー。」

うおい！？この状況で？つか、なんもしてないじゃん！！  
存在消してくって！無茶苦茶にもほどがある！！（存在消されたい？）

うおい！！（喜んでやってあげる）  
ごめんなさい。

「優勝者は・・・うちの相棒のジョニー！！」

え・・・え・・・えええっえええっええええええええええ！？（全員の心の声）

「ジョニーおめでとう!!」

「さすがジョニーや!」

作者2人だけで納得?感激?しないで!!

全然関係ないじゃん!意味なかったじゃん!!つつか、紹介すらしてない人居るじゃん!!

「ほんま良かったなあ ジョニー!苦労が実って……」

もう1人?居ました。



#### 第46話海並小イケメンコンテスト！？すりー（後書き）

ナル「作者！僕が全然出てないじゃないかい！！」

あッ！忘れとつた・・・

ナル「・・・そんなこの僕を忘れるなんて・・・あるわけないじゃないですかい？」

めっちゃ動揺してるやん  
冷や汗すごいで 超愉快やねんけど・・・いや、不愉快やわ。お前  
が存在しとうことが

ナル「酷いじゃないかい！」

言い忘れとつたけど、お前もう出演権なくなったから

ナル「ええ強制終了

もう糞を見ることはないのご安心下さい^^

## 第47話バレンタインの過ごし方

どーも。作者のみなつです^^

受験のため更新駄目駄目ですんませー！ん！・・・ごめんなさい。

天才だから問題ないと思うんですけどねえ^^うち天才！

あッ！

何で更新しているのかと言いますと・・・私立の方が終わりましたのです！まだ公立あるんですけど・・・とりあえず一息ついてるんすよッ！

良いことでしょ？

まあ、この辺にして・・・本編の方にどー！ー！ー！ー！ー！ー！ぞ  
！！！！

2月14日 セント・バレンタインデー

女の子は色めき始め、きゃぴきゃぴとぶっちゃけウザイ。

雄の方はチョコ大好きとかアピってみたり、急に親切にしてみたりする。これまたウザイ。（あくまで作者の意見）

でまあ・・・鈴木家のみなさんはどうでしょーか？

長男 苓支の場合

苓支「何、これ？」

部活の朝練を終え、教室に入ると……机に怪しい物体が山ほど置かれていた。

つてか、これは本当に俺の机なのか？定かじゃねえな。

虹<sup>こう</sup>「苓支の友達「うわッ！めっちゃモテモテやん」

苓支「モテモテ？餅の仲間か？」

北斗<sup>ほくと</sup>「友達「テキサス州か？」

虹「苓支も北斗も訳分からんねん！！」

苓支「美味しいもののどこが分からないんだ？頭大丈夫か？上腕二頭筋大丈夫か？」

虹「なんつでやねん！！確かにさっきぶつけたけども！ゴールに！」

北斗「コール印」

苓支「カール」

虹「いろいろちゃうねん！！」

他、靴箱やロッカー、家のポスト、ポケットの中、頭の中、腹の中、などなどに入っていたようです。計88個。

長女 杏里の場合

えーと……何コレ？ってチヨコレートやる！！今の突っ込みの角度どかなあ？完璧かなあ？ピー地区パー地区円高不況かなあ？今日、チヨコの日かあ！！超テンション上がるわいす！アイス！！冷たいわ！！当たり前やるお

後輩1「杏里先輩！」

杏里「あい？りやりや！1年生じゃん ここ3年の教室だよ？迷ったの？」

後輩1「え？あ……いえ……あのコレ貰って下さい！！」

杏里「ほえ！？これってチヨコだよねえ？いいの！？戦時中だったらすごいことだよ！？超高価的だよ！？」

後輩「え・・・？全然いいです・・・」

杏里「ありがと」

その後ももごつつい数の女どもが女の杏里のところに来ましたとさ。  
杏里の渡した人については・・・ふふふふ 計36個

三男 ハルキの場合

雌ドモ「キヤーキヤー！！ハルキクーん！！」「ハルキ先輩！！」  
「キヤーキヤー！！」

うぜえ。猿みてえなんだけど。マジうつとおしい。気持ちが悪い。  
吐きそうそう。なんだそうそう的な？

つてか、尻軽女しか俺んとこ来ねえ！女運ねえなあ・・・  
マジ気持ち悪い・・・胃液が来たぞ！？慰謝料払えやツ！！精神的苦痛だぞ。コレは

雄ドモ「あんな顔だけの奴のどこがいいんだ！」「バレンタインな  
んか死ね！！」

陰険・・・俺の居場所はアンパンマンしかねえ！！いいんだよ。  
愛と勇気だけが友達でさあ！！いけね。俺はいつもクールなハル  
キちゃんだからな。うんうん  
つてか、アンパンマンチヨコが1番うめえんだよ！！ごらあ！！

言いたいこと言えた感じで良かった良かった^^ 計91個

次女 さくらの場合

さくら「うわぁ！今年もすっごい数だねえ」

マネージャーさんとかに声をかける。毎年のことながら事務所には山積みになったチョコレートや小物、雑貨などなど。本当に山のごとしだから怖いんだよねえ^^

愉快だけど でも、こんなの毎年家でも見てるからなあ・・・つままない・・・もうちよつとなんかやれや みたいな？^^  
つてか、私としては核兵器のほーが嬉しいんだけどなあ。アメリカとかがやってる奴。まあ、こないだ兵器の図面と資料翻訳したからいいんだけどさ ほおんと簡単になんでも手に入る世の中だよねえ^^

何気1番すげえ 計368個

三女 ミリアの場合

ど、どーしよ・・・でもでも、怖かったからしかたないよね・・・  
・？

ていうかていうか！私何したのかな？全然覚えてない・・・というか、分かんない。この世界の成り立ち。ってみんな分かってないよ  
お！！

ほんとどうしたんだろ・・・この 人間のような生物の屍。

反応がないただの屍のようだ。 計22個（屍の数）

四女&四男 凜南&凜十

凜南「チョコー、ばらばらー」

凜十「チョコー、ぶちやぶちやー」

凜南「チョコー、うりゃー」

凜十「チョコー、レインボー」

凜南&凜十「チョコー、死んだー」

粉々のため計算できませえん！！レインボーブリッジ閉鎖出来ませえん！！

駿二&亜沙羽の場合

亜沙羽「はい あーん」

駿二「あーん めっちゃうめえええええ！！亜沙羽の作るものは戦時中の卵よりうまいよ」

亜沙羽「駿二さんったら」

駿二「あははっはははははは」

亜沙羽「うふふふふふふ」

背景 ピンクのハート

お菓子 亜沙羽特製 チョコケーキ（注）青紫の煙が出ています。普通じゃない胃袋、またはかなりの愛がないと食べられません。食べたら即死。

つとまあ、こんな感じでしたねえ！

みんなそれぞれいろいろあるんだなあ……うんう「作者ああ！」

五月蠅い。

ひろし「一蹴！？てか、ぼくを忘れないでよ！」

久しぶりやから。

ひろし「忘れちゃったのかあ、しょうがないなあ！つてならないよ！？」

黙れ。存在忘れられる存在のお前の存在が悪い。存在がひろし「存在多くない!？」

ひろしはふつーの日ですうー。　　終わり

「おい  
い  
い  
い  
い  
い  
い  
い  
！  
！」

## 第47話バレンタインの過ごし方（後書き）

ひさぶーの更新です^^

でもまあ・・・また更新駄目駄目になるんすけどね

受験が終わったためっちゃ書きまくるんで！付いて来てくれるかな  
！？いいともぁー！

っということで、なんとか読んでやって下さい^^では



## 第48話虫大好き少年の仕打ち

「健太ー、ひろしー、淳ーあつそびまつしょー」

・・・こんにちは。ひろしです。

えーと・・・幼稚園児かッ！って突っ込みたくなる感じがして  
いますが・・・

「ファール、ガキか？お前は」

「永遠の子供さッ」

親指をグツと突き出して言うファールこと“むしあみ 蟲網 やすし 靖司”

5年3組の友達です。何故ファールなのかと言つと・・・虫が大  
好きで、超が100つくぐらい詳しいから。

理科のしかも生物と植物のとこだけ成績トップクラス！他は・・・  
聞かないであげて下さい。

「ピータパンかー!!」

淳が珍しく突っ込みました。でも、ちゃんと言えてないよ！ピータ  
ーパンだよ!？

「遊ぶつて・・・また虫取り？」

こないだも夜中の3時に虫取りに付き合わされたばかりとしては、い  
やなんです・・・

虫のためなら人の迷惑なんて頭にないです。はい

「虫取り以外になにがあるのさ 虫こそ世界のロマン！虫は世界を

救うんだよ!!」

「どんだけ虫ラブだよ!」

「ラブじゃない!愛してるんだ!!ラブなんて軽いもんと一緒にするなッ!!俺はなあ、虫が居れば生きていける!」

「キモいぞ!!」

「黙れ!お前の存在よりマシじゃ!」

「そういうこと言われるのはひろしの役目なんだよ!!」

「ぼく!?!」

何故にそんなに酷いことを言うんだ!?

泣きそうだよ!?!涙腺耐えて!!頑張って!!

「そうか、ゴメンゴメン!ひろしを貶さないとな ひろし、醜いぞ

」

「いきなり!?!つてかマジ酷いよ!?!」

「どんとまいんど」

また親指をグッと立て、かなり清清しそうな顔で言うファール。  
いやいやいや、かなり酷いからね?心から血が出てるよ?いや、ほんとに

「つてわけだからさ、行こうぜ 虫のよく出る雑木林があるんだよ  
お!」

「いやいや、いつものところでしょ?」

「そうとも言っような気がしないこともないけど、気にするなつて  
!」

いやいやいや、訳わかんなくなってきたから!

淳の言うことが正しいからね!?!いつものところでしょ?

つてか、全然まったく気が乗らないんだけど・・・

「ひろし、羽もぎ取られたひろしみたいになってるぞ」  
「ファール、それどういう意味!？」

ひろしにひろしってなんだあ!？例えになってないじゃん!

「ひろしごときに虫の名前を出すなんて駄目も駄目全然駄目だ!!  
虫様に失礼極まりないだろ!!ひろしみたいな奴の例えにひろしよ  
り何千億倍、何千兆倍も価値があつて、素晴らしい虫様を使つてた  
まるか!調子に乗るな!!図に乗るな!!」

「いやいや・・・別に乗ってないよ?  
何にも・・・馬にも乗ってないし・・・つか、乗馬はもうやって  
ないし

ていうか・・・酷すぎない?  
そう思いませんか?奥さん!(誰だよ)

「ひろし、潰された蟋蟀こむぎみたいな顔になってるぞ」

「健太、それどういう意味!？」

「そうそう、ひろしは元からこんな顔だつて!」

「淳が1番酷いから!!」

「すげー、傷ついてきたんですけど・・・なんでこんな扱いなんだ  
!？」

主人公だよね!？ぼくつて(招き猫さんやつて)  
出てないじゃん!(てめえ・・・ぶつ殺されてえのか?)  
鎌みたいなの持つて、睨まないで!!めっちゃ怖いからあ!

「ばっかもーーーーーん!!」

！？

いきなりファールが大声を出しました。道行く人の視線が痛いです。ヒソヒソなんか言われてるんですけど……

違いますよ。ぼくは関係ないですよ、他人です。他人

「こんな世の中に必要ない人間“鈴木ひろし”みたいな物の例えにミラクルランドを使うんじゃない！ミラクルランドは俺のペットだぞ！ソレをこんな……薄汚れた雑巾を拭くことしか存在意義のないひろしに……失礼の極みだ！ミラクルランドが自殺したらどうするんだ！？」

グサッグサッグサッ

（ひろしに刃の様な物が刺さっている。抜きますか？）

はい・いいえ

（健太と淳ははいを選んだ。）

「おい、ひろし！しっかりしろよ」ブチ

「大丈夫かー？」ザス

「痛くないかー」ボキ

「醜いぞー？」ガゴ

「がんば」ザスザス

「息するなー？」メキメキ

（ひろしは描写出来ないような状態になった。助けますか？）

ダライ・良いじゃん、このまんまで・もつと殺る

（健太と淳とファールはダライを選んだ。）

「もう飽きたよなー？」

「ぶっちゃけ、こんなの相手にしてもなー？」

「いろんなもんが感染しちゃうよ！」

「「「ほつとほつと」」」

ほつとほつと

B Y 作者 招き猫さん

#### 第48話虫大好き少年の仕打ち（後書き）

お久しぶりです^^

高校受かりましたあ！！当然の結果！

ミラクルランドって言うのは、ファールブルの飼っている蟋蟀の名前です。

ネーミングセンスがズレてるとか言わないの！  
カッコいいやろ？

## 第49話謝罪会見

パシャッ！ カシャッ！ パシャパシャパシャ！

「みなっさん何か一言！」

「読者に申し訳ないと言う気持ちはなかったんですか？！」

「みなっさん答えてくださいよ！」

パシャッ！ カシャッ！ ギツチョンバツジョン！

ああ・・・フラッシュが眩しいぜ・・・

いや、この眩しさは俺のモノかもしれねえ・・・

ああ・・・眩しい・・・俺・・・

ああ・・・ああ・・・ああ・・・

なんでこんなところにいんだろ？

つてわけで、みなっつす！

おひさ〜（^^）だね

なんつうか、まあ・・・何も言わずに本編入っちゃおっかでわでわ〜

「ってダメに決まってるだろー！ー！！！」

ダメなの？

「ダメダメ！」

フシギダネ？不思議だね？

「ポケモンじゃないからあー！！しかもフシギダネはダメじゃないからあー！」

さとおしい

「んな、ピカチュウみたいに言わないで！？」

五月蠅い。

ひろしのくせに出てクンナ  
吐き気が・・・ゲロゲロ・・・うえええ・・・  
食ったモン出ちまったじゃねえか

「リアルに！？ってか酷いよ！サボってたの自分じゃな・・・」ばこーん

「ぐぼあー！！」

良い音したね。

超清しい朝だわ^^ほんとにしゅっしゅ（手を消毒ちゅー）



「消毒つて！おい！」ずーん！メキメキ

「ぶおわあー！！」

「醜い声出しトンちゃうでー マジキモい。ドンが2個つくぐらい引くわあ」

おッ！招き猫さんひつさぶー

「ひつさぶー いやあ、わいの醜いセンサーが反応してここまで来てもたわー」

あんな醜い汚物もののためにやで？！わい親切」

招き猫さんの頭の毛？逆立ってるねえ 鬼太郎みたいに！  
それが反応するのは、ひろしと糞ナブツブー×だけなんやろなあ

「ま、招き猫さ・・・ぐはあ！ぐほわあ！ぶはあ！ぶおわあー！」

今の音を描写するのは無理があるね。

限界だよ。いろんな意味で・・・ね（笑）

「はあ・・・空しい・・・」

その言葉と伝家の宝刀猫パンチをひろしの体に刻んで、招き猫さんは帰って行きました。

その後ろ姿を・・・家政婦さんは見た！！

見てないけど！どっちやねん！！どっちもかなあ？なんでやねん！  
どないやねん！それはこっちのセリフや！

セリフとんなや！それもこっちのセリフや！いやいや、それは・・・

「もう止めようよ・・・読者様混乱してるからね・・・絶対」

うちは自由人だから

「済まされないからねッ!？」

黙れ。息絶えろ。

「いきなり!? いきなりっすか!？」

ほんま黙って。息臭いし、声なんか嫌いやから

「り・・・理不尽・・・」

ほんま黙れって

黙ってくれるんやったら、頭下げるわあゝ

「そ、そんなに・・・？」

もうええって。いちいち反応せんとして  
気持ち悪いし、気分悪いから

「じゃあ、何言われても黙ってると!？」

そうやで? だってそーいうキャラやる? 自分  
キャラ立てちゃんと出来んから後から出てきた奴のキャラに負けて  
元々薄い存在が無になっってきたとのやる?  
学習せえや。いい加減!

「・・・」

はい。黙秘

出番減って、なくなつて、忘れられていくんやろなあ

これ画像とか映像ないねんで？

音<sup>こゝろ</sup>発せんかったらおらんとおんなしやで？

馬鹿やな

「もうひろしの相手するのがダルイみたいやし、わいもダルイから  
そろそろ終わりにしよかあ　ぐだぐだでゴメーンな」

更新しただけいいやろ

#### 第49話謝罪会見（後書き）

すみません。

言うことそれだけやあ~~~~~!!!

ひろしの存在が悪いね。

すべてひろしのせいだね。

そうだよ。

別にみなつ悪くねえもん。

すべてクズのせいだろ？なあおい

そうだろうが

そうだよ。なんでこのうちが・・・ダルイんだよ・・・

なんだよ

ひろしって

そういうのもういいって

ってか、なんでひろしってひろしなんだよ

ひろしってなんで最初“ひ”なんだよ

ゴメンね^^みんな

## 第50話れつつ・ペーすぼーる？

カッキーン！

最早聞きなれた金属バットがボールに当たる音。

いや・・・ボールが金属バットに当たりにいつてるのかな？

まあ、いつか

んで、打ってるのは我がチームの1番バッター 淳！！

ってみんな知ってるかあ！知らない？まったまたあ！

そうなこと言つてえ「ごばあ！！！」

何？なんなんだ？？この目の前に広がる白い光景は・・・  
そうか・・・コレが・・・ボール・・・か・・・  
がく・・・（ひろしは息耐えた）

ちゃららん

鼻から牛乳

「つて！健太あー！！いきなりボール当ててくんの止めてよッ！！」

「悪い悪い、俺って醜い汚物<sup>もの</sup>見ると衝動的に体が動くんだよ！」

「どっという意味っすか！？」

「えっ？頭悪いな」

真顔でんなこと言わないで！

しかも、健太よか成績良いからね！

「っーか、取れないひろし！！！！お前が悪い！！！！いいか！？

健太の球を取れないお前が悪いんだ！！

次の地区大会に向けて、猛練習しようって時にそんなタルンダ顔と体でどうするにゃ！？

噛んだが気にするにゃ！！分かるか！？ひろし！！みんなが指揮を上げようっていう時にそんなにやことでどうちゆる！？」

「いや・・・ってか、噛みす・・・」

「分かってる！！！！いわなくていい！！！！ひろし！お前の気持ち  
は痛いほど分かっている。だから、何も言うにゃ！！！！」

みんなで！！このチーム全員れ！勝利と言う名の絆を手に入れよう  
ではないきや！！

そうだ！俺たちならにやれる！！！！よし！！！！みんなあの夕日  
に向かってキラキラの汗と涙をならしながら走りようではないか！  
！！さあ！！」

いやいやいや・・・

言いたいことわかってないじゃん・・・

んで、噛み過ぎだって・・・さすがキャプテン

「晃二、<sup>いっぴ</sup>1つだけ言わせてくれ」

いつになく真剣な顔の健太。

「にゃんら！？」

そして噛むキャプテン晃二

「今は昼間で、夕日なんて出てない。」

もっともな健太。

「俺の心の中ではいつでも昼間も夕方みよ関係にやい！！！！夕日も太陽もいつでも輝いているぜ！！！！」

「うん。黙れ」

「黙れば、160キロ出せるようににやるのきや！？！？！？」

「なるかあああああ！！！！！！」

健太がキレマシタ。

何故か健太と晃二は相性が悪い。 淳の占い記より

「俺はまだ小5だぞ！？小5のピュアな少年に今すぐ黙るから今すぐ160キロの球ほれだあ！？」

てめえ、フザケてんのか！俺はメジャーの選手か！？

それともアニメメジャーの五郎の大人版か！？それとも俺に人造人間にでもなれって言うてんのかあ！？」

「人造人間って・・・つぶ！あつはつはつはつは！！！！健太！おもしろいぞ！！！！」

じんぞ・・・つぶわつはつは！！！！じんぞ人間て！！！！何号だ？何号なんだ、健太ああ！！あつはつはつは！！！！」

「なんでソコでツボってんだよ！？」

健太の気持ち痛みほど分かるよ。（分かってほしくないと思う）

酷くない！？（黙れ）

・・・・・・（超SU・NA・O）

「はいはい！ブレイクブレイク、健太も晃二も落ち着こうよ。」

見かねたコナンくんが止めに入りますが・・・

「そもそもお前はなあ!!」

「何をそんなにやに怒ってるんだ!? 同じ釜の飯を食ったにやかじやないきゃ!!--!」

「食ってねえよ!!--!」

ぎゃーぎゃー

どうにもなりませぬね。

あーあーどーしたらいいのー

練習が出来ないよ!! G O G O G O!!

「ひろし気持ち悪い」

「淳いきなり出てきて、んなこと言わないで!?!」

「ってか、なんでみんな練習してないの? ダメじゃん」

若干キレ気味の淳。

すごい汗の量……1人で黙々とバッティング練習してたみたいだ。

「それが……健太と晃二がさあ……」

「健太くん、晃二くん!」

ん?……おおっとあ!!!--! 救世主登場 (キモいつて)

「何してるの? ダメだよ、練習しなきゃ……」

「遥……」  
はるか



「うおおお！！遙じゃないかあ！！！！」

このニコニコ、おどおどしている小さい生物は とつじやほのか 東條遙。  
うちの野球クラブ唯一のマネージャー。

言つとくけど、隣町の小学校である。何故マネージャーになれたかは謎である。

「淳くん1人で練習してたよ？練習終わりにはアイスがあるからみんな頑張つてね！！コーチがベーランの速かった人から選ばしてくるって！」

うおお！マジで！とか言うみんなの声。

さすが遙・・・部員の扱いはパーフェクトだ・・・そういうぼくもすっかりやる気になつてる！！

まあ、ぼくの作つたほうが美味しいけどね

「ぐはあ！！！！」

本日2度目の顔面ボールでした。

本日のベーラン（ベースランニングのことね）結果

1位	笹川健太	16秒85	5位	小南哲	17秒33
2位	今井晃二	16秒90	6位	浜中悠馬	17秒35
3位	山田淳	16秒99	7位	鳴海貴坐紀	28秒82
4位	鈴木ひろし	17秒16	他2名欠席		

記録者 東條遥

アイスは美味しく頂きました。

第50話れつつ・べーすぽーる？（後書き）

かなりの手抜きぶり・・・  
申し訳ない。

なんかダルクテ えへ  
いつなるか知らんけどちゃんと書くからね

野球は大切やからな！！！！

でわでわ^^

まったねーーーーー

## 第51話かーんけーないさー

毎度！

もうかつてまっか？

ぼちぼちでつかあ！

関西万歳！

おっす オイラ招き猫だＺＥ（＾－＾）ノ

何気、初視点かもやなあ・・・主人公やのになあ（笑）

まあ、わいはさすらいの招き猫やからな、ふっ・・・（キラーン）

おいおいー、サインは後にくれやッ

プロポーズされても、答えねえぜ？

わいはみんなのモノやからな 愛されてまーす！

でも・・・君だけは違うんだ・・・君を想うと・・・どうしてなんだろう？

こんなにも・・・愛しい・・・キットカット・・・

キットカット愛してる。

キットカット〓チョコレート

キットカットめっちゃうまいよなあ！

わい、めっちゃ好っきゃねん！

あッそおそお！今日はなあ、ひろしの学校にひろしつぶ・・・暇つぶししに来てんねん

NOWから教室覗くでー！なんかイケナイき・ぶ・ん やな！

「マジでさー、チョコレートはエアロが最強だろ？」

「はあ！？チョコボールだろっ」

「業務スーパーの生チョコ」

「うみあいのチョコタル」

「なみあいの純力カオ100%」

「ビスケットチョコ」

「トリュフ？ソーセージだって！」

腐ってるな。この小学校はこのなかキットカットに決まってるやろ！！  
教育がなっていないとちやいまつかあ！？  
出るところ出てもらうで本間に・・・

「意味わかんねえ！チョコボールが良いに決まってるだろ？」

「・・・健太子ども」（ボソツ）

「聞こえてんぞコラア！淳こそなあ、カカオ100%ってなんだよ？にげーわ」

そうやよなあ！チョコが苦くてどーすんねんなあ！

あの甘さこそが癒しポイントやる！

「えー、大人って言うてよ」

「苦いだけだろ」

「ひどー！健太・・・」

・・・なんもコメントすることないわ。

「健太の甘さ、淳の苦さ、2人が合わさり、交じり合った時それは“愛”という形で最強になるんじゃないのかな？」

「真剣な顔こもしてキモいこと言ってるじゃねえ！！！！！！」ばこーん

「ぐはあ！！！！！！！！！！」

「健太ってば、照れちゃってかーわーいーいー」

「寒気さむのする喋り方してんじゃねえ！！」

「オカンの悪寒・・・つぶ」  
「番なに言ってるの?!」

近頃のガキはマセマセやなあ・・・  
時代の移り変わりって怖いわ! 幸せにしたれよ!!  
つぶ・・・オカン・・・つぶ・・・悪寒・・・ぶはっ・・・

「山田ジョイマンにしようカー!」

「急にどうした、バイナツツプル?」

「番、バじゃなくてパ! ツ2個もいらねーぞ!」

「パセ?」

「俺は、パじゃなくてバでいいなあ!!! 七じゃなくてナナだなあ  
!!!!!!」

「バいつぱいだねえ」

「やるだろ? 繁殖中ってやつだ」

「淳、番2人で分かりあう? なよっ!!」

「健太 ライバル出現にあさり・・・焦りか!？」

「噛んでんじゃねーよ」ばちこーん

「ぐぼはあ!」

うんうん

ひろしはええフレンド!! BEST FRIEND がおるんやなあ  
暴力と言う名の幸福をくれる。

よかったなあ・・・もっと幸福を与えてくれるようお祈りしとります。  
ラーメン

「こちら実況のひろしです。健太さん恋のライバル出現ですが、どうハートをがっちりフライのようにキャッチし続けるおつもりですか?!!」

「フライのが大事」

「エビフライ　おあ　柿フライ」  
「フライ違いだっ！」（ビシッ）  
「しかも柿て！！」

誰が何ゆうつんのか分からへんわ！

分かるのは、わいがキツトカットと言つ名の君を愛しているということだけや・・・

ナンシー・・・

えッ！？招き猫さん・・・

ナンシー

だ、ダメよ！招き猫さんには家族がいるもの！！！！

ふっ、君と一緒にいれるのなら、そんなものコーヒークップに風船をつけて空に昇華するぜ

ま、招き猫さん！

ナンシー！

こうして、招き猫さんとナンシーは仲良く毎狩りに行きましたとさ。

第51話かーんけーないさー（後書き）

なんだろーねコレ（笑）

チヨコ関係ないし、普通の日常なのかも怪しい！  
まあ普通だろー！！

大丈夫イ（＾　＾）V

やっぱ落ち着くわー　なにがやる？  
なにかやっ

更新せんくてゴメンなあー・・・

部活ビシィやねん！けど楽しくやっとするで  
今もめっちゃ眠す

NOWから寝るわーーーー！！！！！！

おやすみ

みんな風邪ひきなやー



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5890e/>

---

招き猫とお金とぼく！？バージョンアップ

2010年10月31日14時03分発行